

第 1 章 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、令和 2 年 3 月に策定した「狛江市男女共同参画推進計画～誰もがともに認め合い、個人として尊重され、自分らしい生き方ができるまちを目指して～」の改定に向けて、狛江市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握するために実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査対象：満18歳以上の市民（令和 6 年 4 月 1 日時点）
- (2) 対象者数：1,500 人（女性 750 人、男性 750 人）
- (3) 抽出方法：狛江市住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配布、郵送・ウェブ回収
- (5) 調査期間：令和 6 年 5 月 15 日～令和 6 年 5 月 31 日

3. 回収結果

	サンプル数	回収率
配布数	1,500 票	27.9%
回収数	419 票 (女性：216 票 男性：193 票 無回答：10 票)	

4. 調査項目

調 査 項 目
<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本属性（F 1～F 6） (2) 男女共同参画社会の推進について（問 1～問 4） (3) 就労環境、ワーク・ライフ・バランスについて（問 5～問 12） (4) 家事、育児、介護について（問 13～問 19） (5) ドメスティック・バイオレンスについて（問 20～問 22） (6) ハラスメント、ストーカーについて（問 23～問 26-1-2） (7) セクシュアル・マイノリティ（LGBT など）について（問 27・問 28） (8) 社会参加について（問 29・問 29-1） (9) 市の施策について（問 30・問 31）

5. 報告書の見方

- (1) n (件数) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 回答はすべて百分率 (%) で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (3) 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) クロス軸の分類や質問における選択肢を統合し、【 】を用いて記述している場合がある。

例

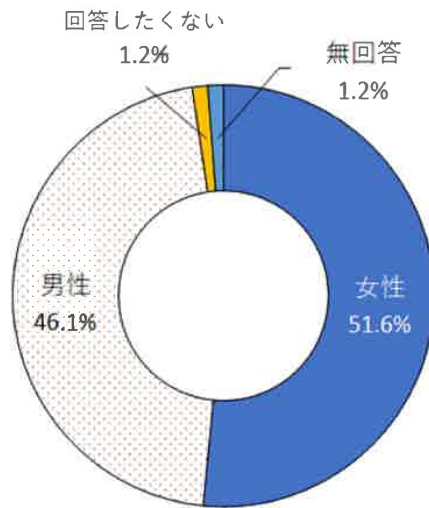
「主に妻」と「主に妻で夫が協力」を統合して【妻が担う】

- (6) 割合の表記については、下記のとおりとする。
例：40%台
- (7) 「6. セクシュアル・マイノリティ (LGBTなど) について」の設問以外については、回答者数が少数のため、性別無回答者分を除いている。

表記	約4割 (4割)	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱 (5割)
範囲	40.1~40.9% (40.0%)	41.0~43.9%	44.0~45.9%	46.0~48.9%	49.0~49.9% (50.0%)

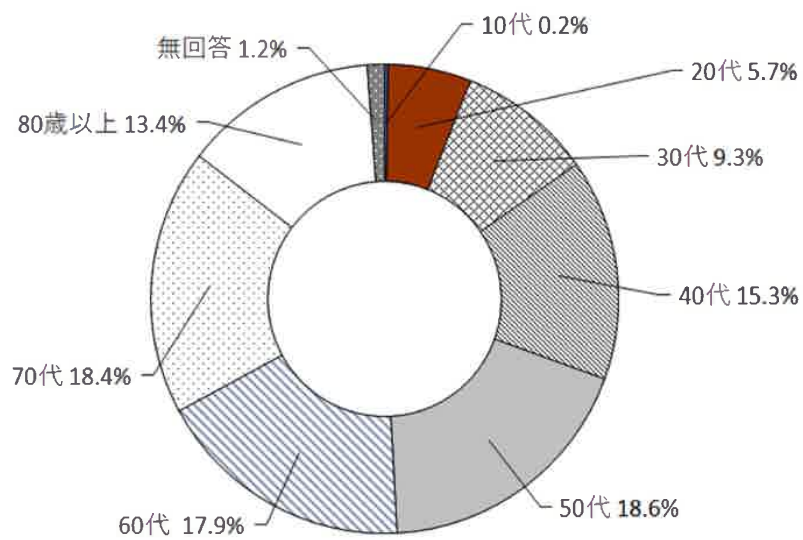
第2章 調査回答者の属性

1. 性別



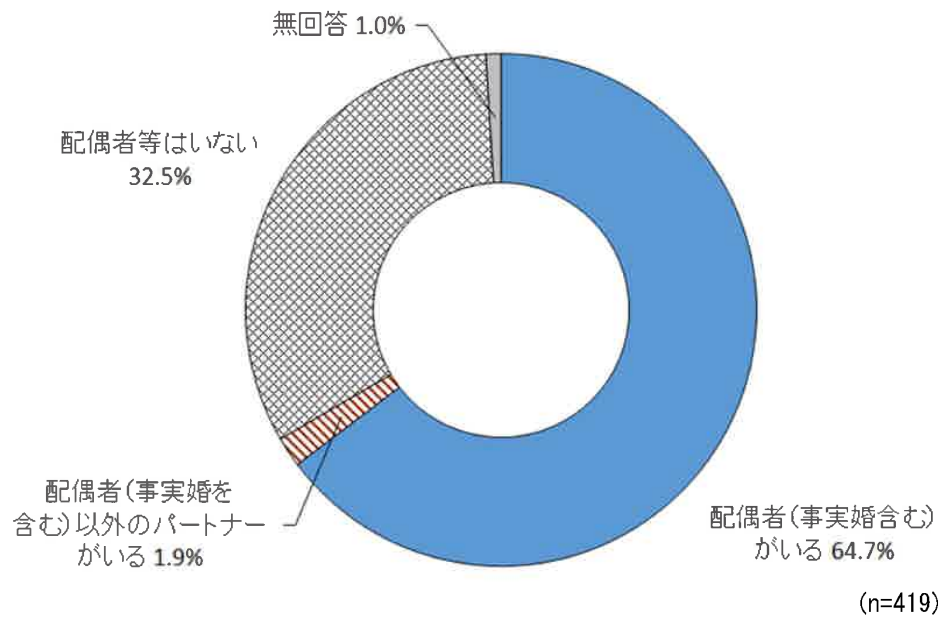
(n=419)

2. 年代

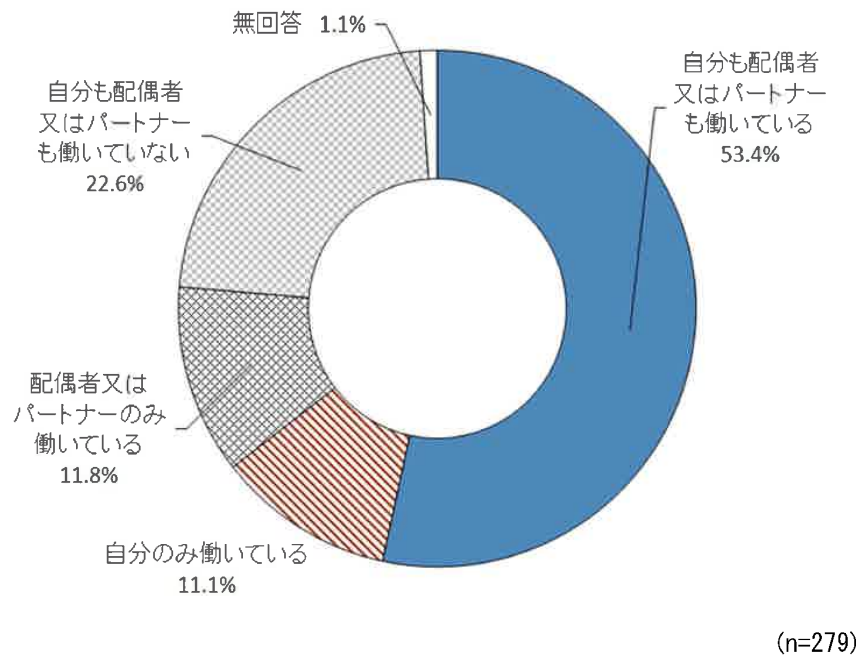


(n=419)

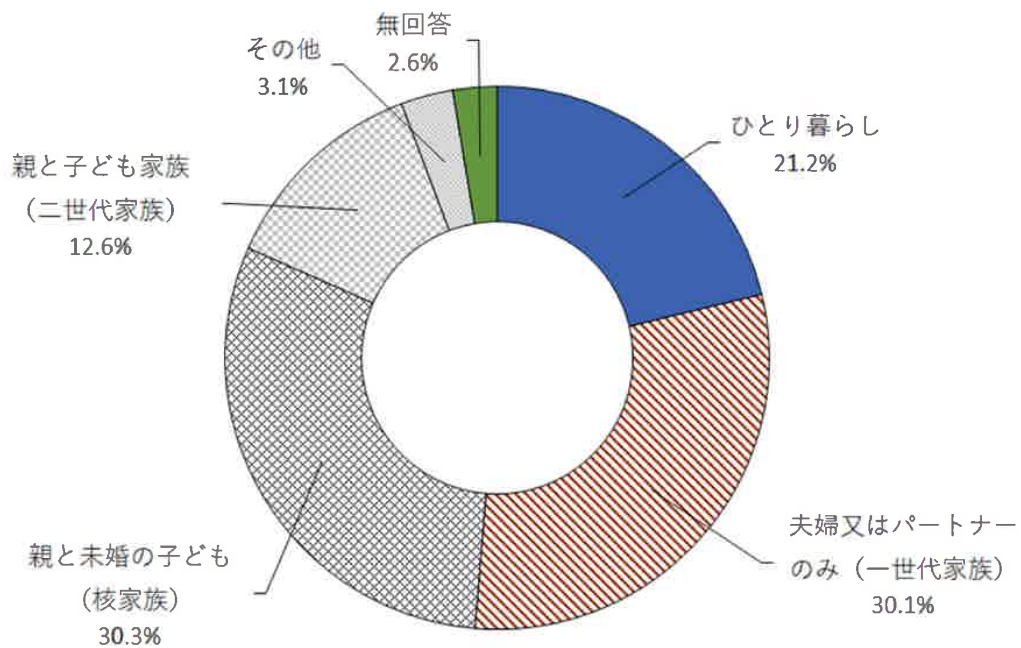
3. 配偶者等の有無



4. 世帯の働き方（「配偶者等がいる」方への質問）

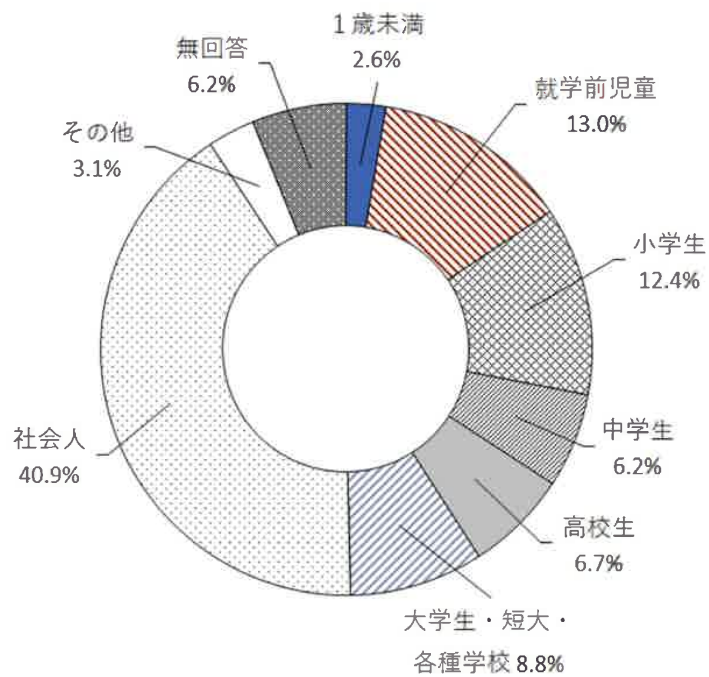


5. 家族構成



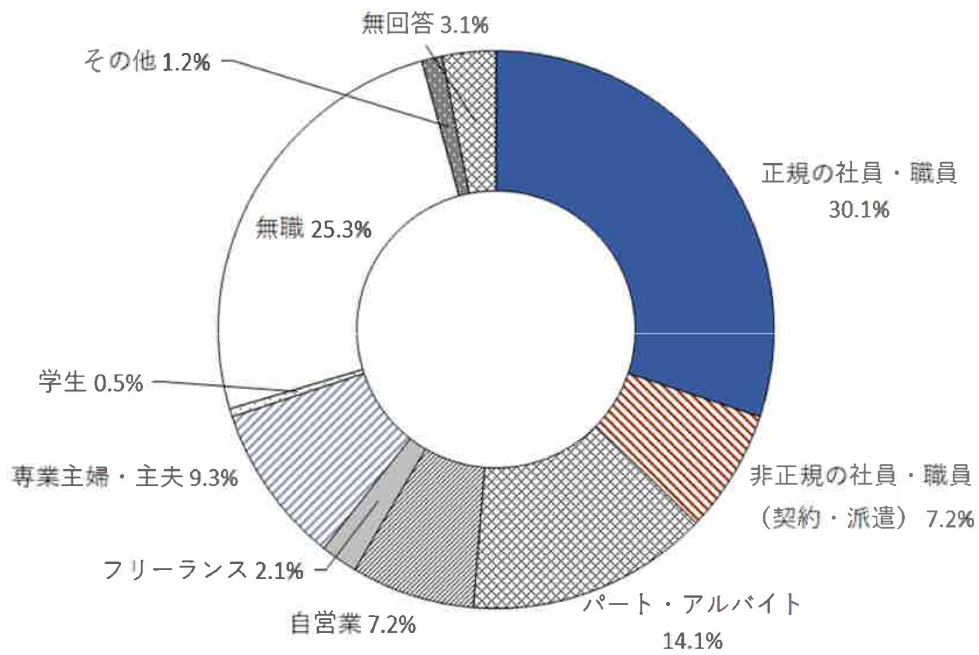
(n=419)

6. 一番下の子どもの状態(「子どもがいる」方への質問)



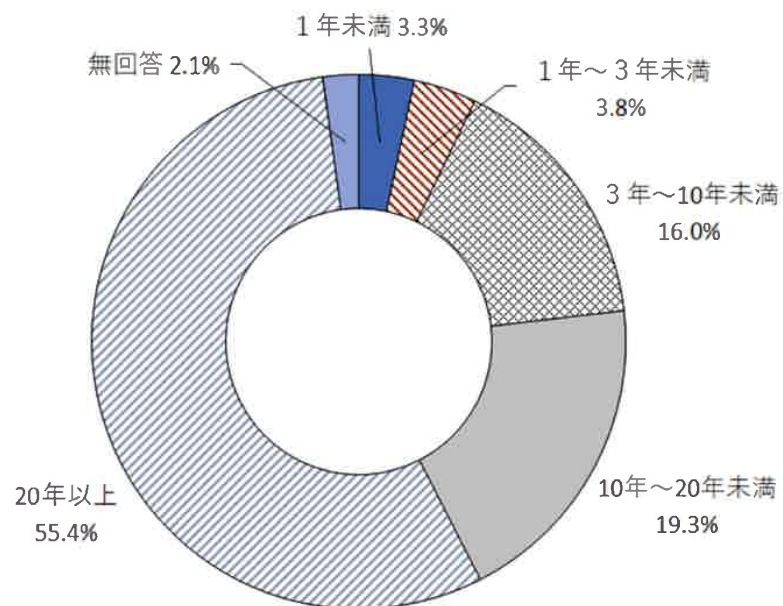
(n=193)

7. 職業等



(n=419)

8. 居住年数



(n=419)

第3章 調査結果の詳細

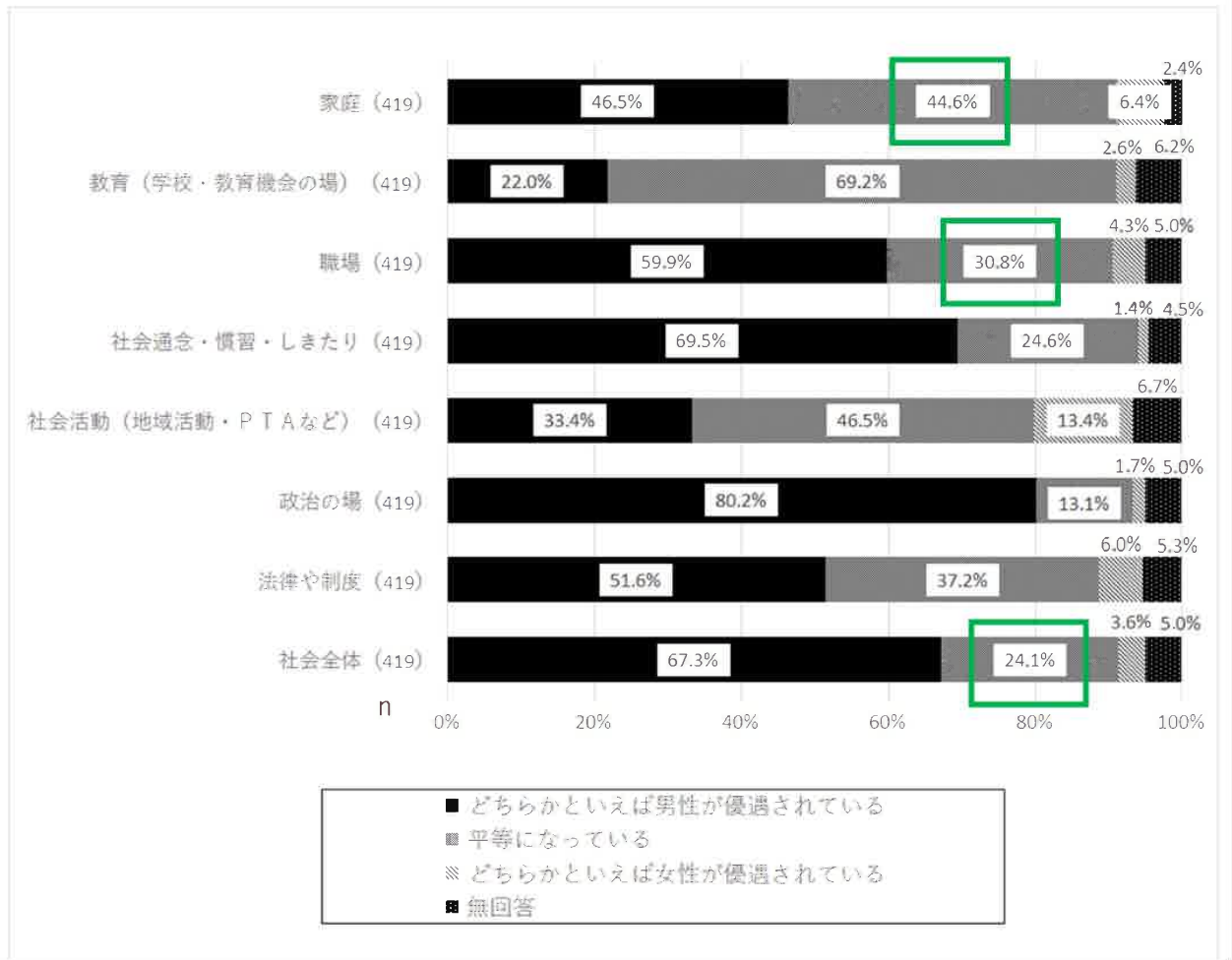
1. 男女共同参画社会の推進について

(1) 男女の地位

◇「教育」について「平等になっている」が約7割

問1 あなたは、次のような分野における男女の地位は平等になっていると思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

図1-1 男女の地位



男女の地位については、「平等になっている」と思う分野は「教育（学校・教育機会の場）」（69.2%）が最も多く、次いで、「社会活動（地域活動・PTAなど）」（46.5%）、「家庭」（44.6%）、の順となっている。

「どちらかといえば男性が優遇されている」と思う分野は、「政治の場」（80.2%）が最も多く、次いで、「社会通念・慣習・しきたり」（69.5%）、「社会全体」（67.3%）の順となっている。

「どちらかといえば女性が優遇されている」と思う分野は、「社会活動（地域活動・PTAなど）」（13.4%）が最も多く、次いで、「家庭」（6.4%）、「法律や制度」（6.0%）の順となっている。

平成31年度調査との比較

全項目において「平等になっている」の割合が増加。上位は教育の1位は同様で、今回は社会活動が前回の3位から2位に、「家庭」が前回の2位から3位となっている。また、教育以外において「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が前回より増加。

平成31年度調査との比較

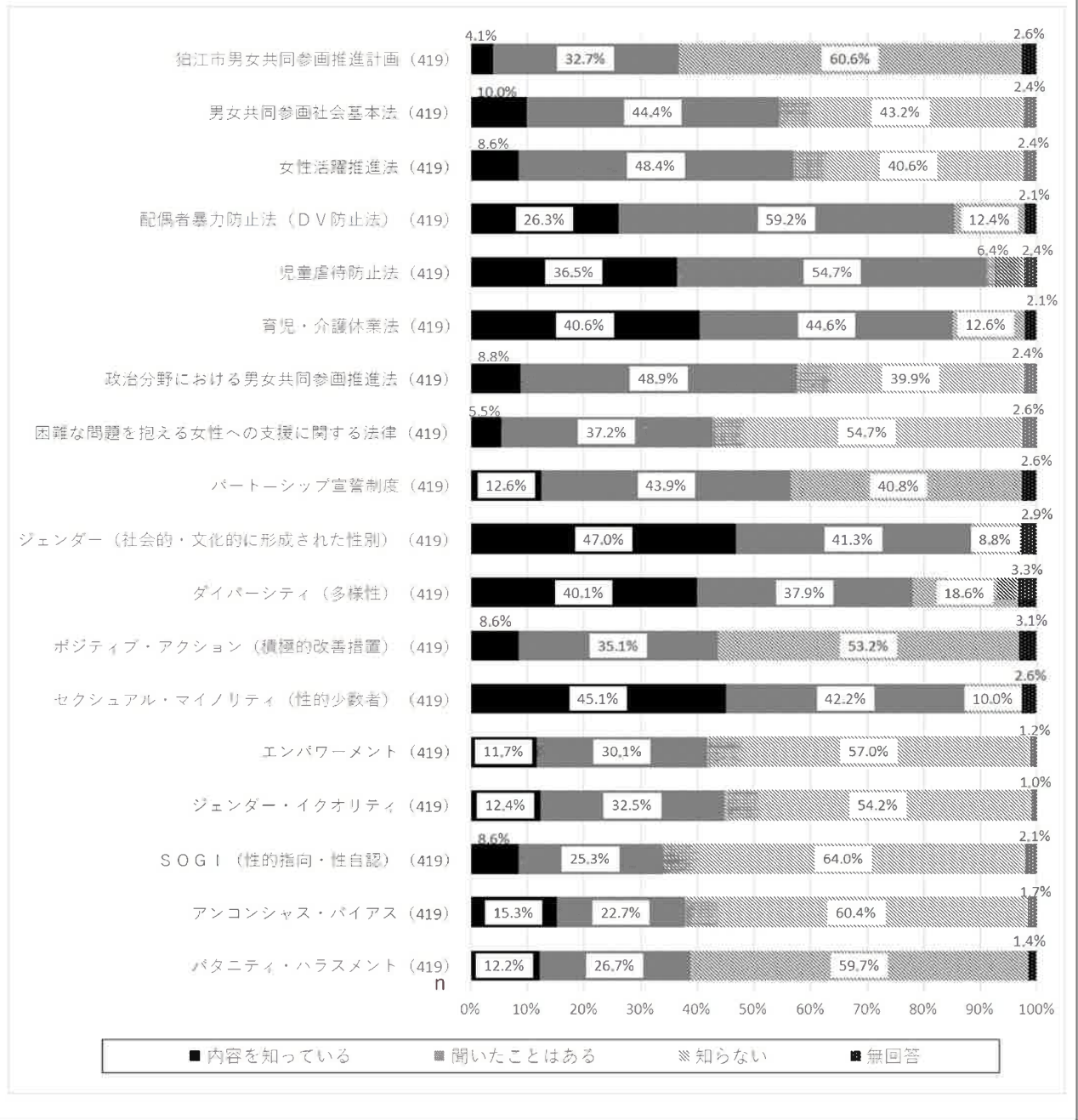
「内容を知っている」の割合は全体的に減少。
ジェンダーについては増加。

(2) 男女共同参画に関する知識

◇「ジェンダー」について「内容を知っている」が5割近く

問2 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する社会の動きや言葉等を知っていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図1-2 男女共同参画に関する知識



男女共同参画に関する社会の動きや言葉等については、「内容を知っている」は、「ジェンダー」(47.0%)が最も多くなっている。「聞いたことはある」は、「配偶者暴力防止法」(59.2%)が最も多く、次いで、「児童虐待防止法」(54.7%)、「政治分野における男女共同参画推進法」(48.9%)の順となっている。

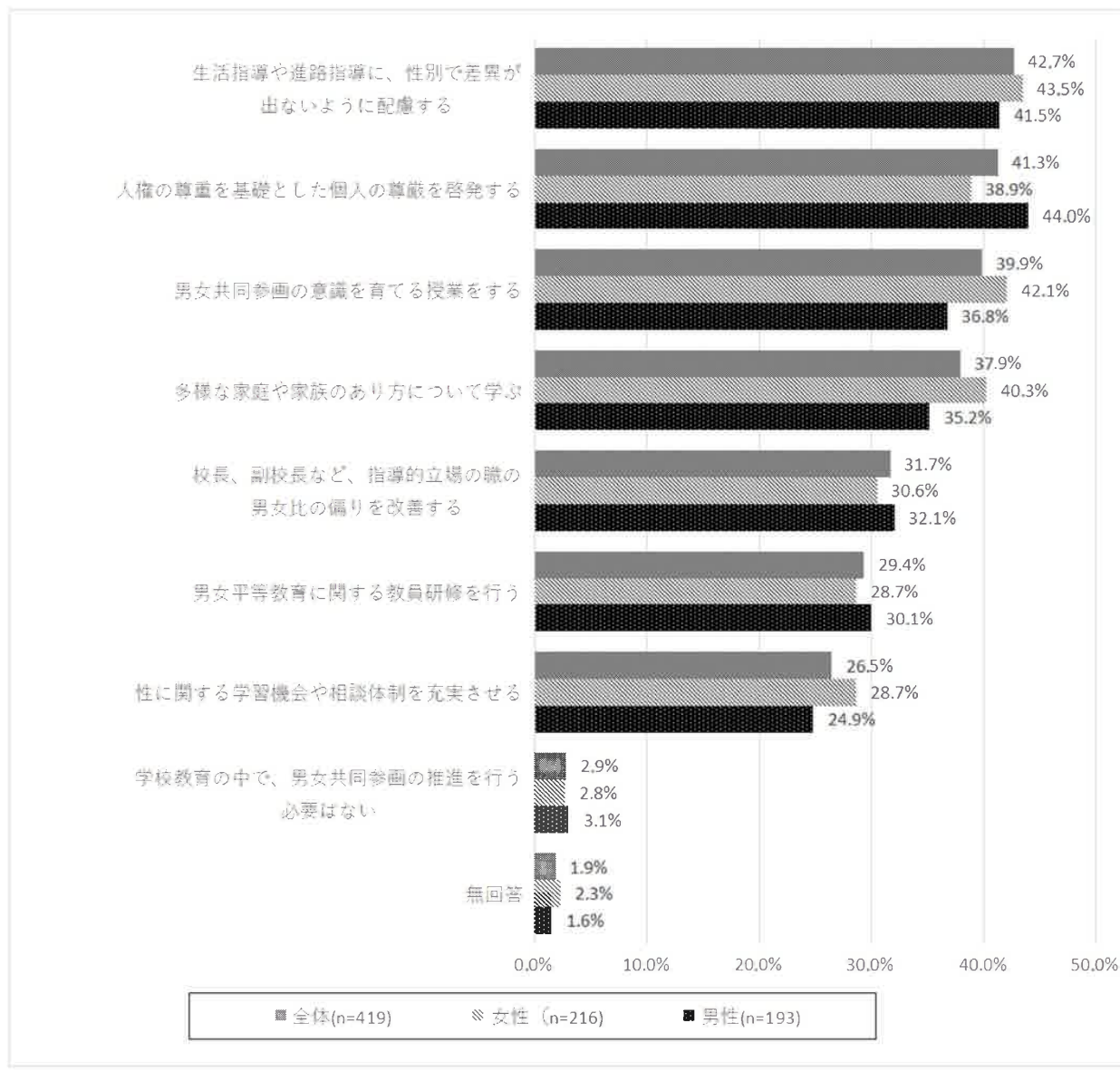
一方、「知らない」は、「SOGI」(64.0%)が最も多く、次いで、「狛江市男女共同参画推進計画」(60.6%)、「アンコンシャス・バイアス」(60.4%)の順となっている。

(3) 学校における男女共同参画の推進について必要なこと

◇「生活指導や進路指導に、性別で差異が出ないように配慮する」が4割強

問3 あなたは、学校における男女共同参画の推進について、何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

図1-3 男女平等教育について必要なこと



学校における男女平等教育で必要なことについては、「生活指導や進路指導に差異がないように配慮する」(42.7%)が最も多くなっている。次いで、「人権の尊重を基礎とした個人の尊厳を啓発する」(41.3%)、「男女共同参画の意識を育てる授業をする」(39.9%)の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「生活指導や進路指導に差異がないように配慮する」が2.0ポイント高く、男性では女性よりも「人権の尊重を基礎とした個人の尊厳を啓発する」が5.1ポイント高くなっている。

平成31年度調査との比較

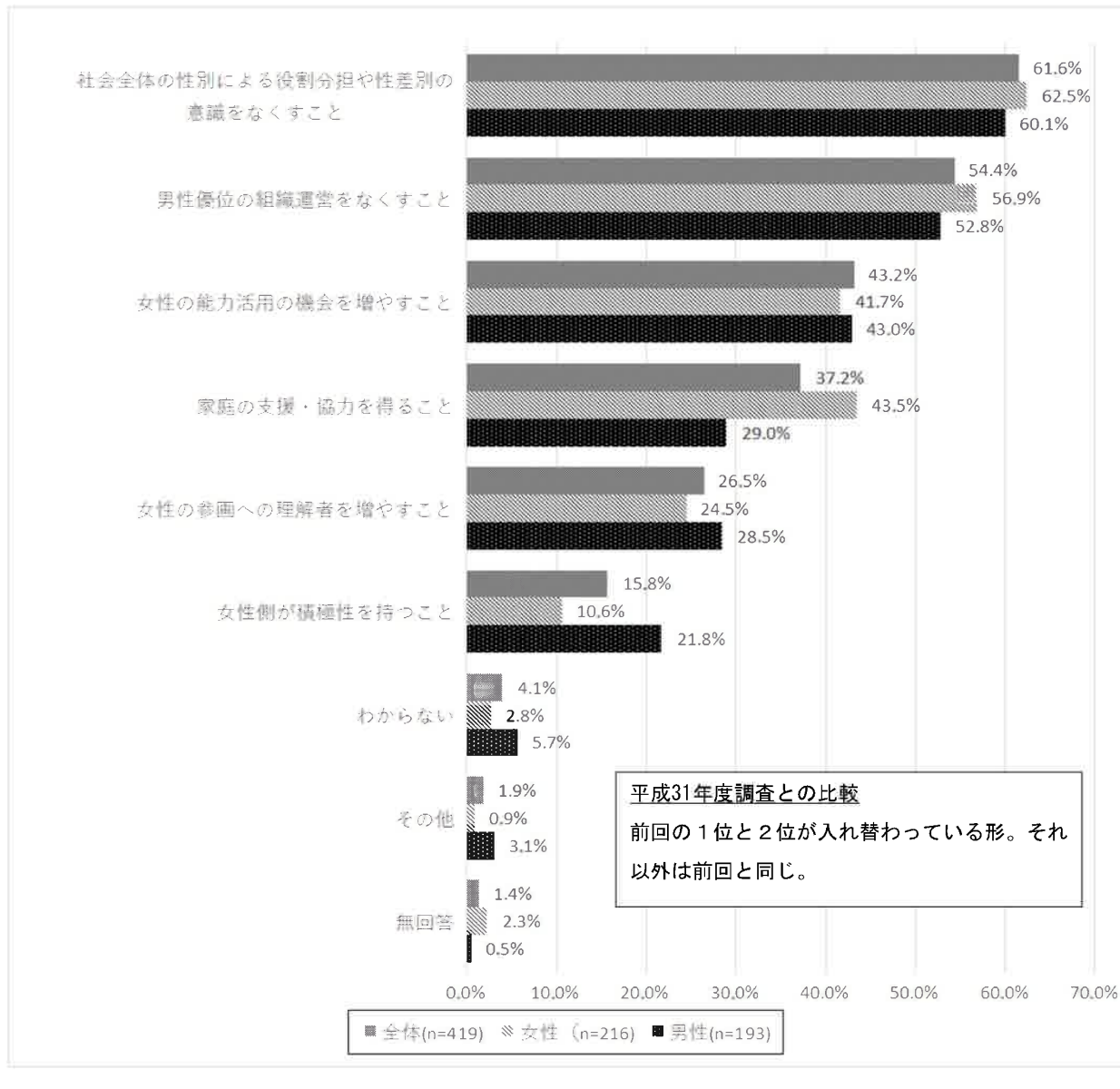
平成31年度については、上位から「多様な家庭や家族のあり方について学ぶ(45.7%)」、「男女平等の意識を育てる授業をする(45.0%)」、「人権の尊重を基礎とした個人の尊厳を啓発する(41.2%)」の順。

(4) 女性の参画を推進するために必要なこと

◇「社会全体の性別による役割分担や性差別の意識をなくすこと」が6割超

問4 あなたは、政治や企業活動、地域活動において、政策の企画や方針決定の過程における女性の参画を推進するためには何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図1-4 女性の参画の推進



政治や企業活動、地域活動において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画を推進するために必要なことについては、「社会全体の性別による役割分担や性差別の意識をなくすこと」(61.6%)が最も多くなっている。次いで、「男性優位の組織運営をなくすこと」(54.4%)、「女性の能力活用を増やすこと」(43.2%)の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「家庭の支援・協力を得ること」が14.5ポイント高くなっている。

「その他」として、「法令で推進」、「男女問わない能力主義」、「世代交代の推進」、「現状で十分」等が挙げられた。

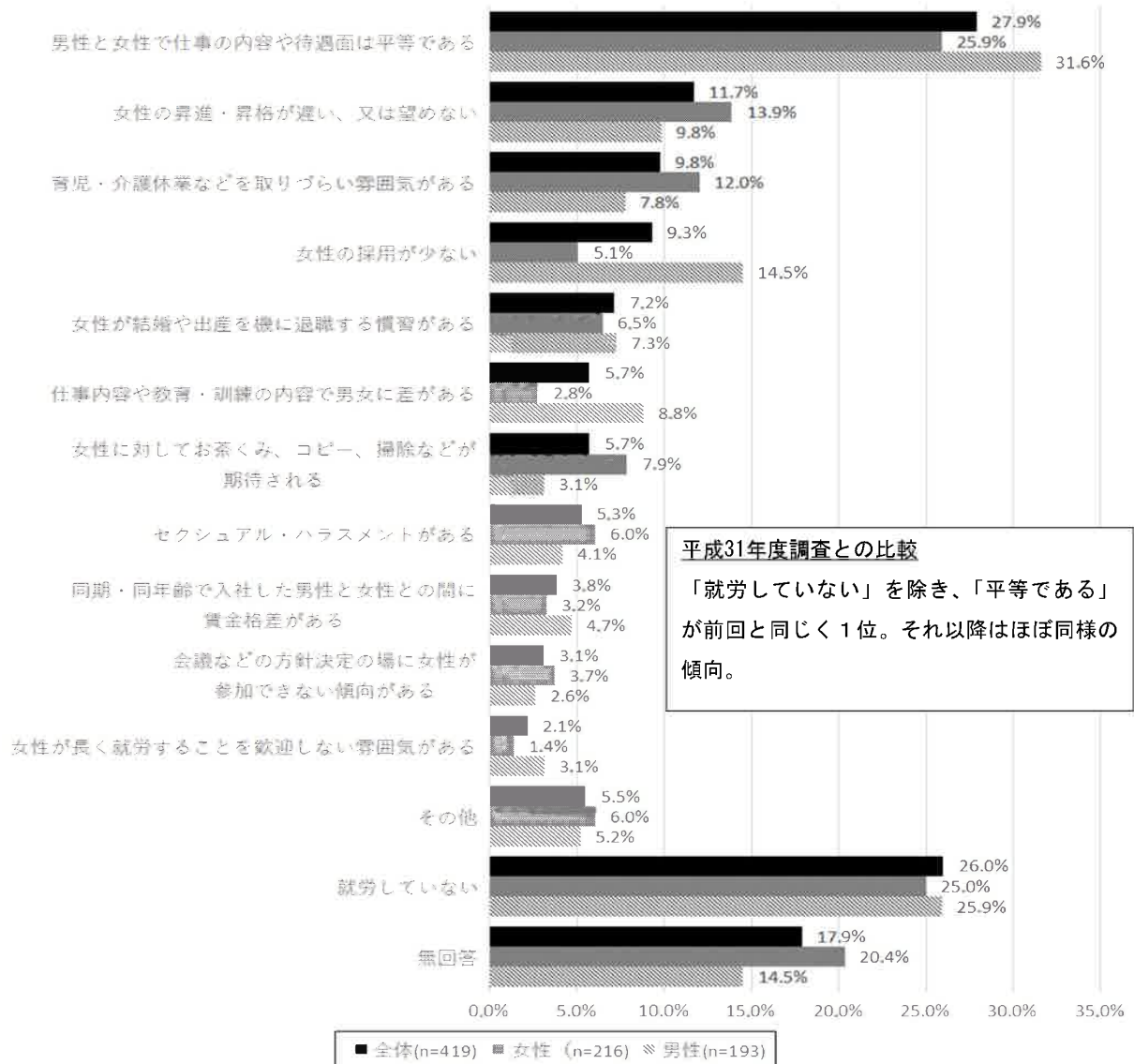
2. 就労環境、ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 仕事の内容や待遇面での不平等

◇「男性と女性で仕事の内容や待遇面は平等である」が3割近く

問5 あなたが現在就労している所では、仕事の内容や待遇面で次のようなことがありますか。
(○はいくつでも)

図2-1 仕事の内容や待遇面での不平等



現在就労している所での仕事の内容や待遇面においては、「男性と女性で仕事の内容や待遇面は平等である」が最も多く、27.9%となっている。

また、現在就労している所での仕事の内容や待遇面における不平等については、「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」(11.7%)が最も多く、次いで、「育児・介護休業などを取りづらい雰囲気がある」(9.8%)、「女性の採用が少ない」(9.3%)の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「女性の採用が少ない」が9.4ポイント高くなっている。

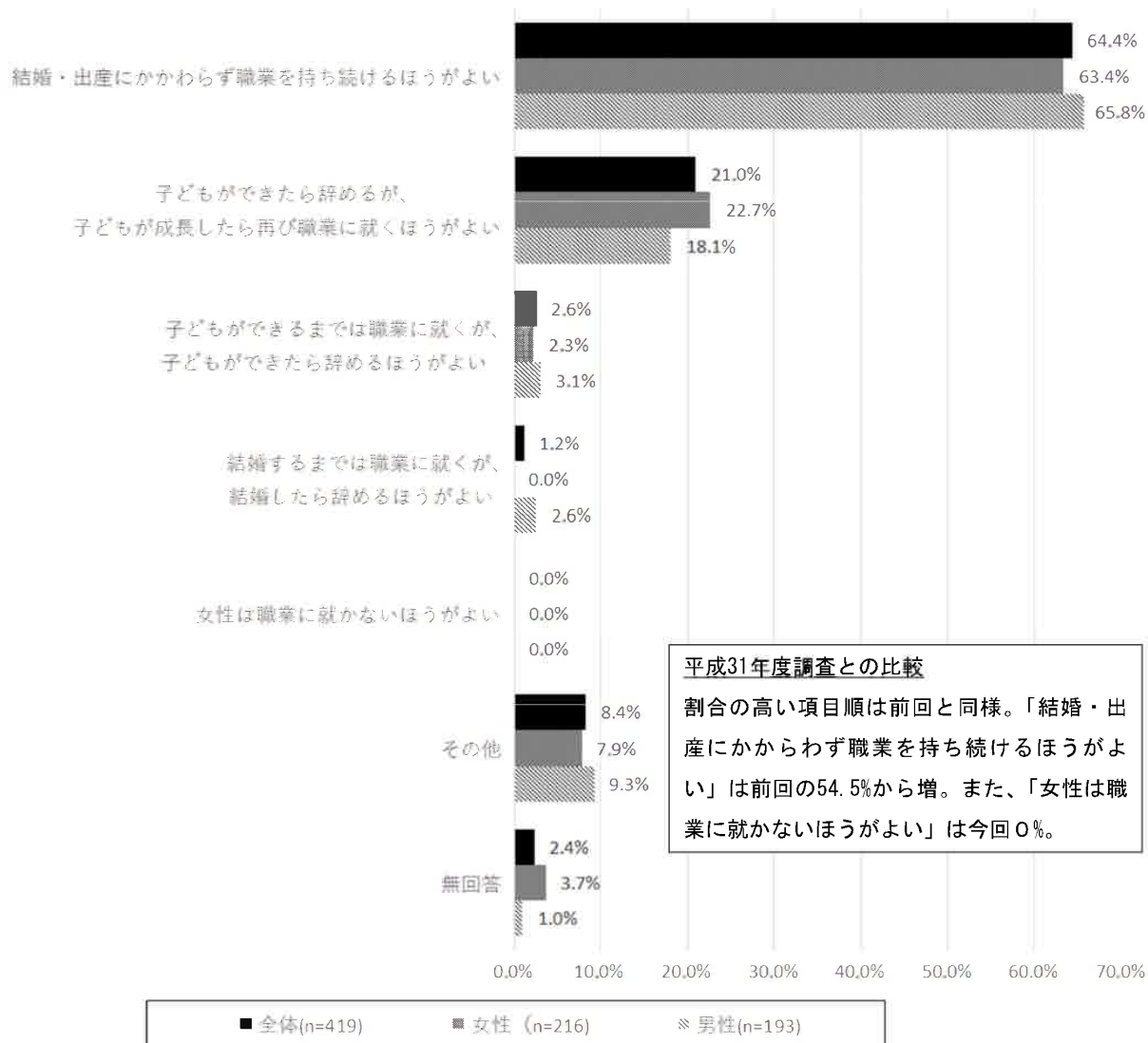
「その他」として、「女性(男性)しかいない」、「自営業」、「女性が優遇されている」、「人員が足りない」等が挙げられた。

(2) 女性が職業に就くこと

◇「結婚・出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい」が6割台半ば

問6 女性が職業に就くことについて、あなたの考えに近いものはどれですか。(〇は1つだけ)

図2-2 女性が職業に就くこと



平成31年度調査との比較

割合の高い項目順は前回と同様。「結婚・出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい」は前回の54.5%から増。また、「女性は職業に就かないほうがよい」は今回0%。

女性が職業に就くことについては、「結婚・出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい」(64.4%)が最も多くなっている。次いで、「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい」(21.0%)、「子どもができるまでは職業に就くが、子どもができれば辞めるほうがよい」(2.6%)の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「子どもができれば辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい」が4.6ポイント高くなっている。

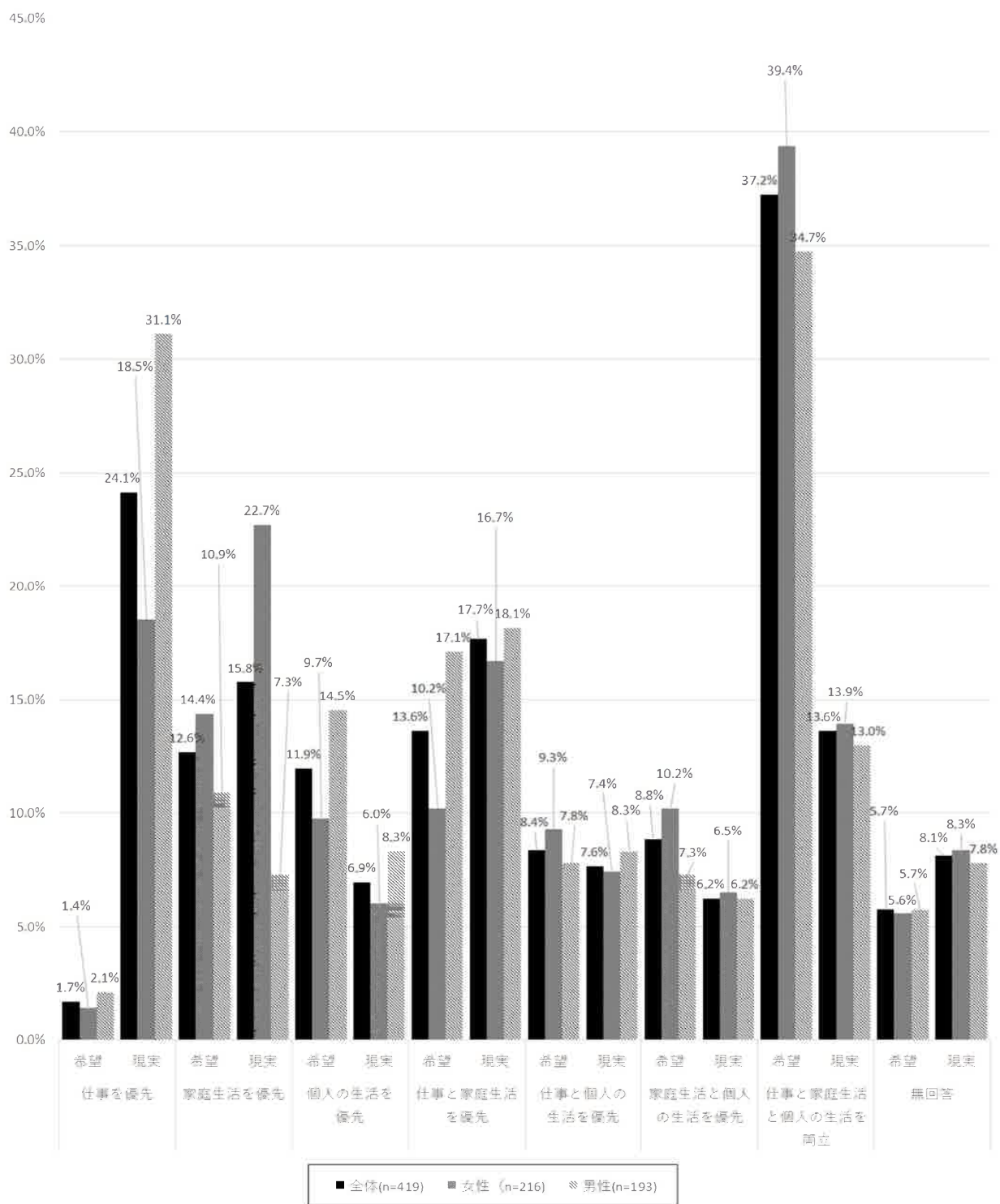
「その他」として、「本人の意思を尊重すればよい」、「個人の自由であり、他人が意見することではない」、「自分の希望に応じて決められればよい」、「周りが女性の判断を尊重する」等が挙げられた。

(3) ワーク・ライフ・バランスの状態

◇『希望』は「仕事と家庭生活と個人の生活を両立」、『現実』は「仕事を優先」

問7 ワーク・ライフ・バランスは、仕事、家庭生活、個人の生活、それぞれの活動を自分の希望するバランスで実現できる状態です。あなたの希望と現実に近いものはどれですか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図2-3 ワーク・ライフ・バランスの状態

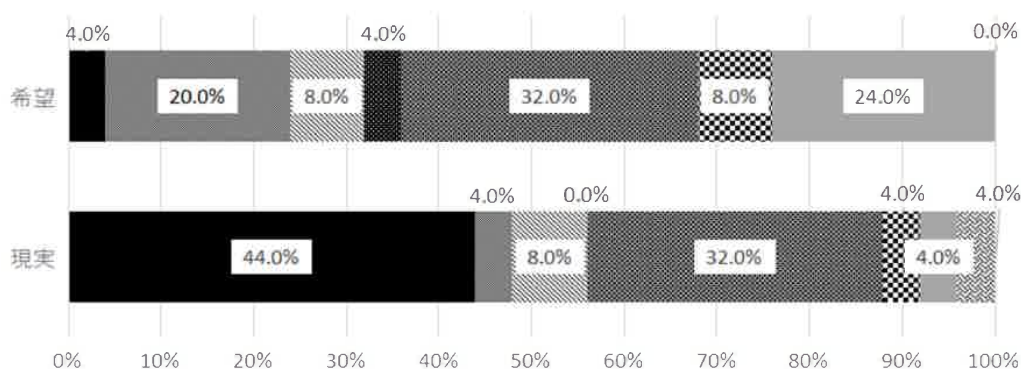


ワーク・ライフ・バランスについては、『希望する状態』は、「仕事と家庭生活と個人の生活を両立」(37.2%)が最も多く、4割近くがバランスのとれた状態を希望している。しかし、『現実の状態』は、「仕事を優先」(24.1%)が最も多く、次いで、「仕事と家庭生活を優先」(17.7%)、「家庭生活を優先」(15.8%)の順となっている。

性別でみると、『希望する状態』は、「仕事と家庭生活と個人の生活を優先」が女性(39.4%)、男性(34.7%)ともに最も多くなっている。一方、『現実の状態』は、女性は「家庭生活を優先」(22.7%)が最も多く、男性よりも15.4ポイント高くなっている。また、男性は「仕事を優先」が最も多く、女性よりも12.6ポイント高くなっている。

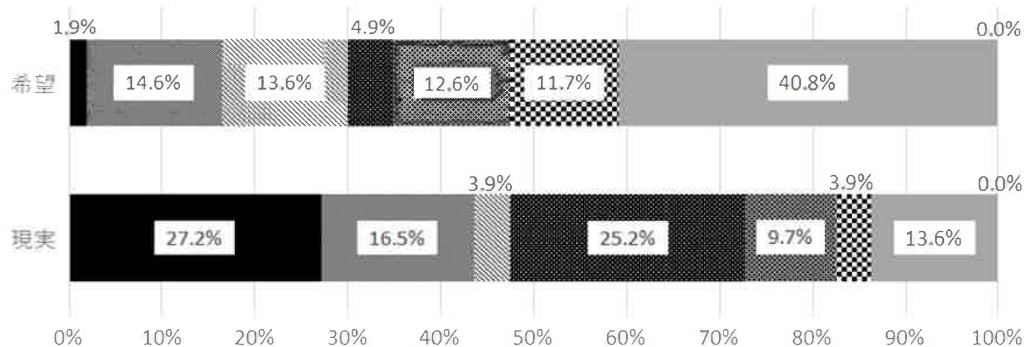
図2-3-1 ワーク・ライフ・バランスの状態(年代別)

ア) 10代・20代 (n=25)



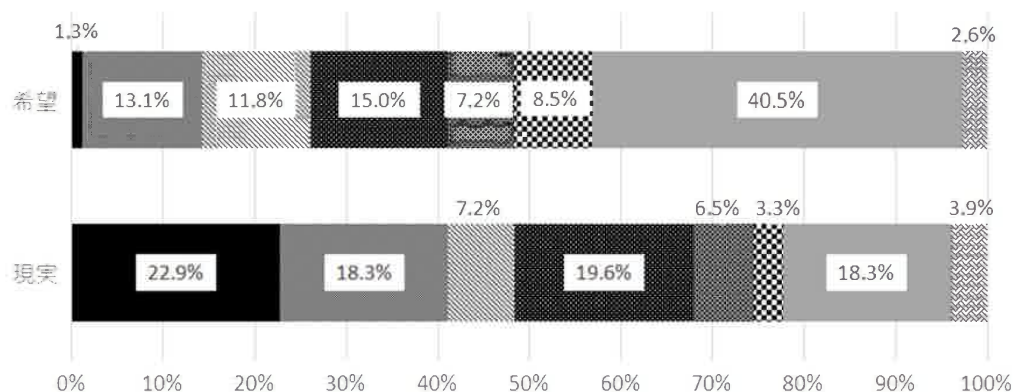
『希望する状態』は、「仕事と個人の生活を優先」(32.0%)が最も多く、『現実の状態』は、「仕事を優先」(44.0%)が最も多くなっている。

イ) 30代・40代 (n=103)



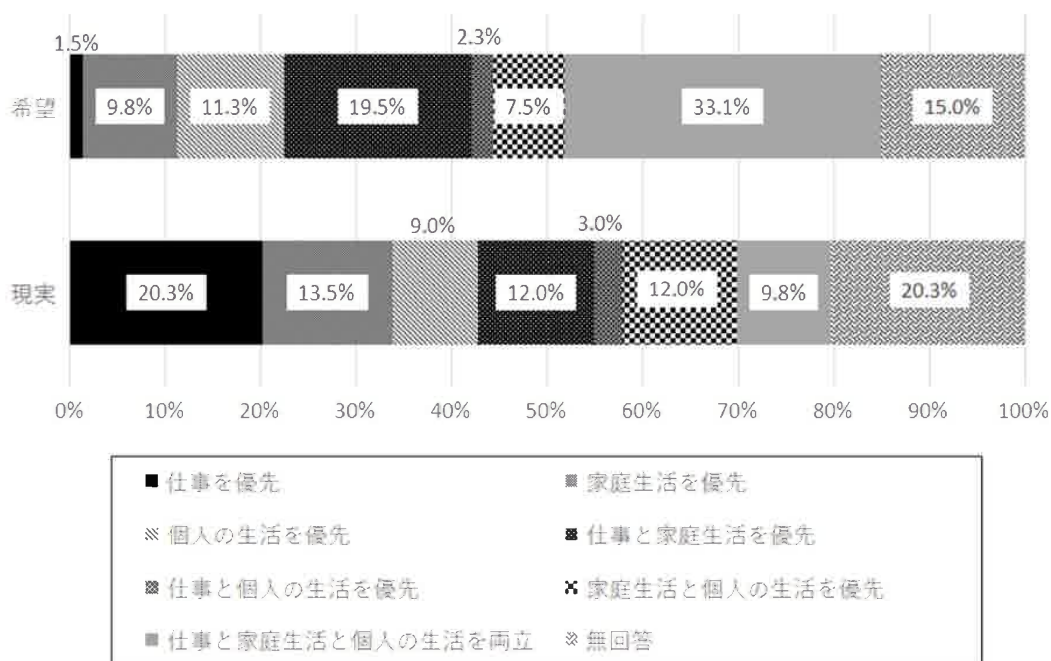
『希望する状態』は、「仕事と家庭生活と個人の生活を両立」(40.8%)が最も多く、約4割となっている。『現実の状態』は、「仕事を優先」(27.2%)が最も多く、次いで、「仕事と家庭生活を優先」(25.2%)となっている。

ウ) 50代・60代 (n=153)



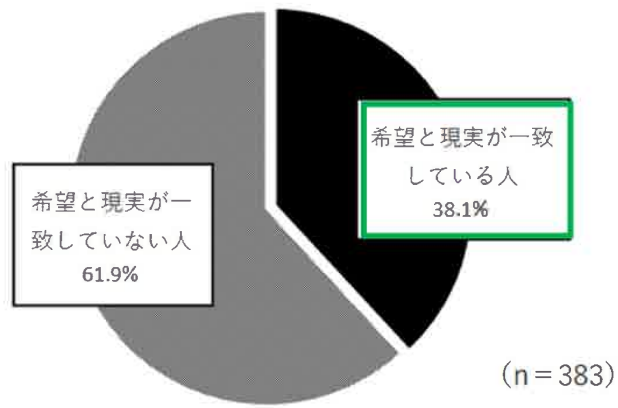
『希望する状態』は、「仕事と家庭生活と個人の生活を両立」(40.5%)が最も多く、30代・40代と同様に約4割となっている。『現実の状態』は、「仕事を優先」(22.9%)が最も多く、次いで、「仕事と家庭生活を優先」(19.6%)となっている。

エ) 70代・80代 (n=133)

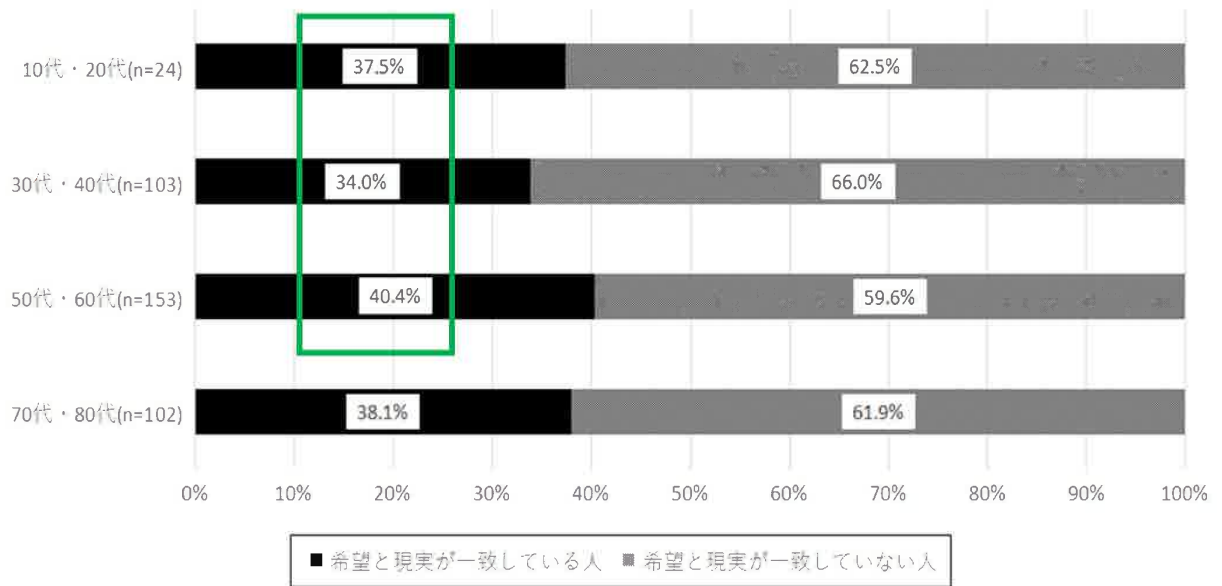


『希望する状態』は、「仕事と家庭生活と個人の生活を両立」(33.1%)が最も多くなっている。『現実の状態』は、「仕事を優先」(20.3%)が最も多く、次いで、「家庭生活を優先」(13.5%)となっている。

図 2-3-2 希望と現実の状態



(年代別)



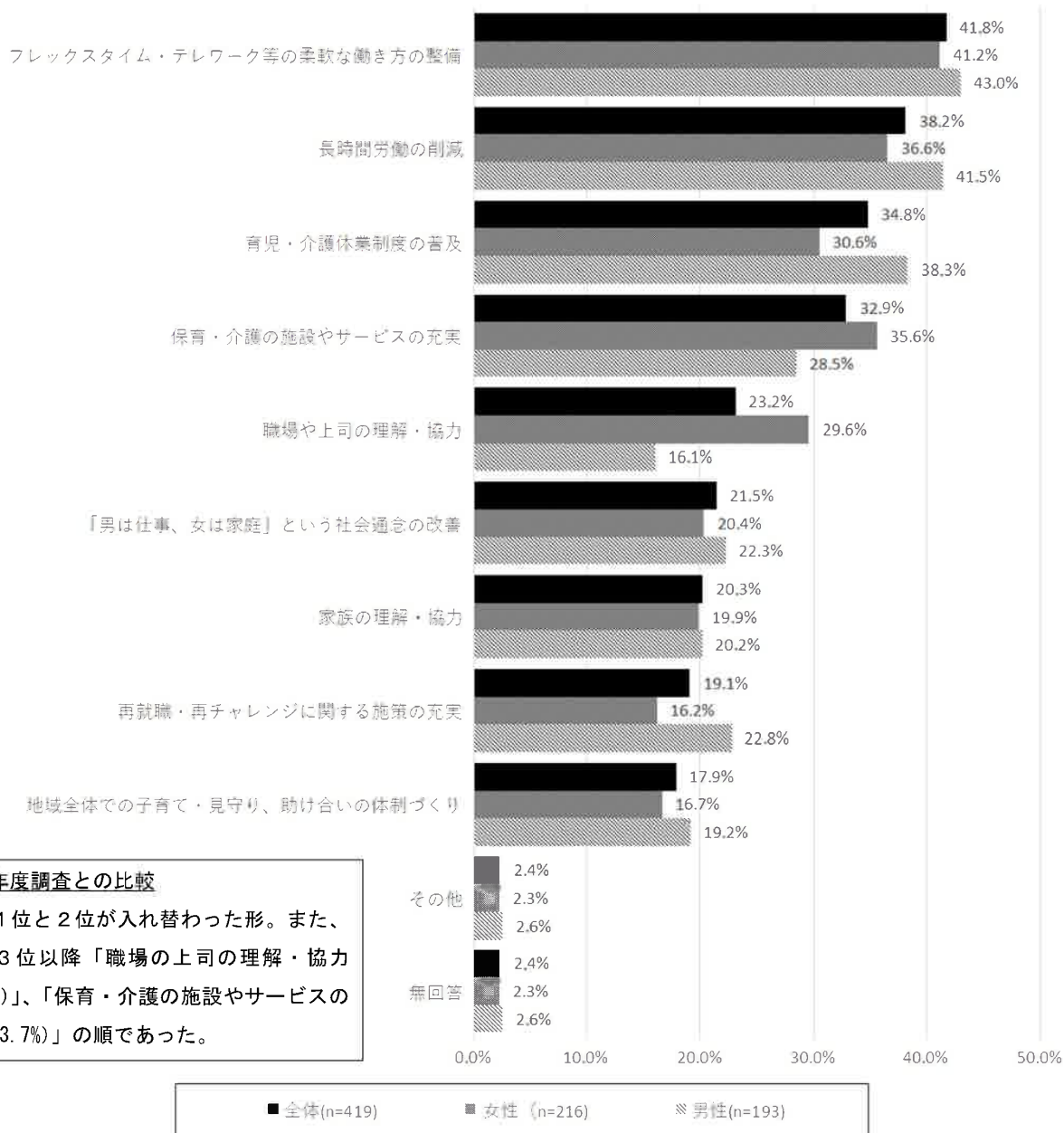
希望する状態と現実の状態について、一致している人は全体の4割近くとなっており、各年代においてもほぼ同様の割合となっている。

(4) ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと

◇「長時間労働の削減」が約4割

問8 ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

図2-4 ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと



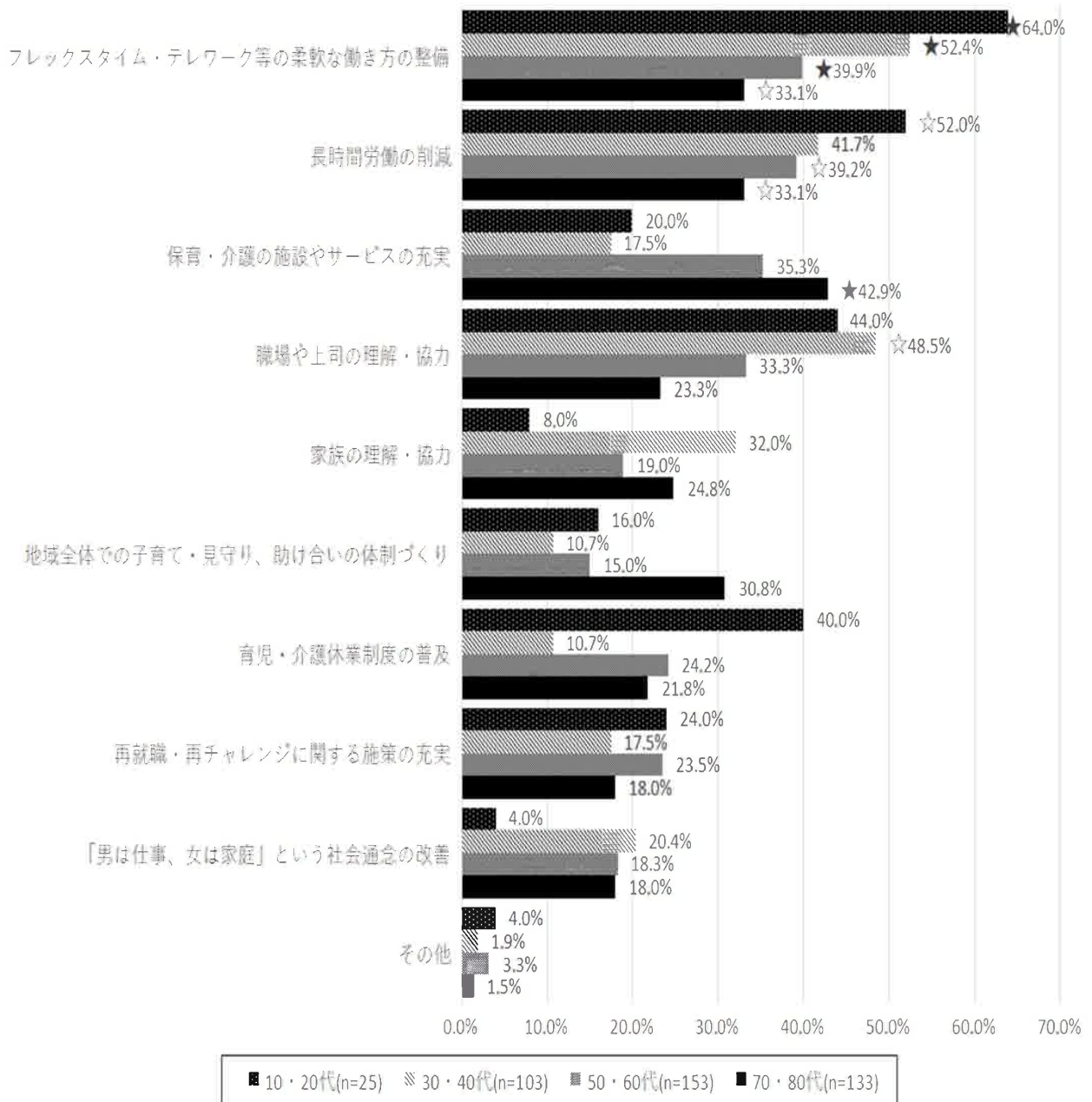
平成31年度調査との比較

前回の1位と2位が入れ替わった形。また、前回は3位以降「職場の上司の理解・協力(35.3%)」、「保育・介護の施設やサービスの充実(33.7%)」の順であった。

ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なことについては、「フレックスタイム・テレワーク等の柔軟な働き方の整備」(41.8%)が最も多くなっている。次いで、「長時間労働の削減」(38.2%)、「育児・介護休業制度の普及」(34.8%)の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「保育・介護の施設やサービスの充実」が7.1ポイント高くなっている。男性では女性よりも「育児・介護休業制度の普及」が7.7ポイント高くなっている。「その他」として、「企業風土・文化の見直し」、「賃金の上昇」、「男性の生活力の向上」等が挙げられた。

図2-4-1 ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと（年代別）



※各年代における1位の項目に★、2位の項目に☆を付けている。

70代・80代を除く各年代において「フレックスタイム・テレワーク等の柔軟な働き方の整備」（10代・20代：64.0%、30代・40代：52.4%、50代・60代：39.9%）が最も多く、70代・80代では「保育・介護の施設やサービスの充実」（42.9%）が最も多くなっている。

平成31年度調査との比較

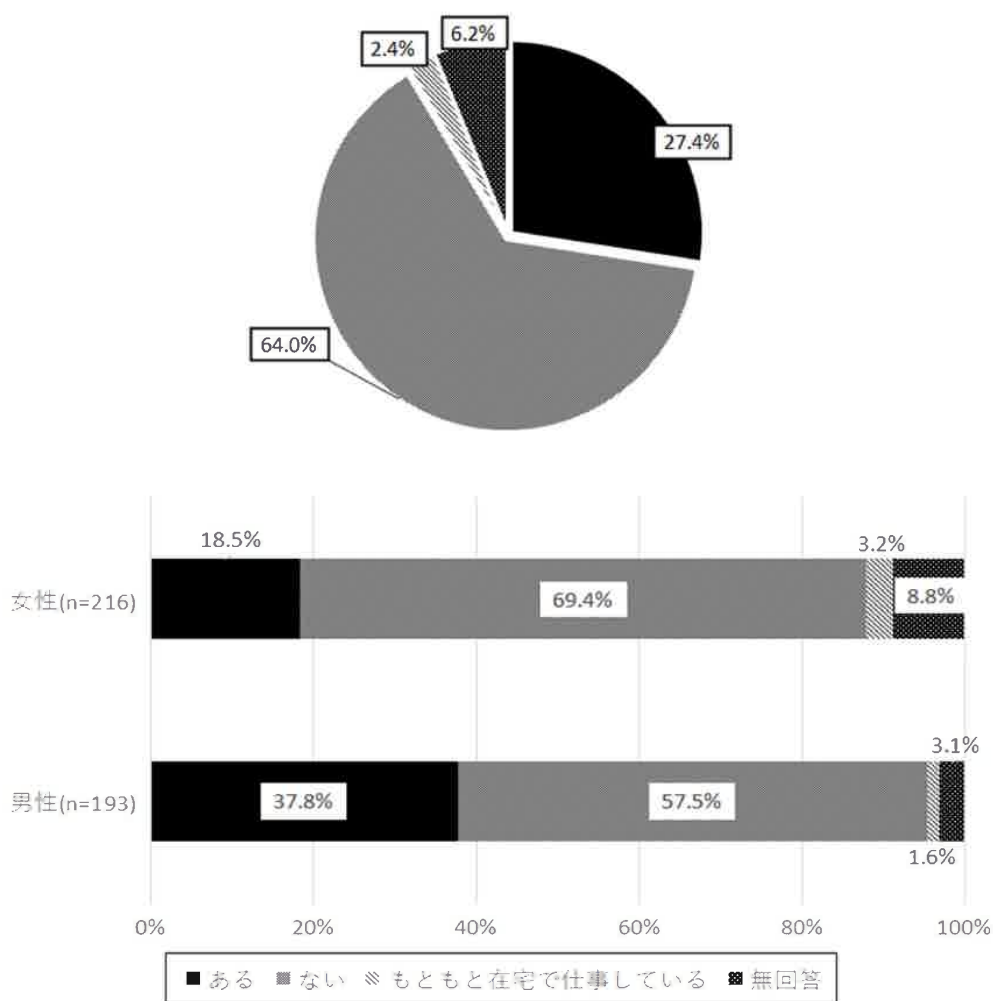
前回の1位は30代・40代が「フレックスタイム・テレワーク等の柔軟な働き方の整備」、それ以外の年代は「長時間労働の削減」

(5) 在宅勤務等遠隔での勤務経験

◇「ある」が3割近く

問9 コロナ禍をきっかけに、テレワーク等、場所や時間にとらわれない働き方が広まりつつありますが、あなたは在宅勤務やサテライトオフィス等を利用した遠隔での勤務をしたことがありますか。(〇は1つだけ)

図2-5 在宅勤務等遠隔での勤務経験の有無



在宅勤務等の遠隔での勤務の経験について、「ない」(64.0%)が最も多くなっている。次いで、「ある」(27.4%)、「もともと在宅で仕事している」(2.4%)の順となっている。

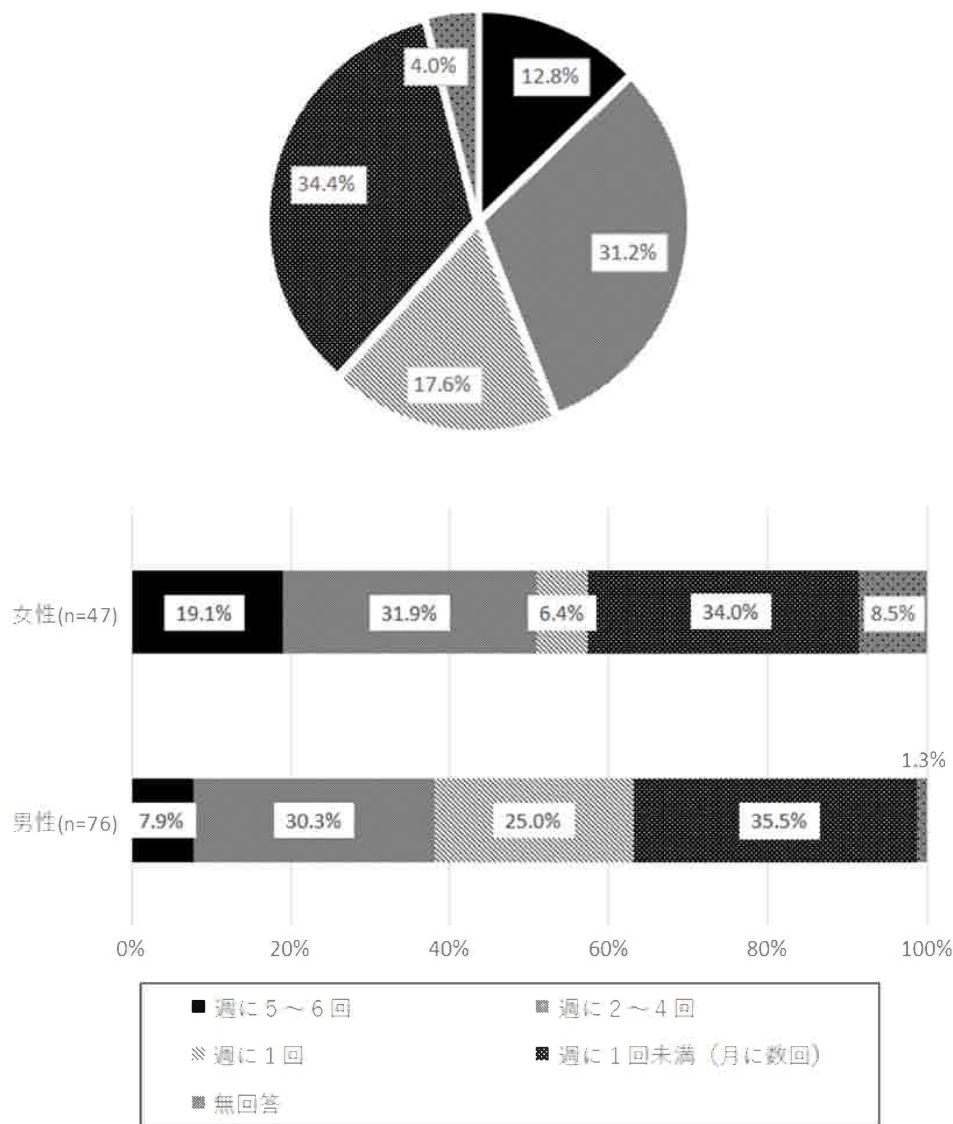
性別でみると、男性では女性よりも「ある」が19.3ポイント高くなっている。

(6) 直近1年間のテレワークの頻度

◇「週に1回未満(月に数回)」が約3割台半ば

問10 (問9で「1」又は「3」とお答えの方にお聞きします)
 あなたは直近1年間のテレワークの頻度はどのくらいですか。(○は1つだけ)

図2-6 直近1年間のテレワークの頻度



遠隔での勤務経験がある人のうち、直近1年間のテレワークの頻度については、「週に1回未満(月に数回)」(34.4%)が最も多くなっている。次いで、「週に2~4回」(31.2%)、「週に1回」(17.6%)の順となっている。

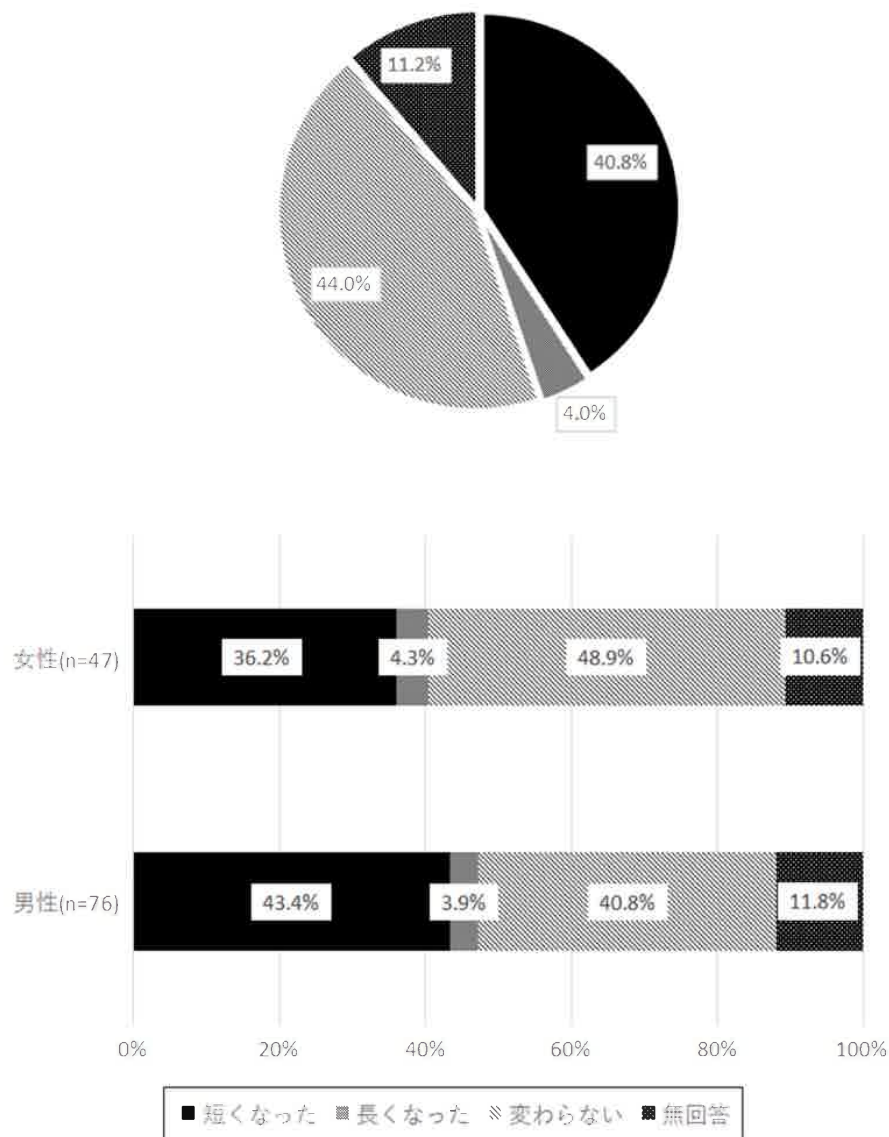
(7) テレワークによる仕事時間の変化

◇「変わらない」が約4割台半ば

問11 (問9で「1」又は「3」とお答えの方にお聞きします)

テレワークを行ったことで仕事時間(通勤時間を含む。)はどのように変化しましたか。
(〇は1つだけ)

図2-7 テレワークによる仕事時間の変化



遠隔での勤務経験がある人のうち、仕事時間の変化について、「変わらない」(44.0%)が最も多くなっている。次いで、「短くなった」(40.8%)、「長くなった」(4.0%)の順となっている。

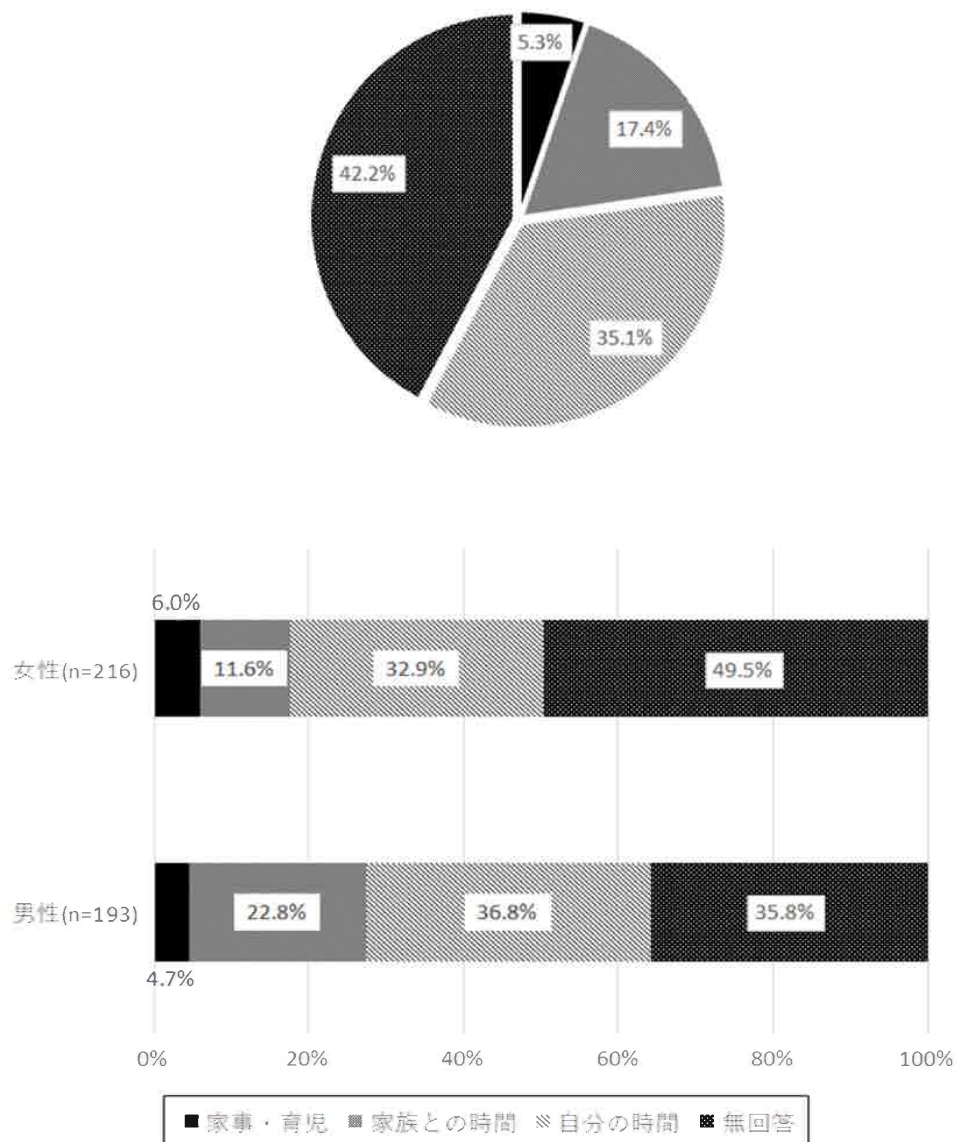
性別で見ると、男性では女性よりも「短くなった」が7.2ポイント高く、女性では男性よりも「変わらない」が8.1ポイント高くなっている。

(8) テレワークにより仕事時間が減った場合の時間の使い方

◇「自分の時間」が約3割台半ば

問12 テレワークによって仕事時間減った場合、その時間は何に使用しますか（使いたいですか）。（○は1つだけ）

図2-8 テレワークにより時間が減った場合の時間の使い方



テレワークにより仕事時間が減った場合の時間について、「自分の時間」(35.1%)が最も多くなっている。次いで、「家族の時間」(17.4%)、「家事・育児」(5.3%)の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「家族の時間」が11.2ポイント高くなっている。

平成31年度調査との比較

「そう思う (5.4%)」、「そう思わない (61.2%)」(各H31)については前回より増。性別では、「そう思う」が女性3.1%(H31)で前回より増、男性8.7%(H31)で前回より減。

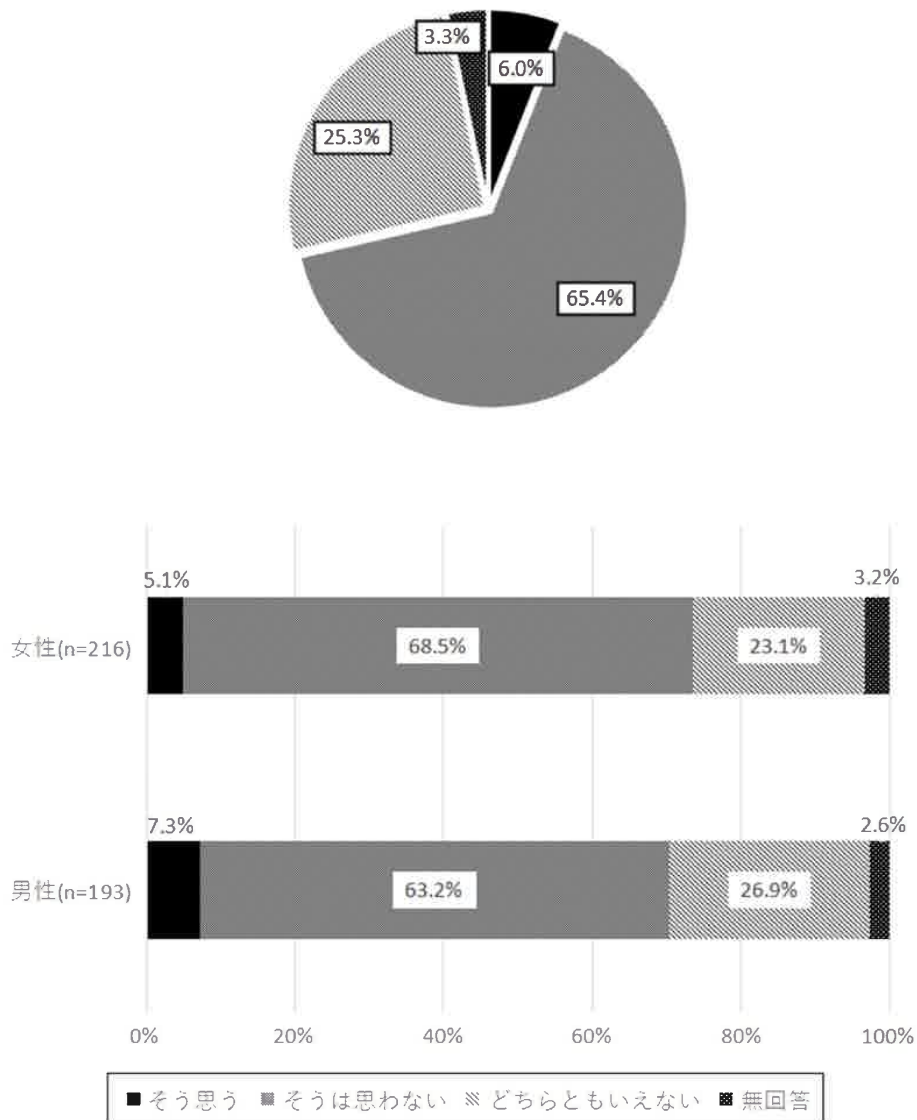
3. 家事、育児、介護について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方

◇ 「そうは思わない」が約6割台半ば

問13 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つだけ)

図3-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方



「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「そうは思わない」(65.4%)が最も多くなっている。次いで、「どちらともいえない」(25.3%)、「そう思う」(6.0%)の順となっている。

性別で見ると、男性では女性よりも「どちらともいえない」が3.8ポイント高く、女性では男性よりも「そうは思わない」が5.3ポイント高くなっている。

平成31年度調査との比較

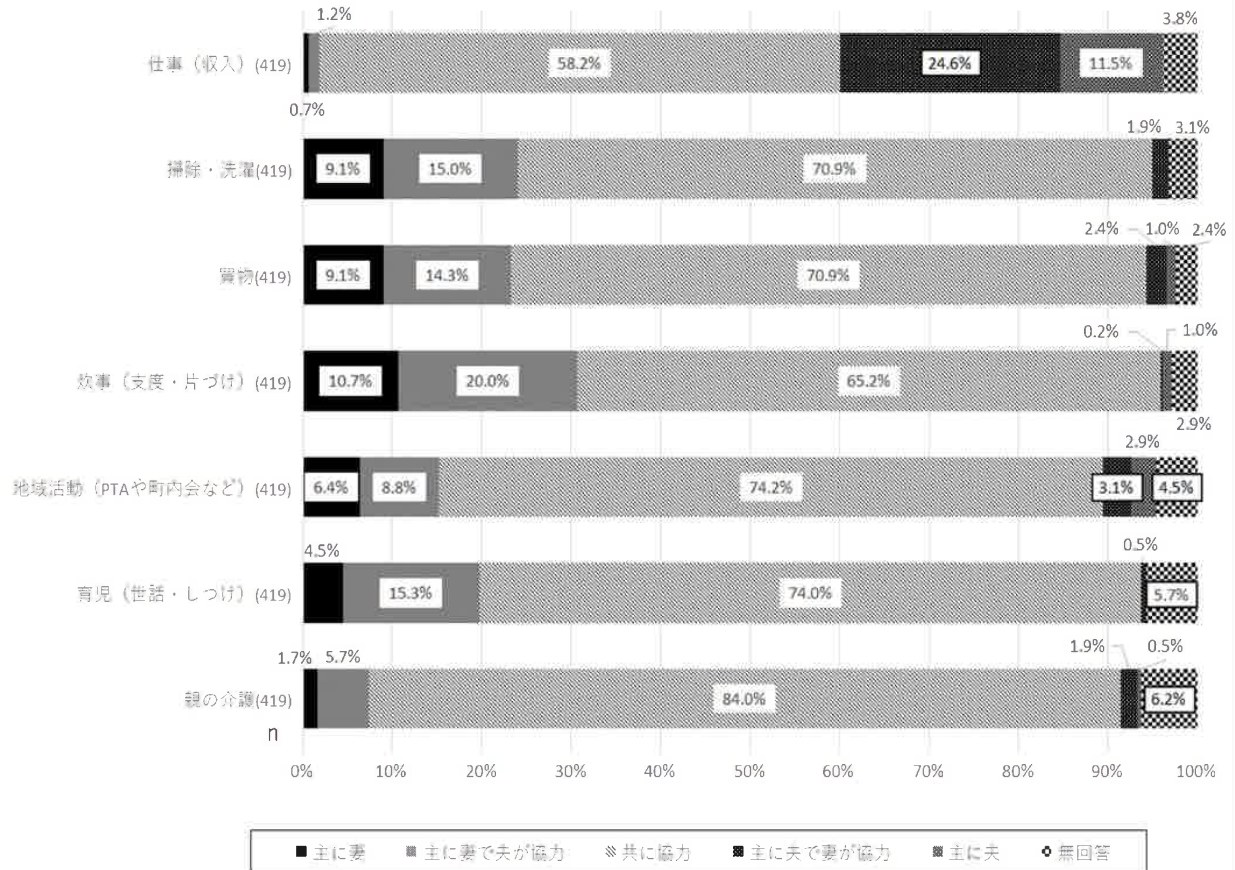
全ての項目において「共に協力」が増。そのため、夫、妻どちらかに偏った分担は減。

(2) 家庭内での役割

◇「親の介護」について「共に協力」が8割台半ば

問14 あなたは、家庭内における夫婦の役割についてどのように担うのがよいと思いますか。
(〇はア～キ、それぞれ1つずつ)

図3-2 家庭内での役割



家庭内での役割については、【妻が担う】(「主に妻」と「主に妻で夫が協力」の合計)と思う分野は、「炊事(支度・片づけ)」(30.7%)が最も多くなっている。

一方、【夫が担う】(「主に夫」と「主に夫で妻が協力」の合計)と思う分野は、「仕事(収入)」(36.1%)が最も多くなっている。

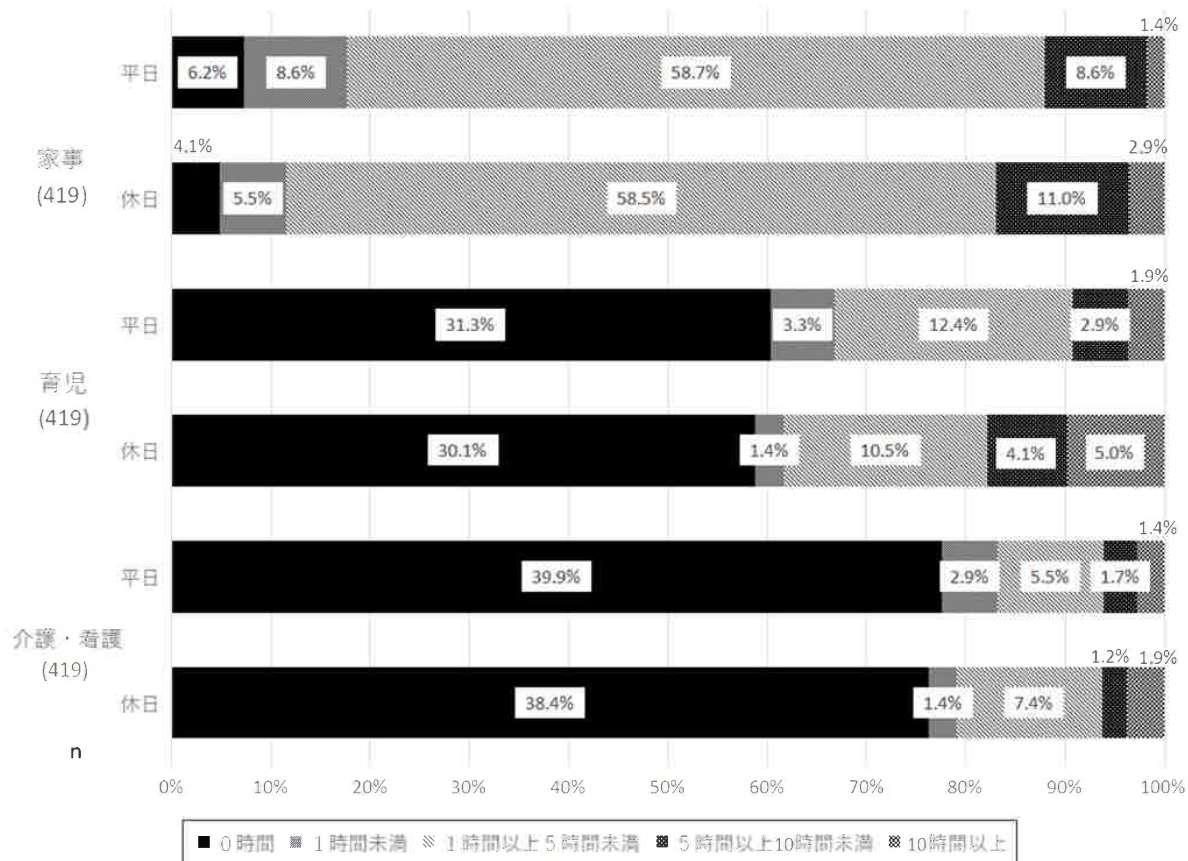
また、「共に協力」と思う分野は、「親の介護」(84.0%)が最も多く、次いで、「地域活動(PTAや町内会など)」(74.2%)、「育児(世話・しつけ)」(74.0%)の順となっている。

(3) 家事や育児、介護・看護に携わる時間

◇「家事」の1日あたりの時間について、平日、休日共に「1時間以上5時間未満」が6割近く

問15 あなたが平日、休日で家事・育児・介護などに携わる1日あたりの平均的な時間はどのくらいですか。30分単位でご記入ください。

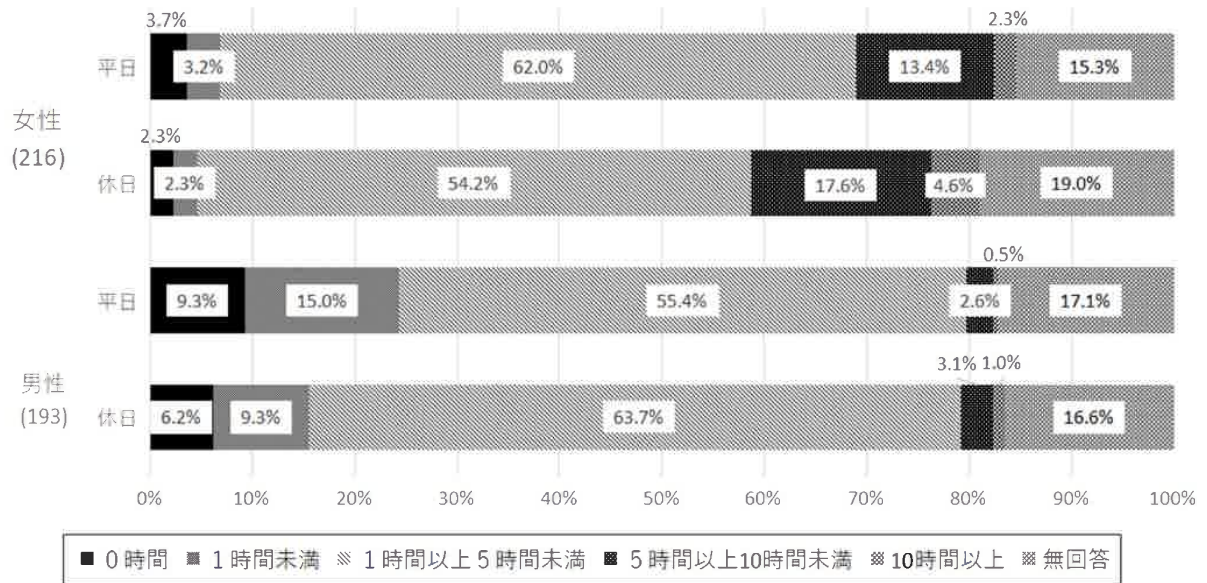
図3-3 家事や育児、介護・看護に携わる時間



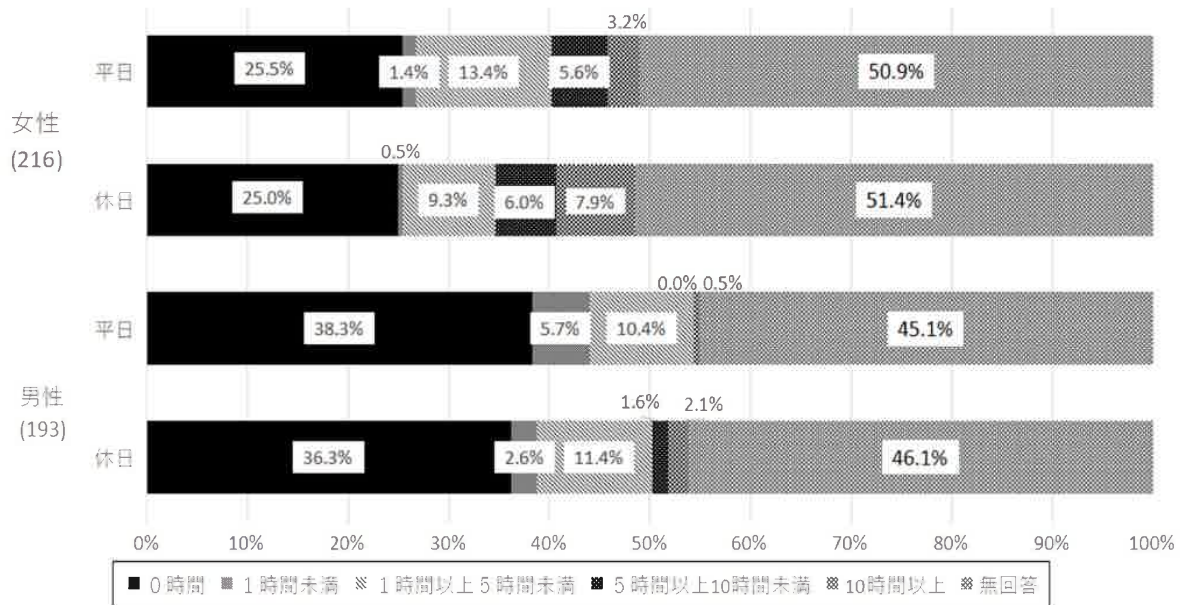
家事については、平日、休日ともに「1時間以上5時間未満」が6割近くを占めている。育児、介護・看護については、平日、休日ともに「0時間」が最も多くなっており、育児、介護・看護に携わっている人においては、「1時間以上5時間未満」が育児（平日：12.4%、休日：10.5%）、介護・看護（平日：5.5%、休日：7.4%）ともに最も多くなっている。

図3-3-1 家事や育児、介護・看護（性別）

(1) 家事



(2) 育児



(3) 看護・介護

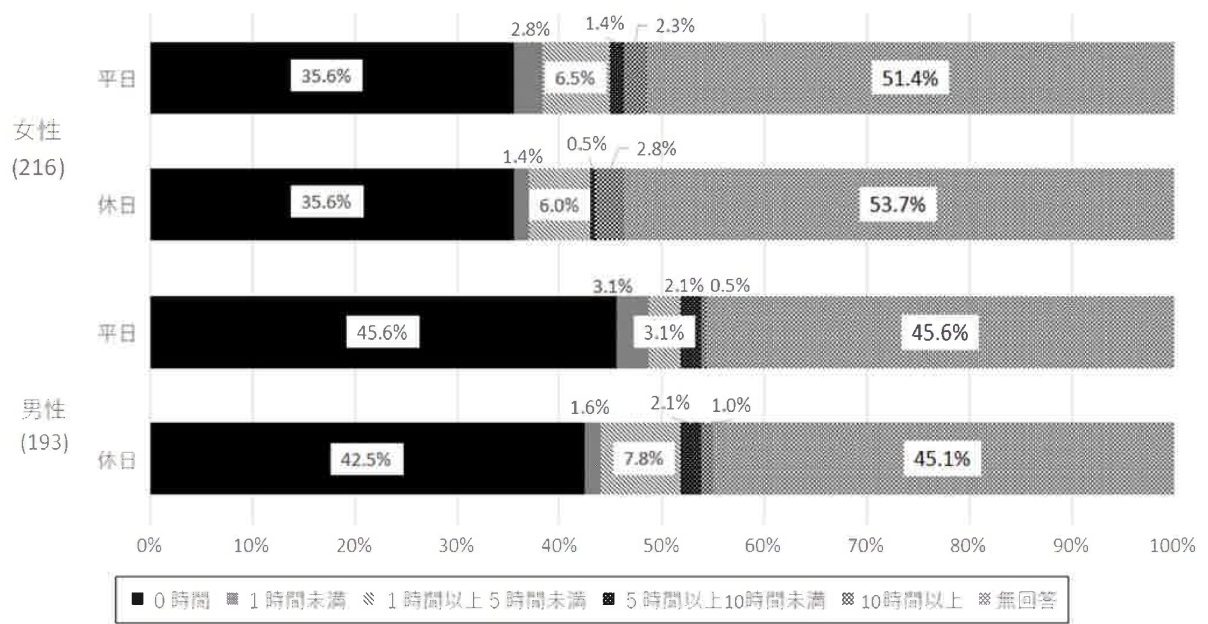
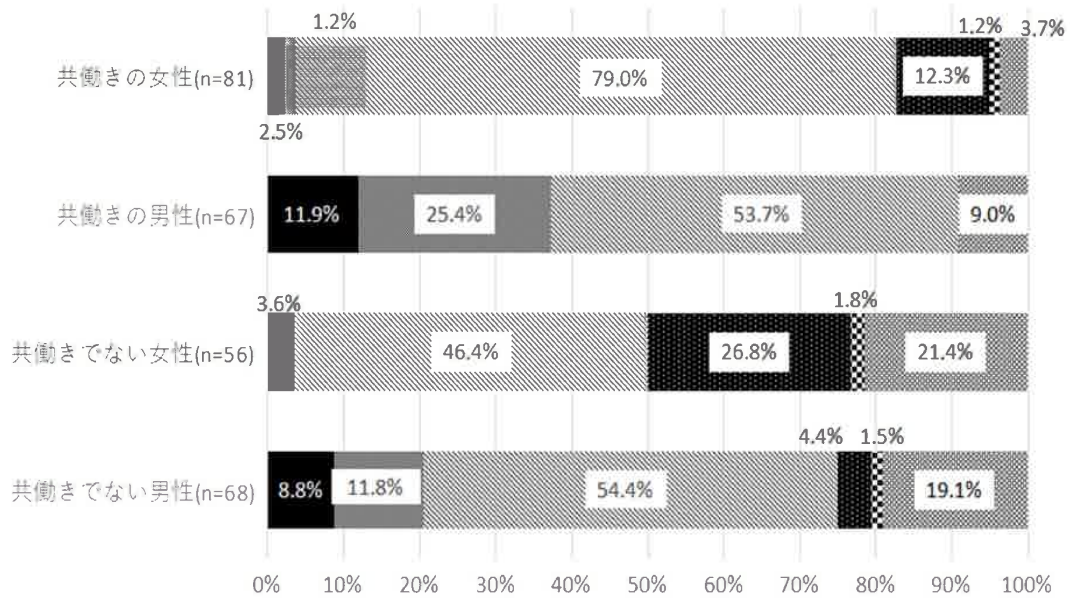


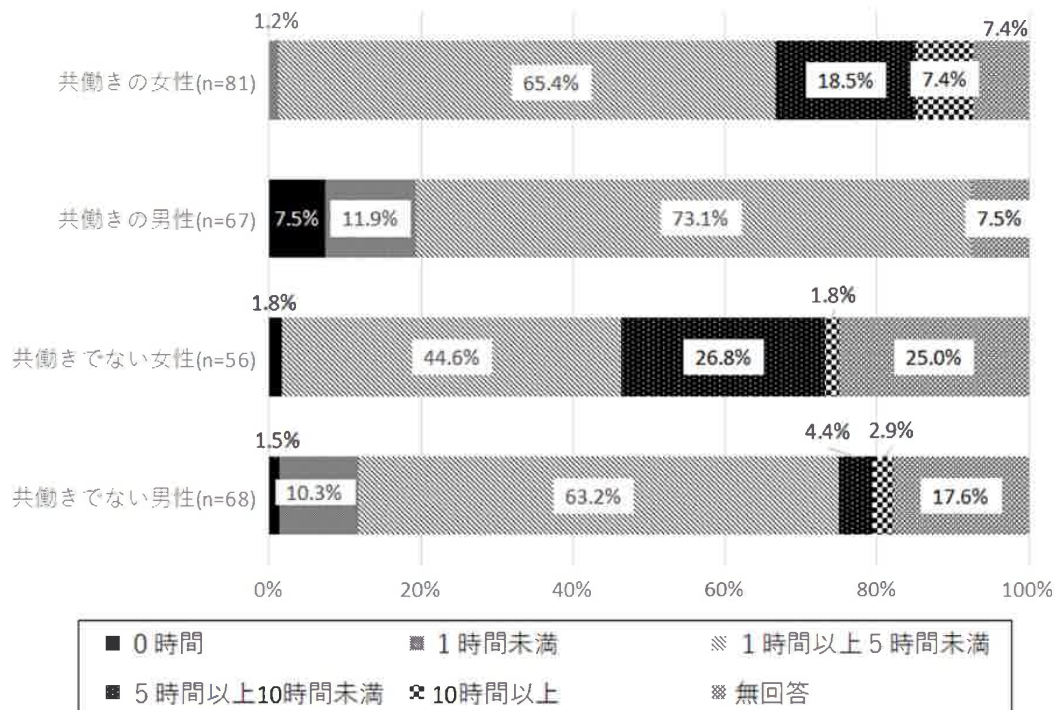
図3-3-2 家事や育児、介護・看護（働き方別）

(1) 家事

ア) 平日

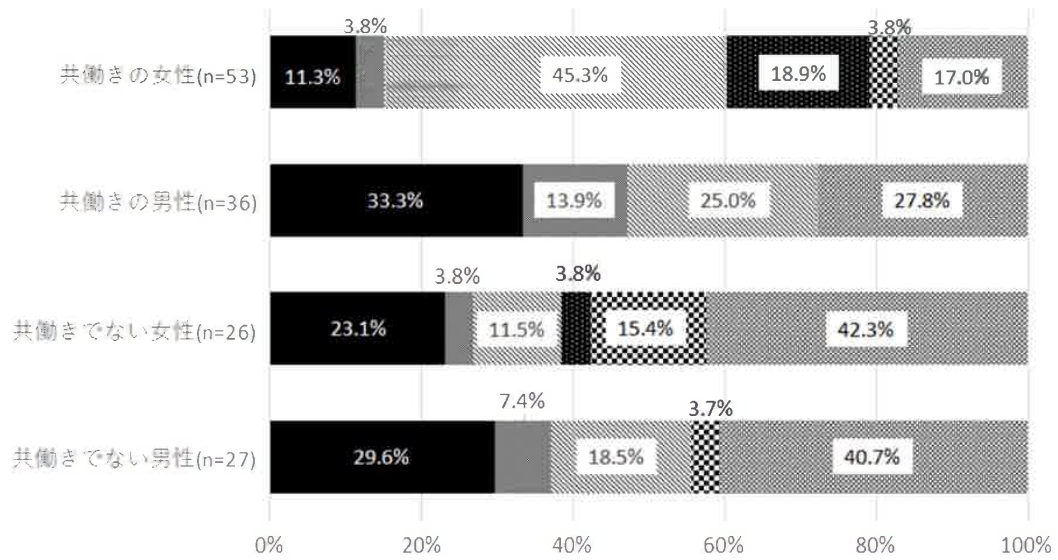


イ) 休日

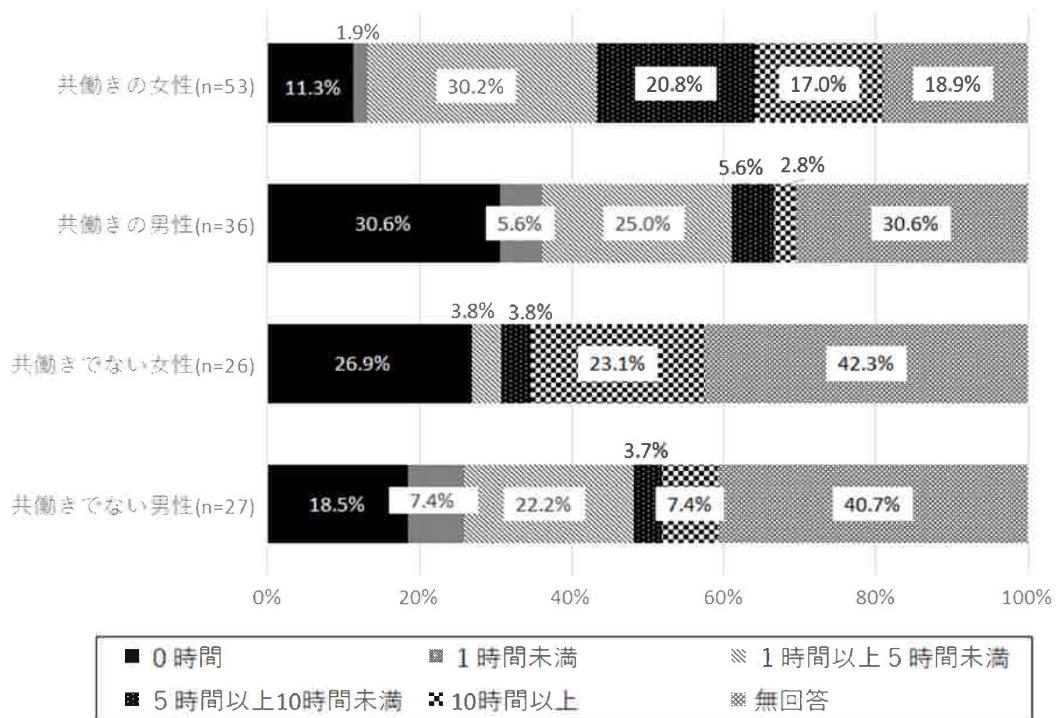


(2) 育児

ア) 平日

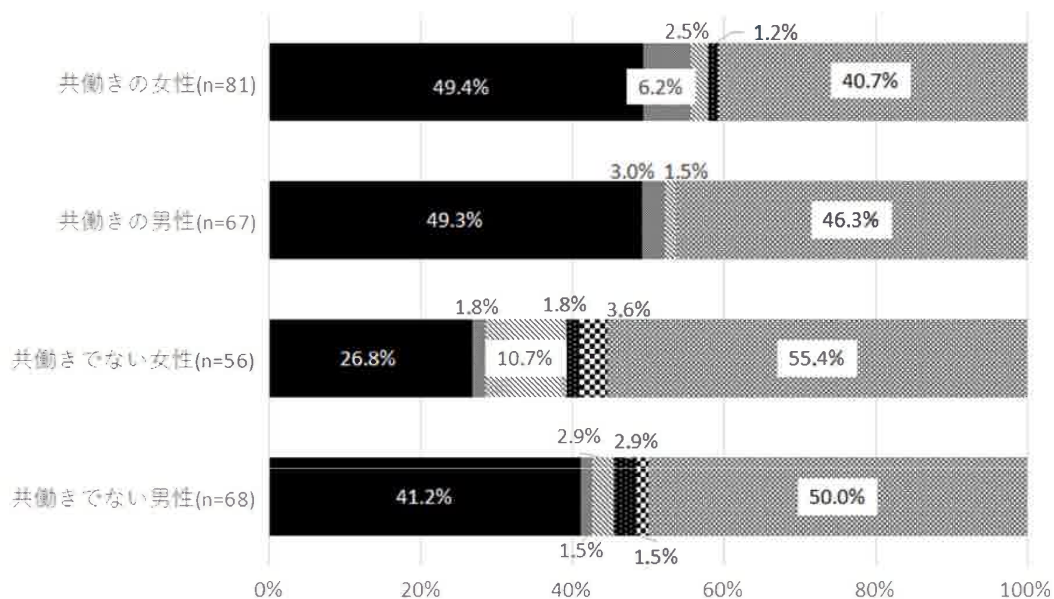


イ) 休日

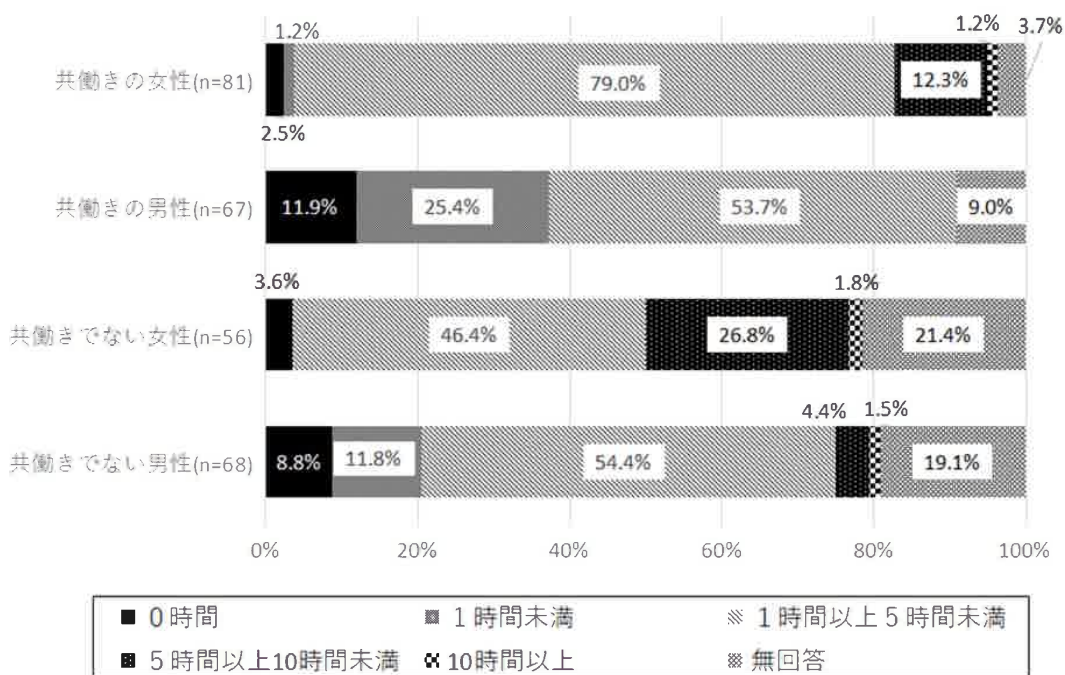


(3) 介護・看護

ア) 平日



イ) 休日

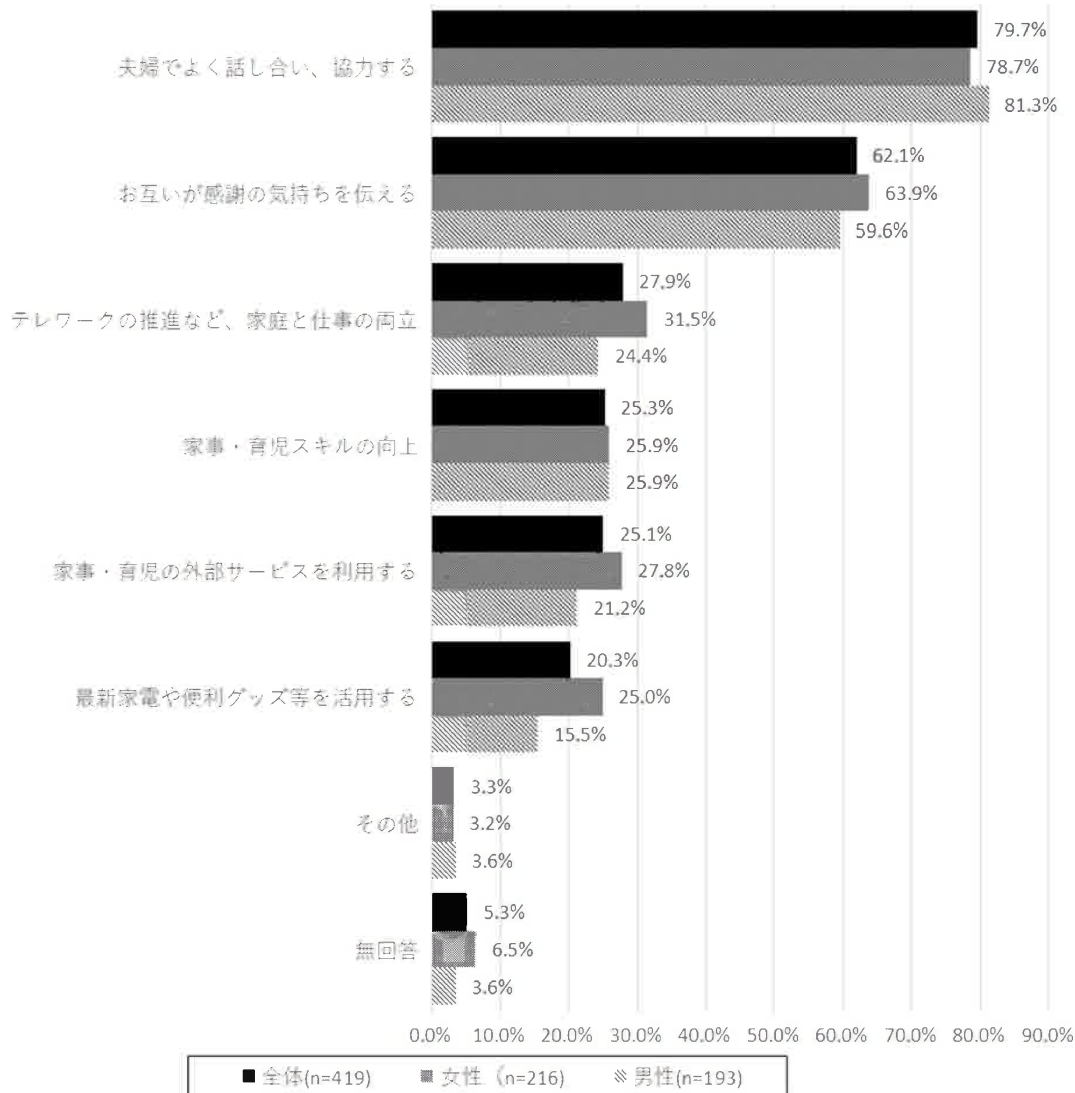


(4) 家事等の負担感を減らすために重要なこと

◇「夫婦でよく話し合い、協力する」が8割弱

問16 夫婦間における家事・育児・介護分担の負担感を減らすために重要だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

図3-4 家事等の負担感を減らすために重要なこと



家事等の負担感を減らすために重要なことについては、「夫婦でよく話し合い、協力する」(79.7%)が最も多く、次いで、「お互いが感謝の気持ちを伝える」(62.1%)となっている。

女性では男性よりも「最新家電や便利グッズ等を活用する」が9.5ポイント高く、男性では女性よりも「夫婦でよく話し合い、協力する」が2.6ポイント高くなっている。

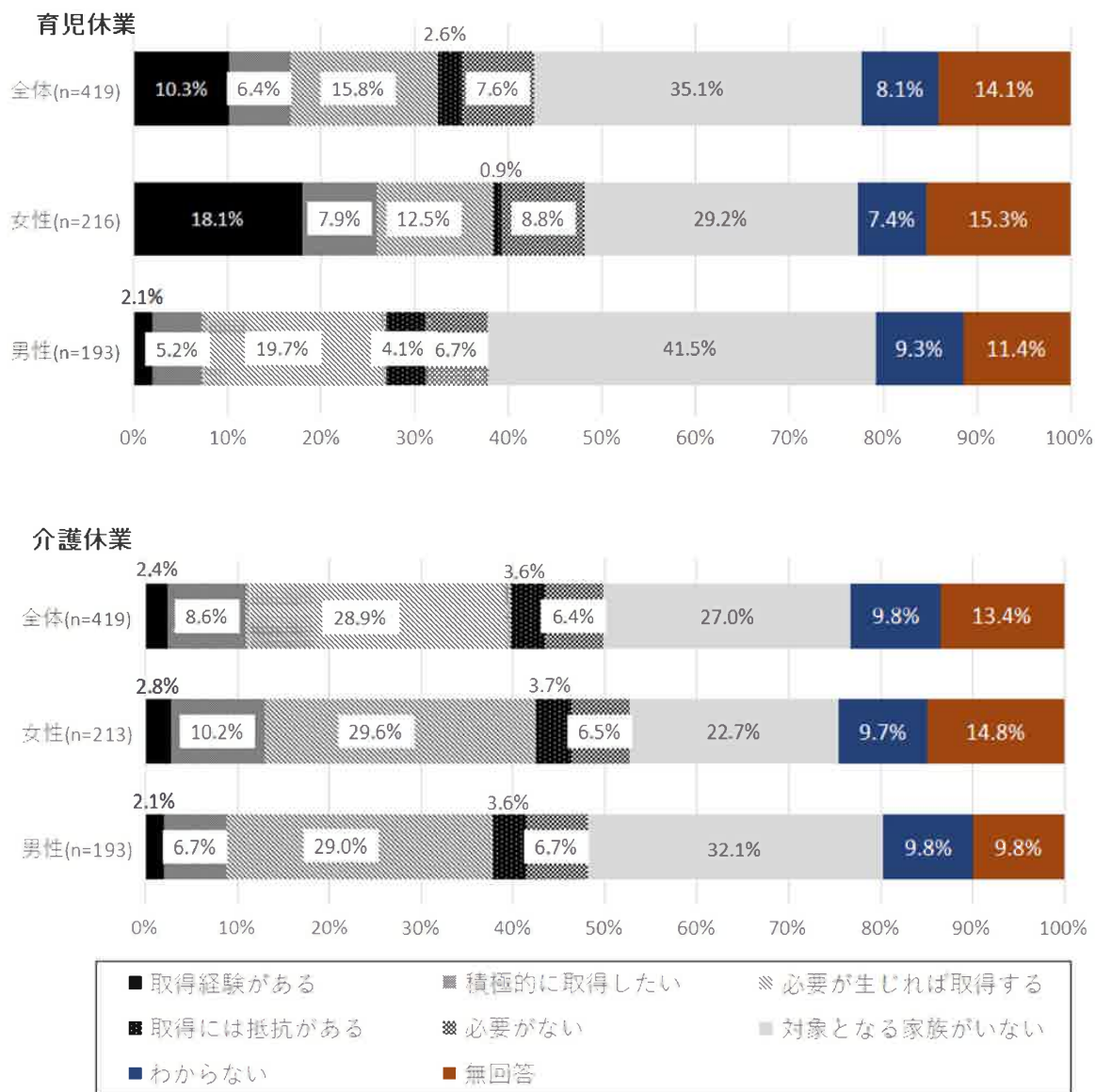
「その他」として、「やれる時にやれる人がやる。垣根を作らない」、「職場の理解」、「結婚前に相手を見極めること」等が挙げられた。

(5) 育児・介護休業取得

◇「介護休業」について「必要があれば取得する」が3割近く

問17 あなたは、育児休業や介護休業を取得した経験がありますか。又は、これから先そのような状況が生じた時、どうしようと思いますか。育児休業、介護休業それぞれについてお答えください。(それぞれについて、1つに○)

図3-5 育児・介護休業取得



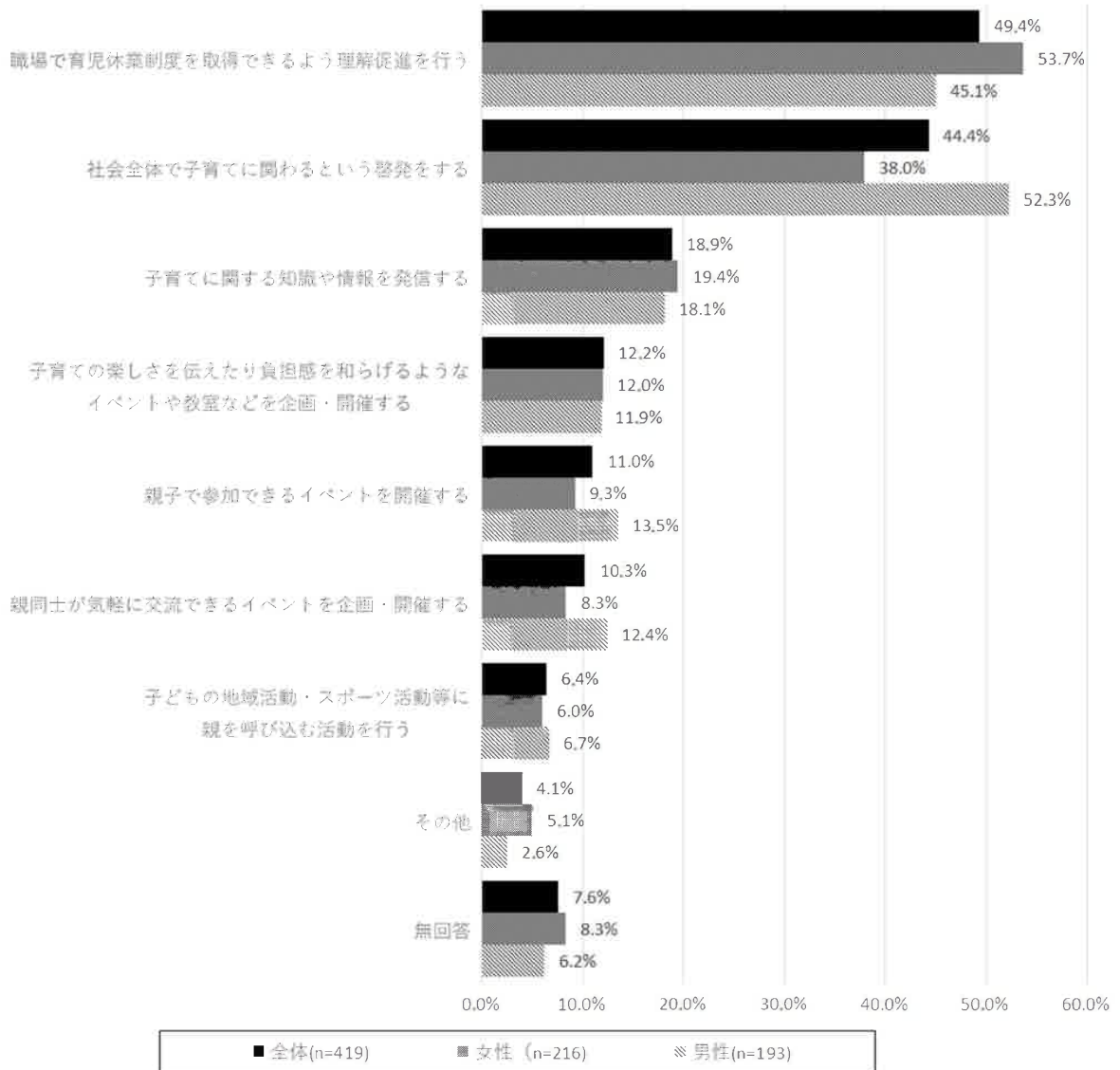
育児休業や介護休業の取得経験等については、「育児休業」、「介護休業」(※「対象となる家族がない」を除く)ともに「必要があれば取得する」(それぞれ15.8%、28.9%)が最も高くなっている。

(6) 仕事と育児の両立のための子育て支援施策

◇「職場で育児休業制度を取得できるよう理解促進を行う」が5割弱

問18 仕事と育児の両立のための子育て支援施策を実施していくにあたり、積極的に育児に関わるきっかけとなるのはどのようなことだと思いますか。(〇は2つまで)

図3-6 仕事と育児の両立のための子育て支援施策

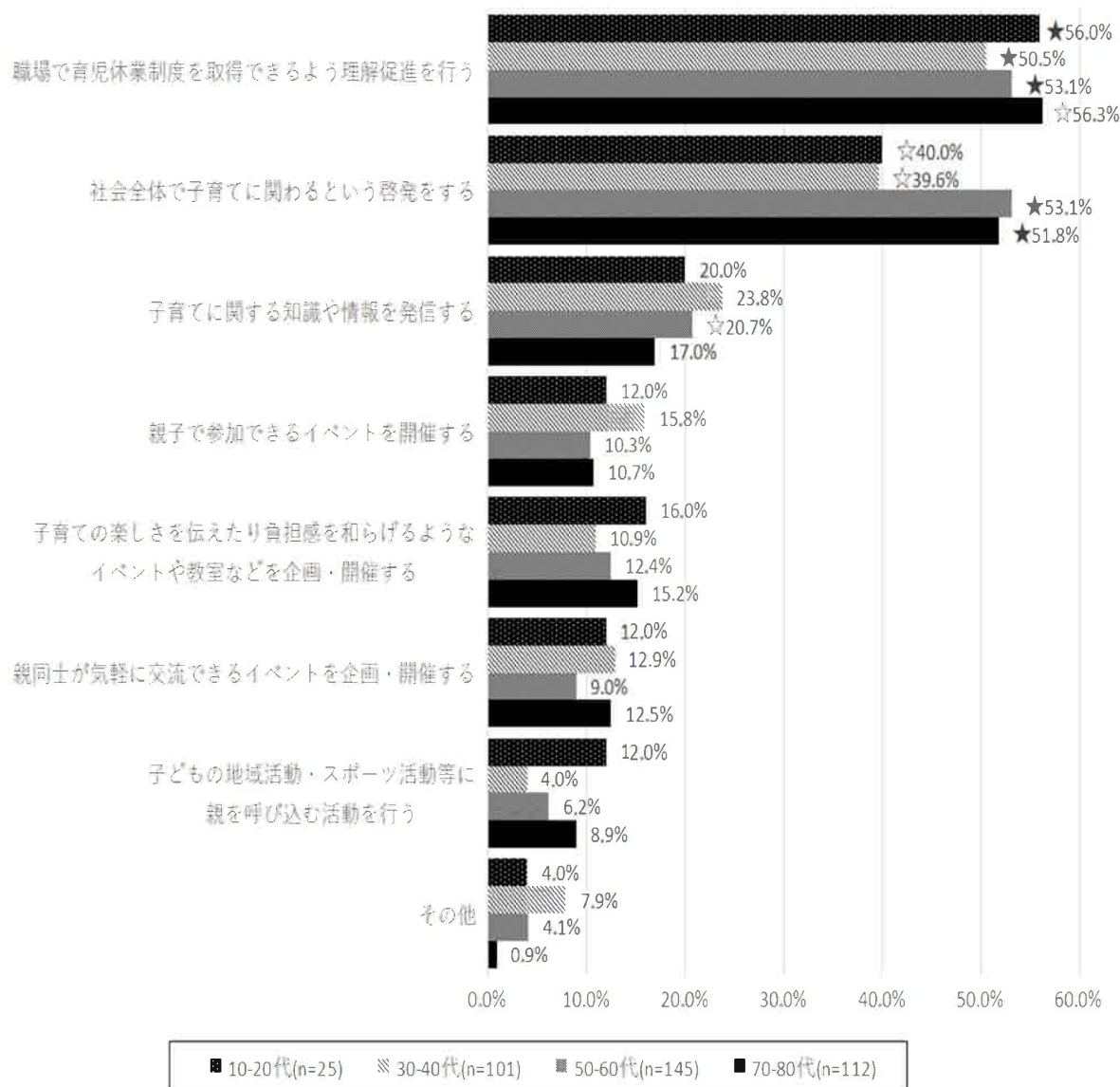


積極的に子育てに関わるきっかけについては、「職場で育児休業制度を取得できるよう理解促進を行う」(49.4%)が最も多く、次いで、「社会全体で子育てに関わるという啓発をする」(44.4%)となっている。

女性では男性よりも「職場で育児休業制度を取得できるよう理解促進を行う」が8.6ポイント高く、男性では女性よりも「社会全体で子育てに関わるという啓発をする」が14.3ポイント高くなっている。

「その他」として、「国策としてPRをするのが第一歩」が挙げられた。

図3-6-1 仕事と子育ての両立のための子育て支援施策（年代別）



※各年代における1位の項目に★、2位の項目に☆を付けている。

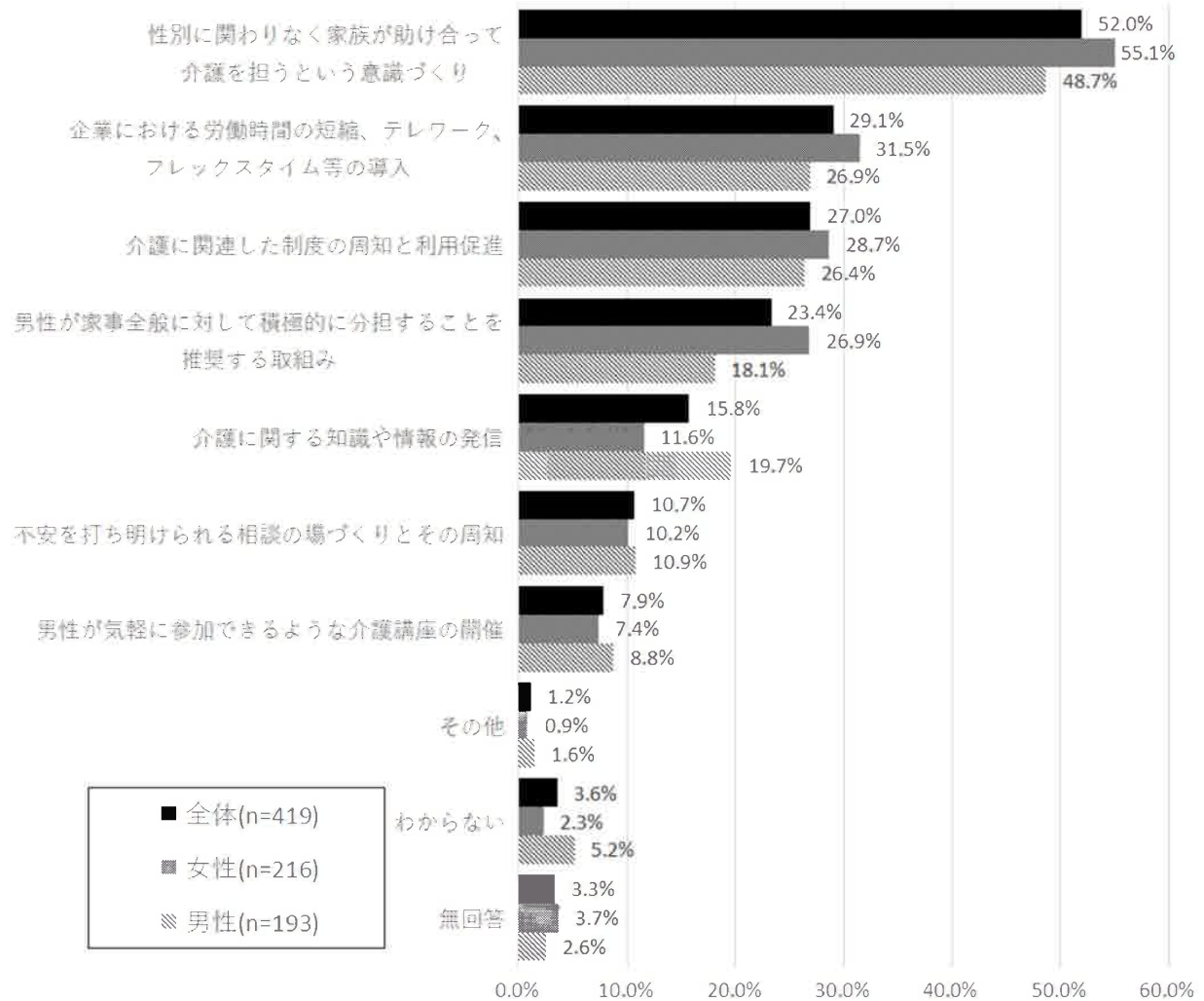
70代・80代を除く各年代において「職場で育児休業制度を取得できるよう理解促進を行う」（10代・20代：56.0%、30代・40代：50.5%、50代・60代：53.1%）が最も多く、70代・80代では「社会全体で子育てに関わるという啓発をする」（51.8%）が最も多くなっている。また、50代・60代については、同じく「社会全体で子育てに関わるという啓発をする」（53.1%）も最も多くなっている。

(7) 男性が介護を担うために必要なこと

◇「性別に関わりなく家族が助け合って介護を担うという意識づくり」が5割強

問19 家庭での高齢者などの介護は、女性（妻、嫁、娘）が主たる担い手となっている場合が多いですが、男性もともに介護を担うためには、何が必要だと思いますか。（○は2つまで）

図3-7 男性が介護を担うために必要なこと



家庭での高齢者などの介護を男性もともに担うために必要なことについては、「性別に関わりなく家族が助け合って介護を担うという意識づくり」(52.0%)が最も多くなっている。次いで、「企業における労働時間の短縮、テレワーク、フレックスタイム等の導入」(29.1%)、「介護に関連した制度の周知と利用促進」(27.0%)の順となっている。

性別でみると、女性では男性よりも「男性が家事全般に対して積極的に分担することを推奨する取組み」が8.8ポイント高く、男性では女性よりも「介護に関連した知識と情報の発信」が8.1ポイント高くなっている。

「その他」として、「制度を作る」、「安心して介護を任せられるような男性を育てる」等が挙げられた。

4. ドメスティック・バイオレンスについて

(1) ドメスティック・バイオレンスの経験

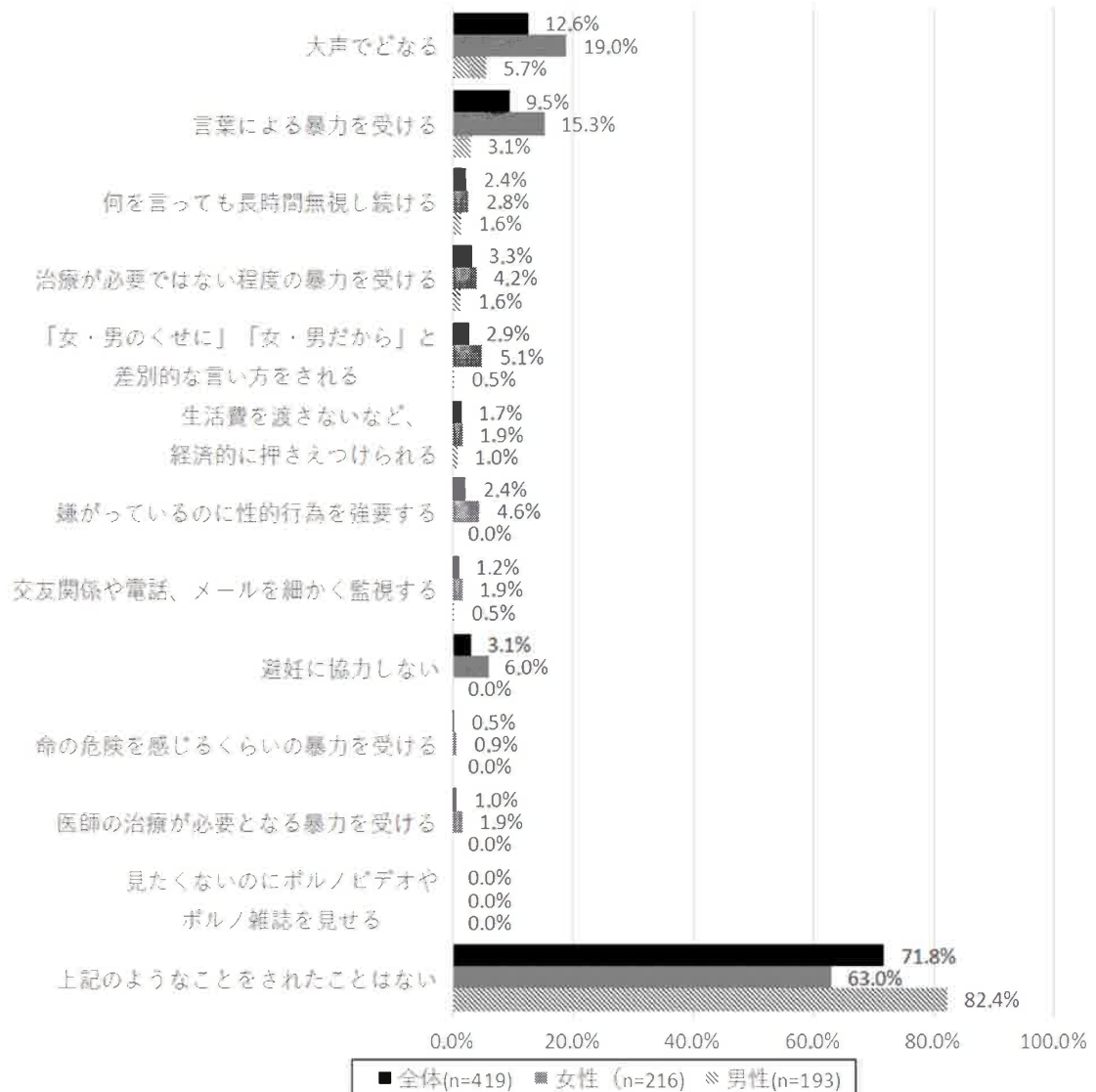
◇「大声でどなる」が12.6%

平成31年度調査との比較

上位3項目は前回と同じ。

問20 あなたは、これまでに配偶者（事実婚、別居、離別を含む）やパートナー、交際相手から次のことをされたことがありますか。（○はいくつでも）

図4-1 ドメスティック・バイオレンスの経験



配偶者や交際相手からされたことについては、「大声でどなる」(12.6%)が多くなっている。

一方で、「上記のような事をされたことはない」(71.8%)となっており、7割強が経験なしということがうかがえる。

性別でみると、女性では男性よりも「大声でどなる」が13.3ポイント、「言葉による暴力を受ける」が12.2ポイント高くなっている。

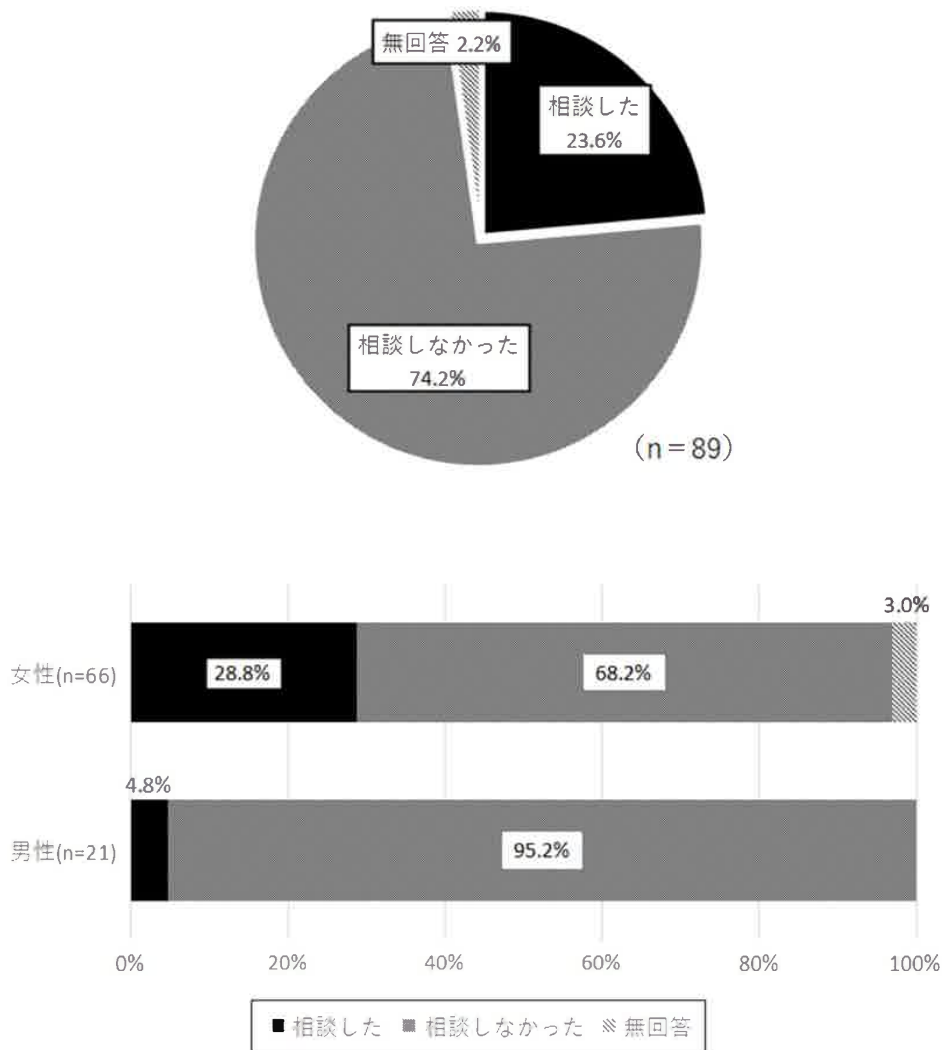
(2) 相談の有無

◇「相談しなかった」が7割台半ば

問20-1 (問20で「1」から「12」とお答えの方にお聞きします)

あなたは、誰(どこ)かに打ち明けたり相談したりしましたか。(○は1つだけ)

図4-2 相談の有無



配偶者やパートナー、交際相手からドメスティック・バイオレンスを受けたことがあると回答した89人に対して、誰(どこ)かに打ち明けたり相談したかどうか聞いたところ、「相談しなかった」(74.2%)が7割台半ば、「相談した」(23.6%)が2割強となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「相談した」が24.0ポイント高くなっている。

平成31年度調査との比較

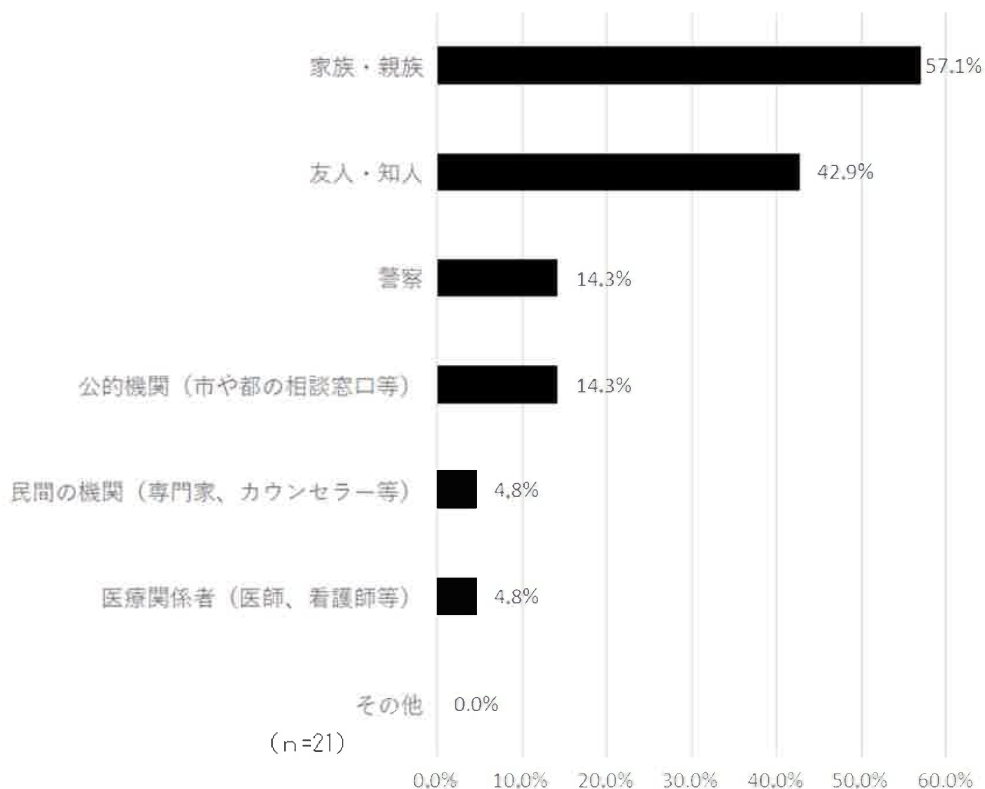
前は「相談した(18.0%)」、「相談しなかった(50.3%)」、「無回答(31.7%)」

(3) 相談先

◇「家族・親族」が6割近く

問20-1-1 (問20-1で「1相談した」とお答えの方にお聞きします)
誰(どこ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

図4-3 相談先



配偶者やパートナー、交際相手からドメスティック・バイオレンスを受け、相談したと回答した21人に対して、相談した相手を聞いたところ、「家族・親族」(57.1%)が最も多く、次いで、「友人・知人」(42.9%)の順となっている。

平成31年度調査との比較

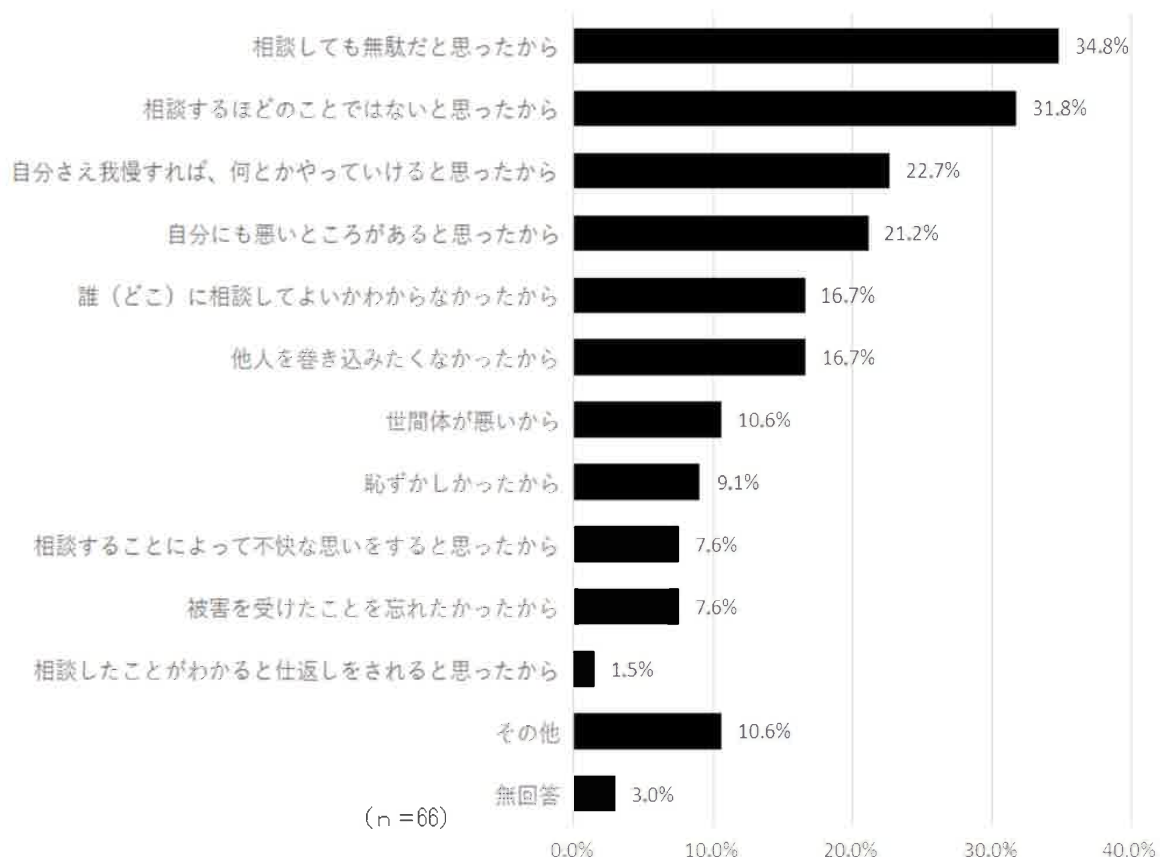
前回の上位は「友人・知人(58.6%)」、「家族・親戚(51.7%)」、「公的機関(17.2%)」の順。「警察」は6.9%から伸びており、「民間の機関」は13.8%から下がっている。

(4) 相談しなかった理由

◇「相談しても無駄だと思ったから」が3割台半ば

問20-1-2 (問20-1で「2相談しなかった」とお答えの方にお聞きします)
誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図4-4 相談しなかった理由



配偶者やパートナー、交際相手からドメスティック・バイオレンスを受け、相談しなかったと回答した66人に対して、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談しても無駄だと思ったから」(34.8%)が最も多くなっている。次いで、「相談するほどのことではないと思ったから」(31.8%)、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」(22.7%)の順となっている。

「その他」として、「身内に心配をかけると思ったから」、「自分が傷付いていたという自覚がその時点ではなかったから」、「解決に時間をかけたかったから」、「その場に子どもがおり、止めに入ったから」等が挙げられた。

平成31年度調査との比較

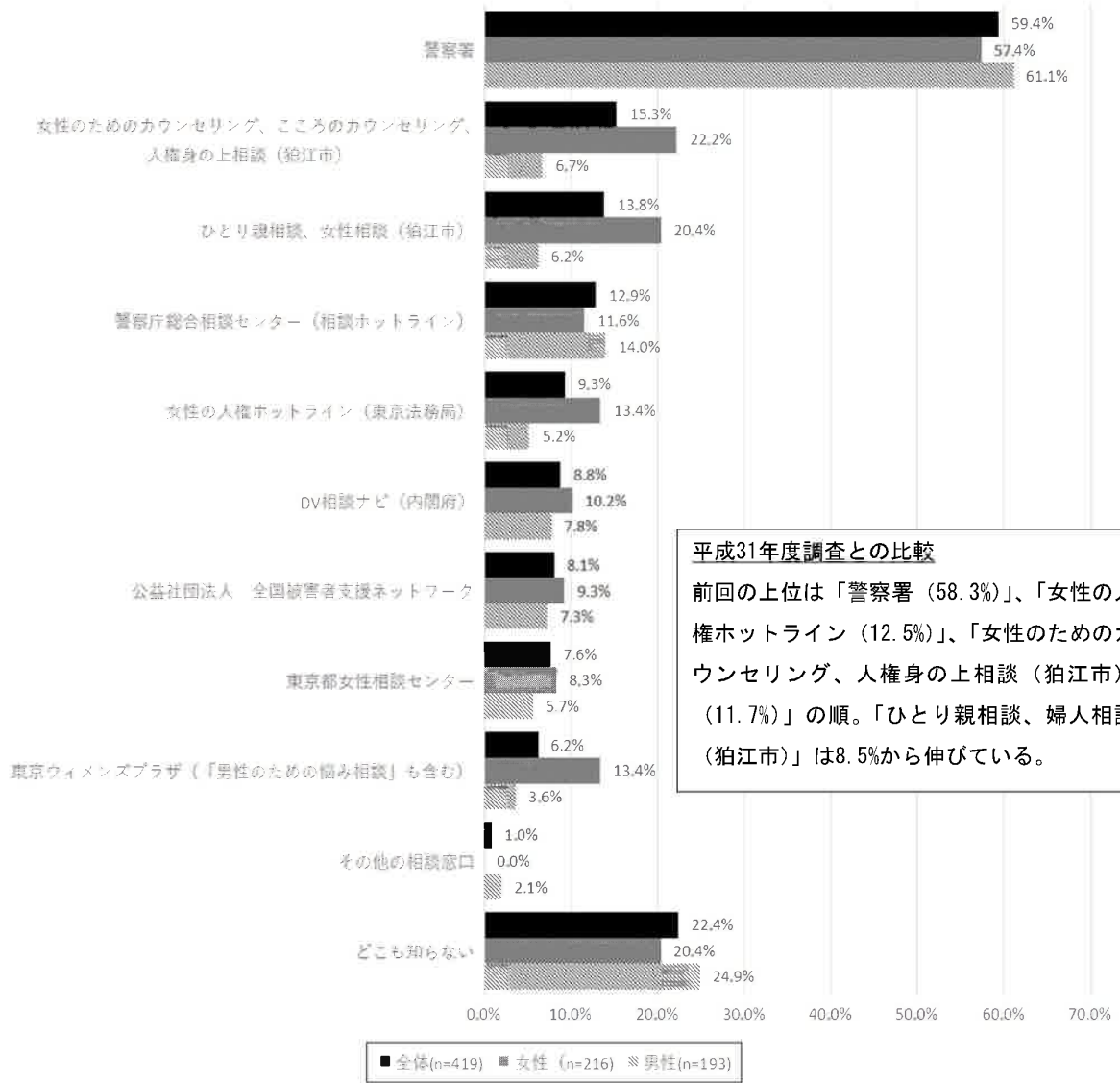
前回の上位は「相談するほどのことではないと思ったから(43.2%)」、「相談しても無駄だと思ったから(37.0%)」、「自分にも悪いところがあったから(25.9%)」の順。

(5) 暴力に関する相談先の認知

◇「警察署」が6割弱

問21 あなたは、配偶者やパートナー、交際相手からの暴力について、次の相談するところを知っていますか。(〇はいくつでも)

図4-5 暴力に関する相談先の認知



平成31年度調査との比較
 前回の上位は「警察署(58.3%)」、「女性の人権ホットライン(12.5%)」、「女性のためのカウンセリング、人権身の上相談(狛江市)(11.7%)」の順。「ひとり親相談、婦人相談(狛江市)」は8.5%から伸びている。

配偶者やパートナー、交際相手からの暴力について相談できるところの認知度については、「警察署」(59.4%)が最も多くなっている。次いで、「女性のためのカウンセリング、こころのカウンセリング、人権身の上相談(狛江市)」(15.3%)、「ひとり親相談、女性相談」(13.8%)の順となっている。一方で、「どこも知らない」は22.4%となっている。

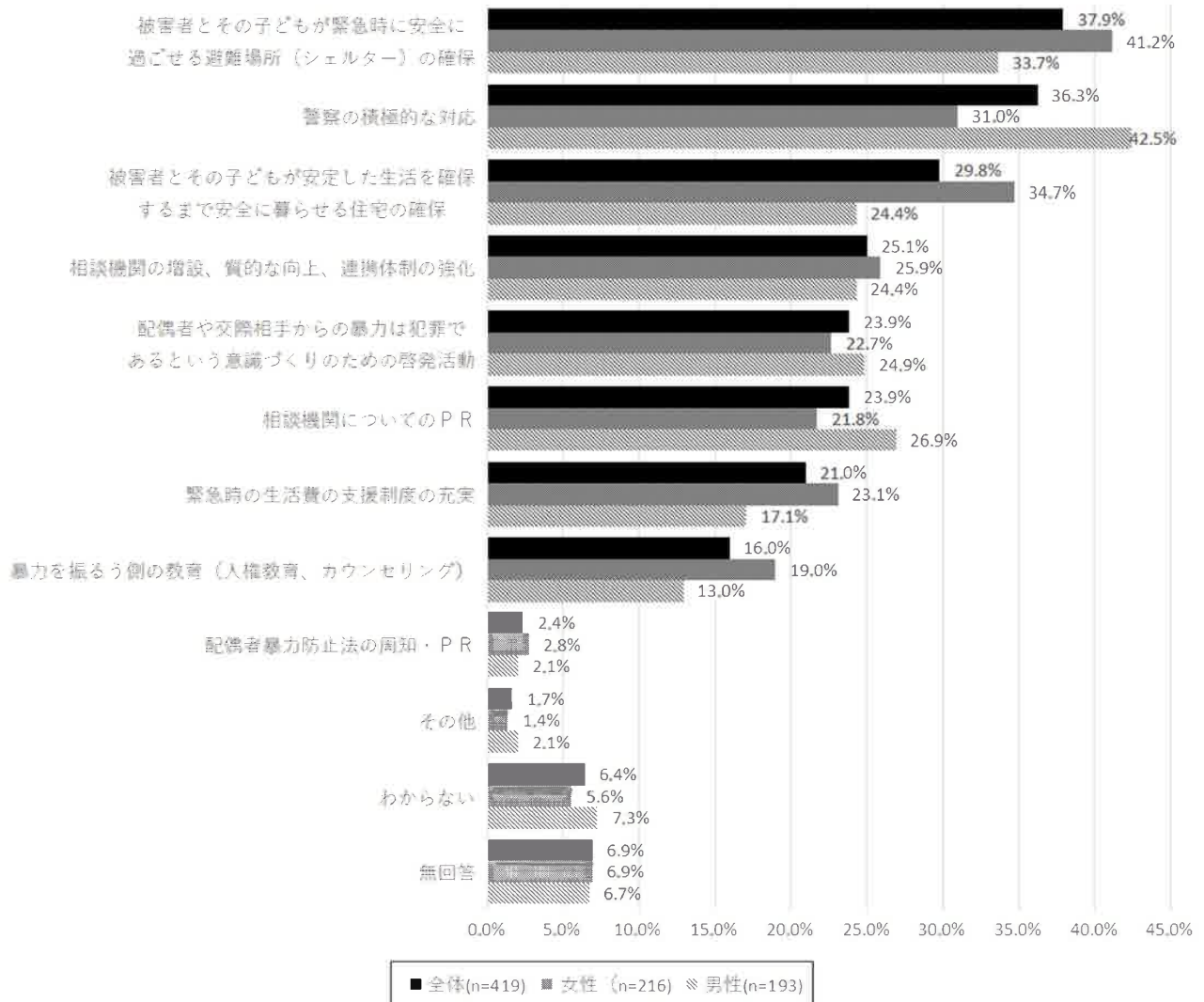
性別でみると、女性では男性よりも「女性のためのカウンセリング、こころのカウンセリング、人権身の上相談(狛江市)」が15.5ポイント、「ひとり親相談、女性相談(狛江市)」が14.2ポイント高く、男性では女性よりも「警察署」が3.7ポイント、「警視庁総合相談センター(相談ホットライン)」が2.4ポイント高くなっている。

(6) 暴力に対する対策や支援に必要なこと

◇「被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所（シェルター）の確保」が4割近く

問22 あなたは、配偶者やパートナー、交際相手からの暴力に対する対策や支援として、特にどのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

図4-6 暴力に対する対策や支援に必要なこと



配偶者やパートナー、交際相手からの暴力に対する対策や支援で必要なことについては、「被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所（シェルター）の確保」（37.9%）が最も多くなっている。次いで、「警察の積極的な対応」（36.3%）、「被害者とその子どもが安定した生活を確保するまで安全に暮らせる住宅の確保」（29.8%）、「相談機関の増設、質的な向上、連携体制の強化」（25.1%）の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所（シェルター）の確保」が8.2ポイント高く、男性では女性よりも「警察の積極的な対応」が11.5ポイント高くなっている。

「その他」として、「相互の理解」、「幼い期間からの教育」、「相談機関の積極的な介入」、「相手側の家族に協力してもらうための第三者の介入」等が挙げられた。

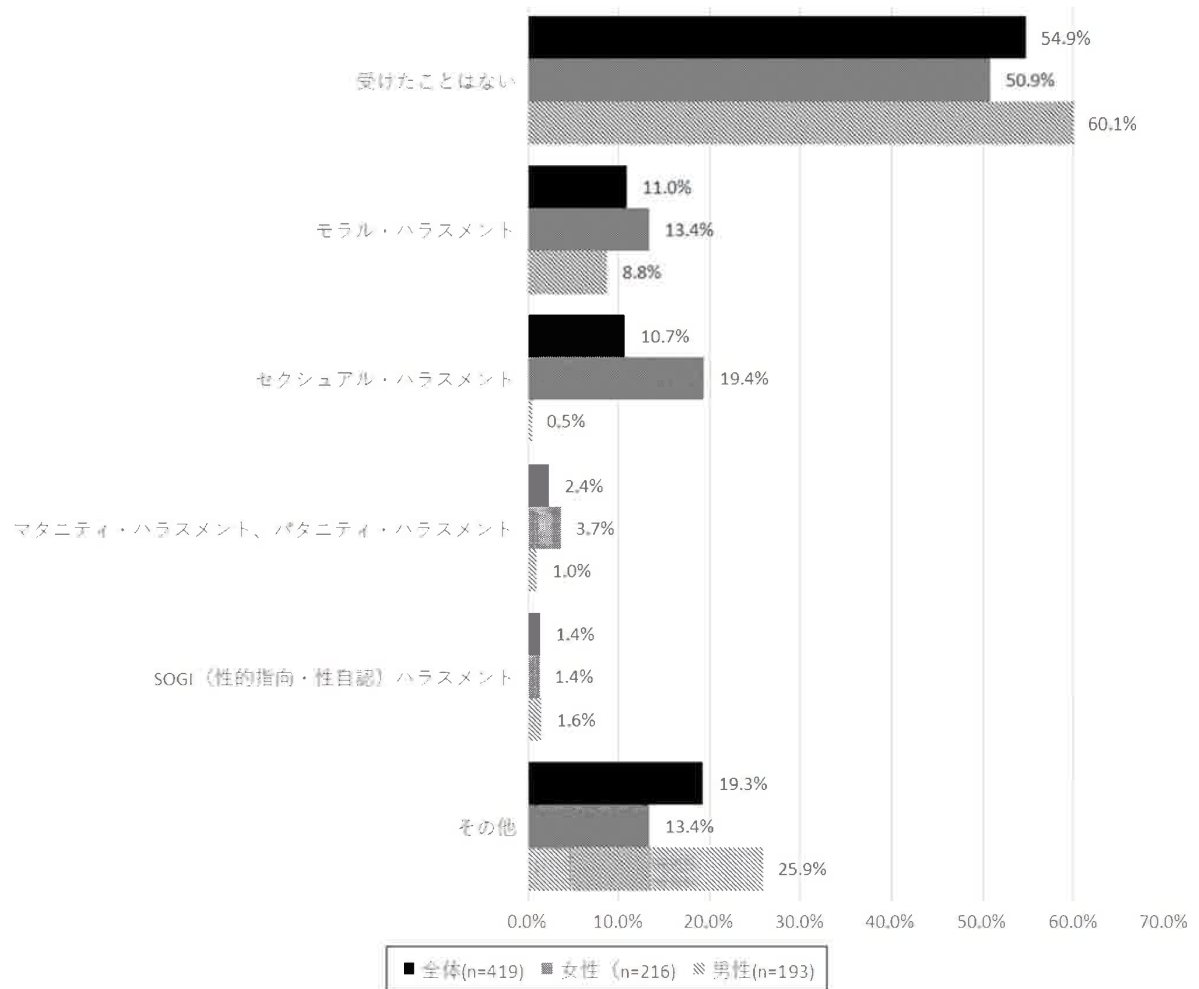
5. ハラスメント、ストーカーについて

(1) ハラスメントの経験

◇「モラル・ハラスメント」が1割強

問23 あなたは、職場等で次にあげるようなハラスメントを受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

図5-1 ハラスメントの経験



職場等でのハラスメントの経験については、「モラル・ハラスメント」(11.0%)が最も多く、次いで、「セクシュアル・ハラスメント」(10.7%)、「マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント」(2.4%)の順となっている。一方、「受けたことはない」(54.9%)は5割台半ばとなっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「セクシュアル・ハラスメント」が18.9ポイント、「モラル・ハラスメント」が4.6ポイント高くなっている。

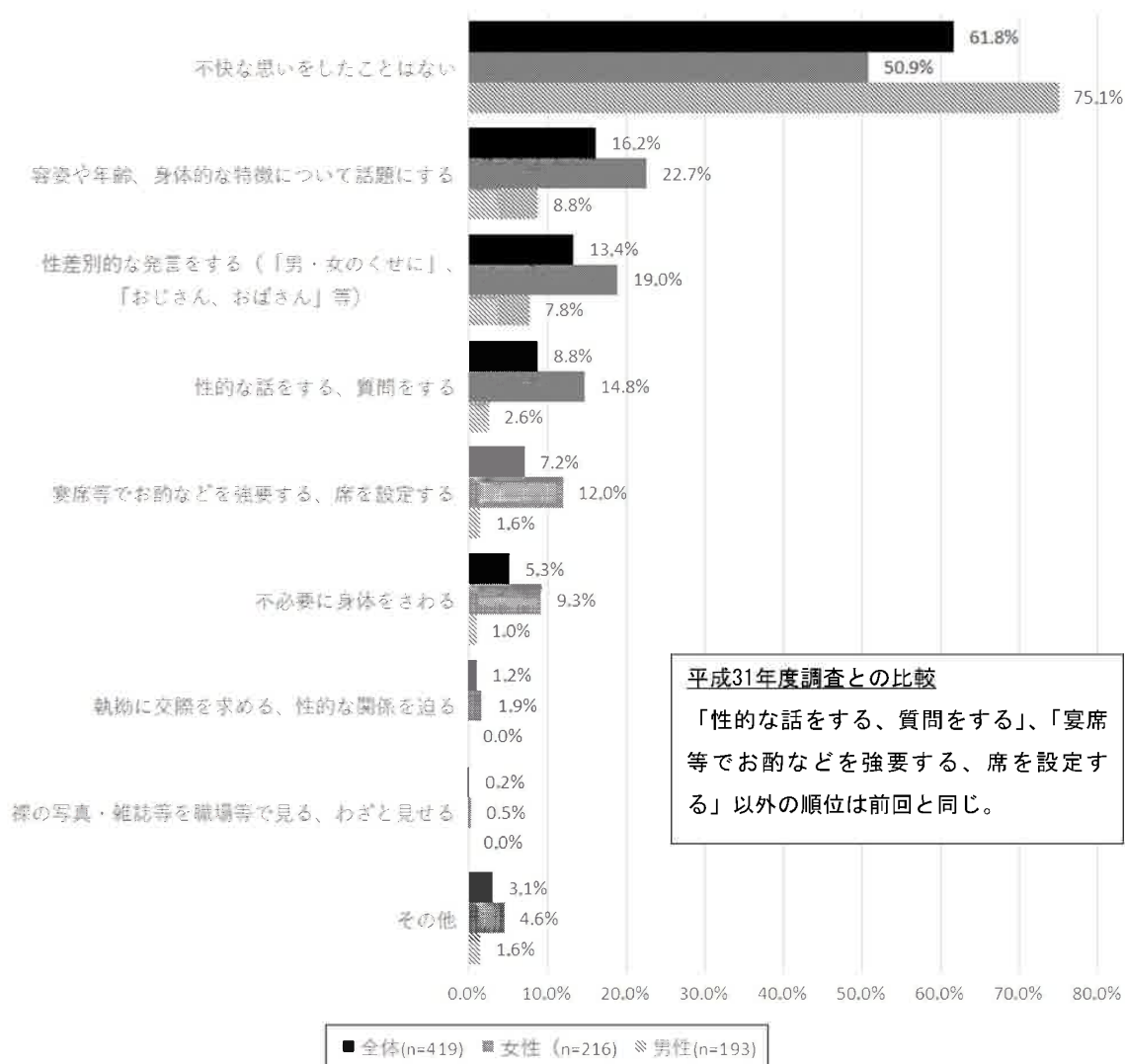
「その他」として、「パワー・ハラスメント」等が挙げられた。

(2) セクシュアル・ハラスメントの経験

◇「容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする」が2割近く

問24 セクシュアル・ハラスメントは、職場等において、性的な言動により相手を不快にさせたり、相手の意に反して性的な行為を強要したりする状態です。あなたは、次のような行為を受け、不快な思いをしたことがありますか。(〇はいくつでも)

図5-2 セクシュアル・ハラスメントの経験



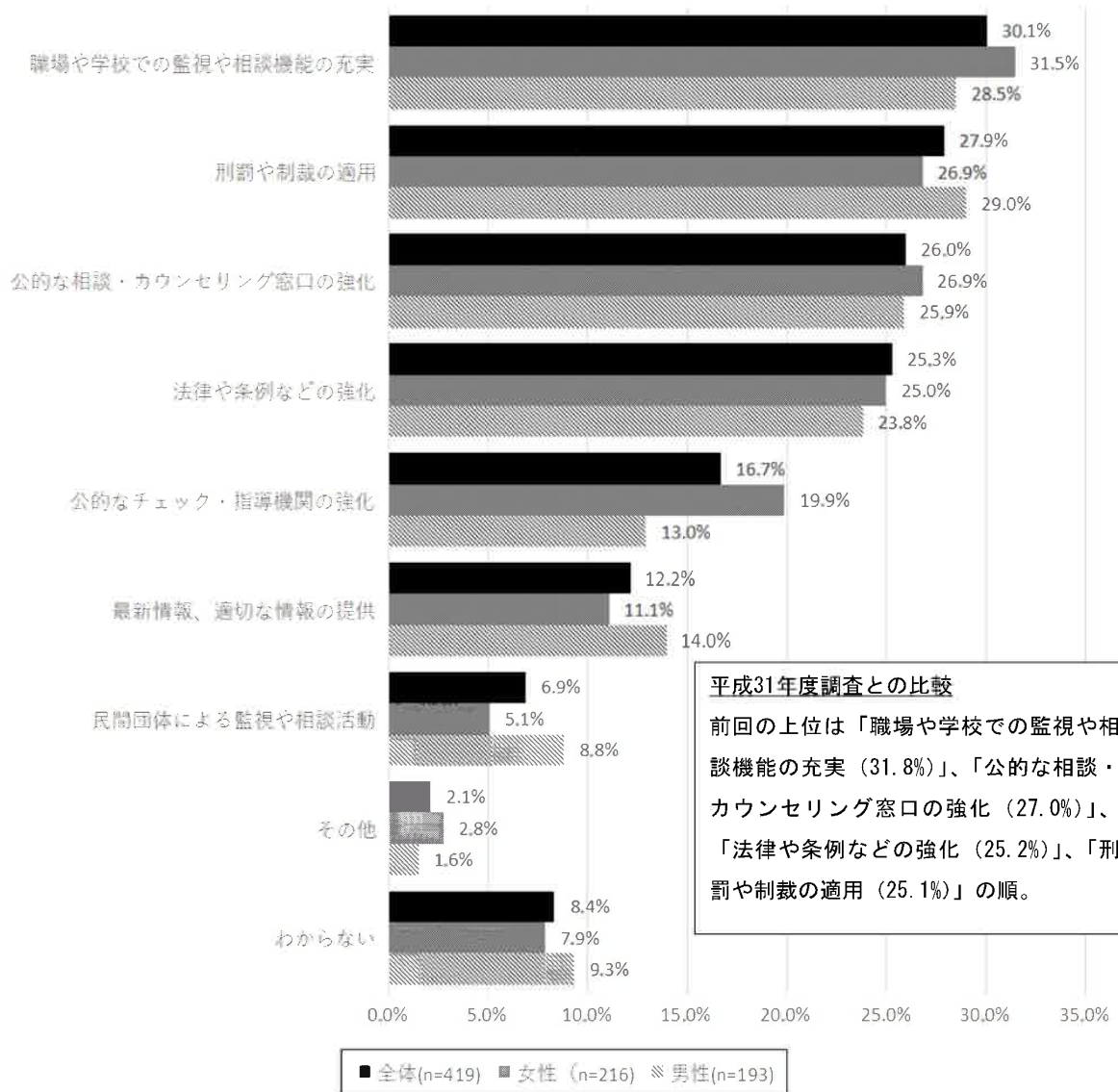
職場等における不快な思いをした経験については、「容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする」(16.2%)が最も多く、次いで、「性差別的な発言をする」(13.4%)、「性的な話をする、質問をする」(8.8%)の順となっている。一方、「不快な思いをしたことはない」(61.8%)は6割強となっている。性別でみると、女性では男性よりも「容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする」が13.9ポイント、「性的な話をする、質問をする」が12.2ポイント高くなっている。

(3) セクシュアル・ハラスメントの対策

◇「職場や学校での監視や相談機能の充実」が約3割

問25 あなたは、セクシュアル・ハラスメントをなくすためには、どのような対策が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

図5-3 セクシュアル・ハラスメントの対策



セクシュアル・ハラスメントをなくすために必要な対策については、「職場や学校での監視や相談機能の充実」(30.1%)が最も多くなっている。次いで、「刑罰や制裁の適用」(27.9%)、「公的な相談・カウンセリング窓口の強化」(26.0%)、「法律や条例などの強化」(25.3%)の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「公的なチェック・指導機関の強化」が6.9ポイント高く、男性では女性よりも「刑罰や制裁の適用」が2.1ポイント高くなっている。

「その他」として、「職場でハラスメント講習」、「考え方、知識等を深める施策」、「何かセクシュアル・ハラスメントに該当するかの認識」、「教育」等が挙げられた。

平成31年度調査との比較

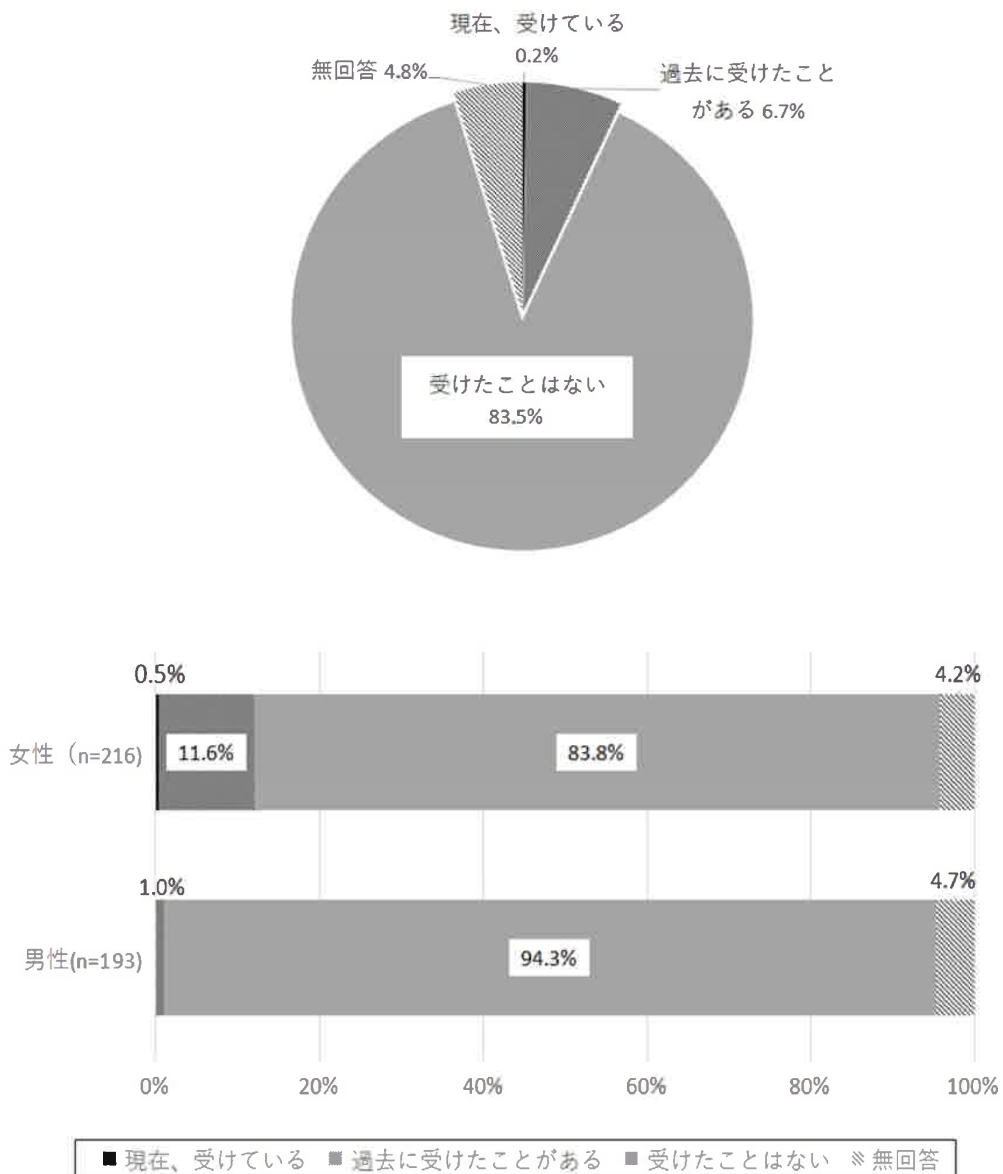
今回は「現在受けている（0%）」、「過去に受けたことがある（9.3%）」、「受けたことはない（83.5%）」

(4) ストーカー行為を受けた経験

◇「受けたことはない」が8割強

問26 あなたは、嫌がっているのに、面会・交際を要求されたり、しつこく電話やメールをされたり、特定の異性に付きまとわれたりする等のストーカー行為を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

図5-4 ストーカー行為を受けた経験



ストーカー行為を受けたことについては、「受けたことはない」(88.3%)が最も多くなっている。一方で、「過去に受けたことがある」(6.7%)、「現在、受けている」(0.2%)となっている。性別で見ると、女性では男性よりも「過去に受けたことがある」が10.6ポイント高くなっている。

(5) 相談の有無

平成31年度調査との比較

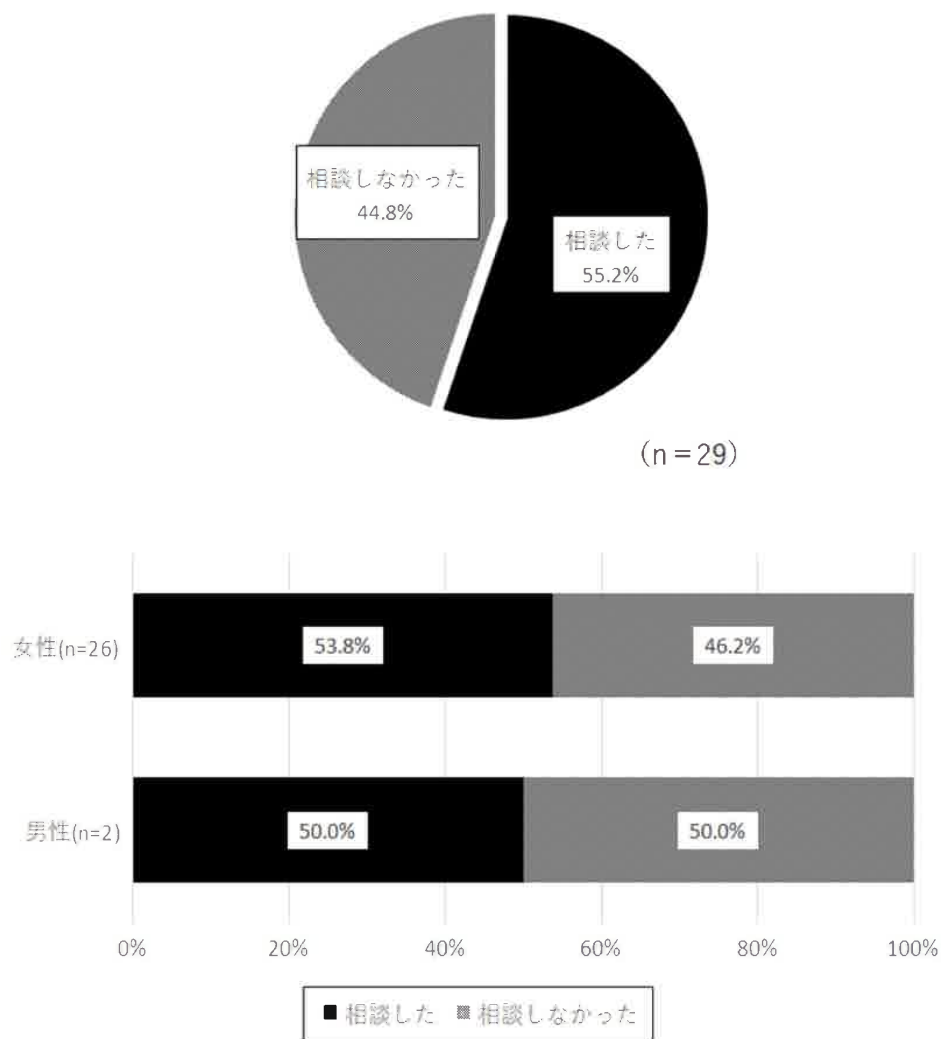
前は「相談した (51.7%)」、「相談しなかった (48.3%)」

◇ 「相談した」が5割台半ば

問26-1 (問26で「1」又は「2」とお答えの方にお聞きします)

あなたは、誰(どこ)かに打ち明けたり相談したりしましたか。(○は1つだけ)

図5-5 相談の有無



ストーカー行為を受けたことがある人のうち、誰(どこ)かに「相談した」(55.2%)と「相談しなかった」(44.8%)は、約半数ずつとなっている。

平成31年度調査との比較

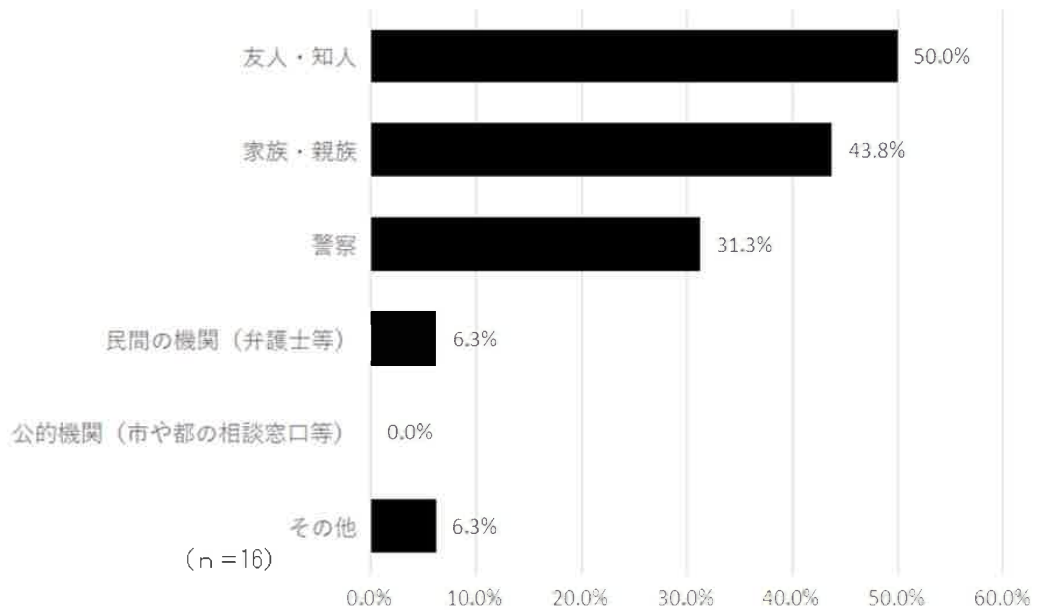
順位については前回と同じ。「警察」は前回の10.0%から伸びている。「公的機関」は前回も0%。

(6) 相談先

◇「友人・知人」が5割

問26-1-1 (問26-1で「1相談した」とお答えの方にお聞きします)
誰(どこ)に相談しましたか。(〇はいくつでも)

図5-6 相談先



相談先については、「友人・知人」(50.0%)が最も多くなっている。次いで、「家族・親族」(43.8%)、「警察」(31.3%)の順となっている。

「その他」として、「上司」が挙げられた。

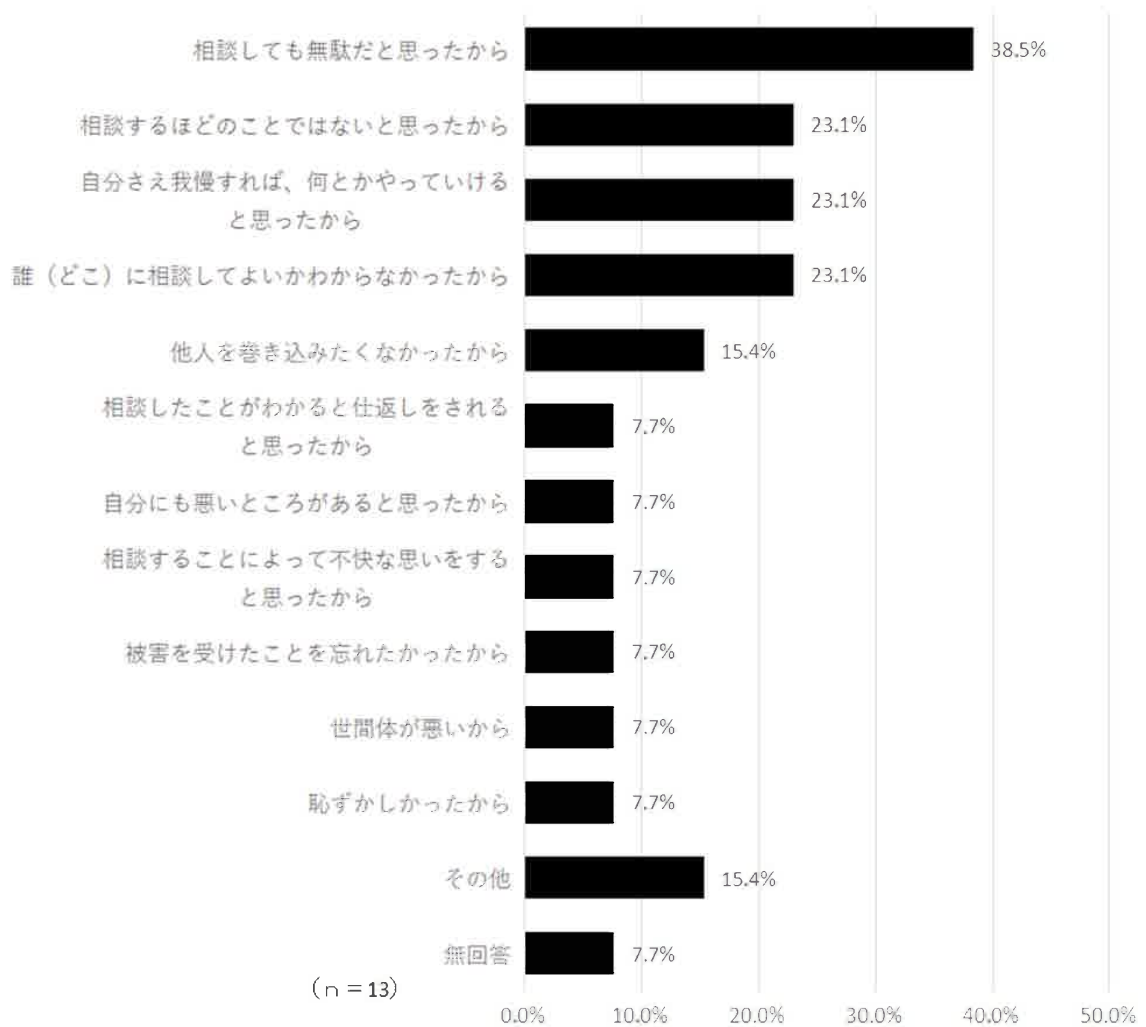
(7) 相談しなかった理由

平成31年度調査との比較
上位3項目は前回と同じ。

◇「相談しても無駄だと思ったから」が4割近く

問26-1-2 (問26-1で「2相談しなかった」とお答えの方にお聞きします)
誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図5-7 相談しなかった理由



相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」(共に39.3%)が最も多くなっている。

「その他」として、「警察に相談したことがあるが、男性の警察官に高圧的な態度でこちらに非があるような対応をされ、積極的に動いてもらえなかったから」等が挙げられた。

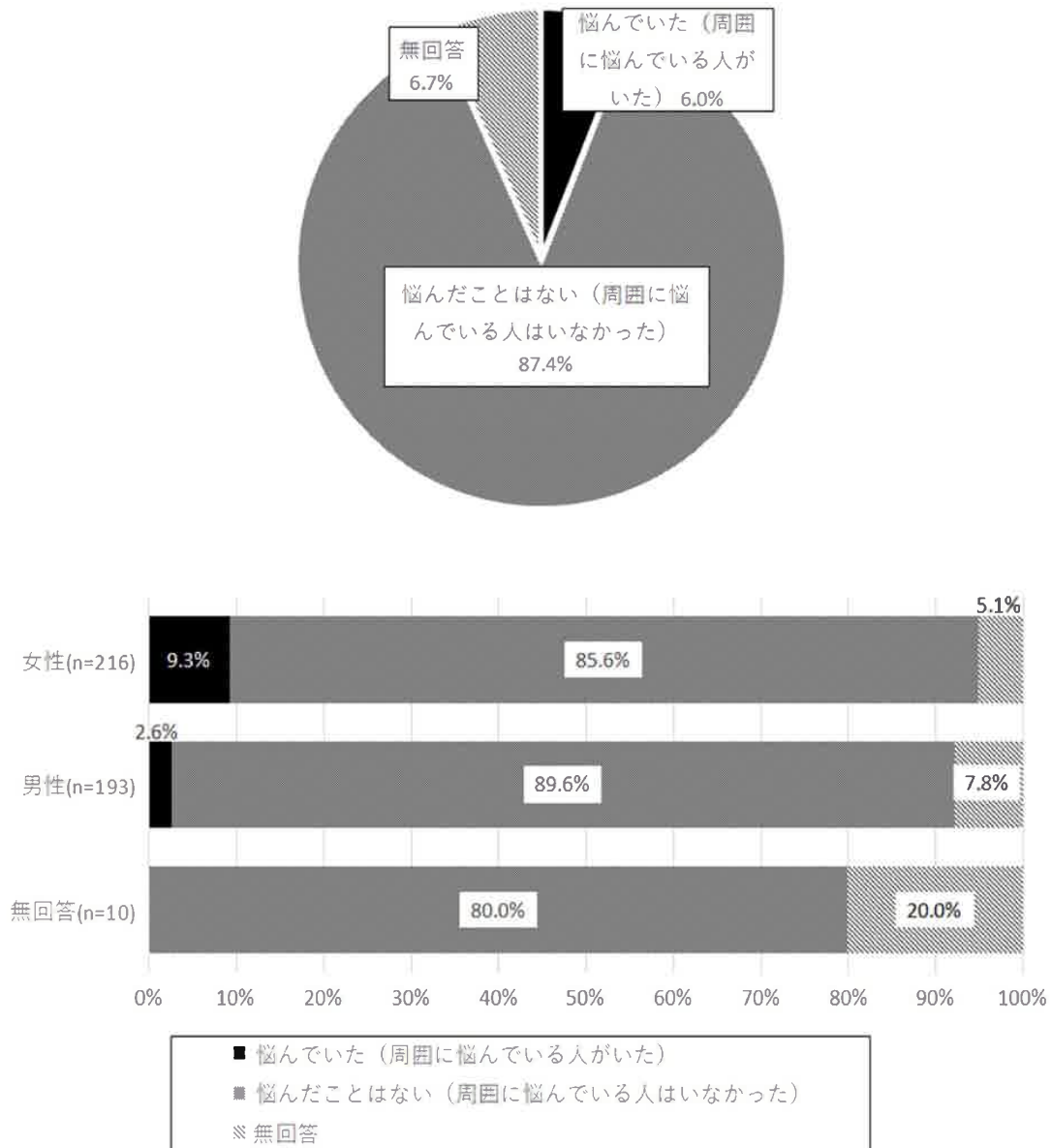
6. セクシュアル・マイノリティ（LGBTなど）について

（1）性についての悩みの有無

◇「悩んだことはない」が9割近く

問27 あなたは今までに、自分の性別に違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなど、性について悩んだことがありますか。又は、周囲で悩んでいる人はいましたか。（○は1つだけ）

図6-1 性についての悩みの有無



性については、「悩んでいた（周囲に悩んでいる人がいた）」（6.0%）、「悩んだことはない（周囲に悩んでいる人はいなかった）」（87.4%）となった。

平成31年度調査との比較

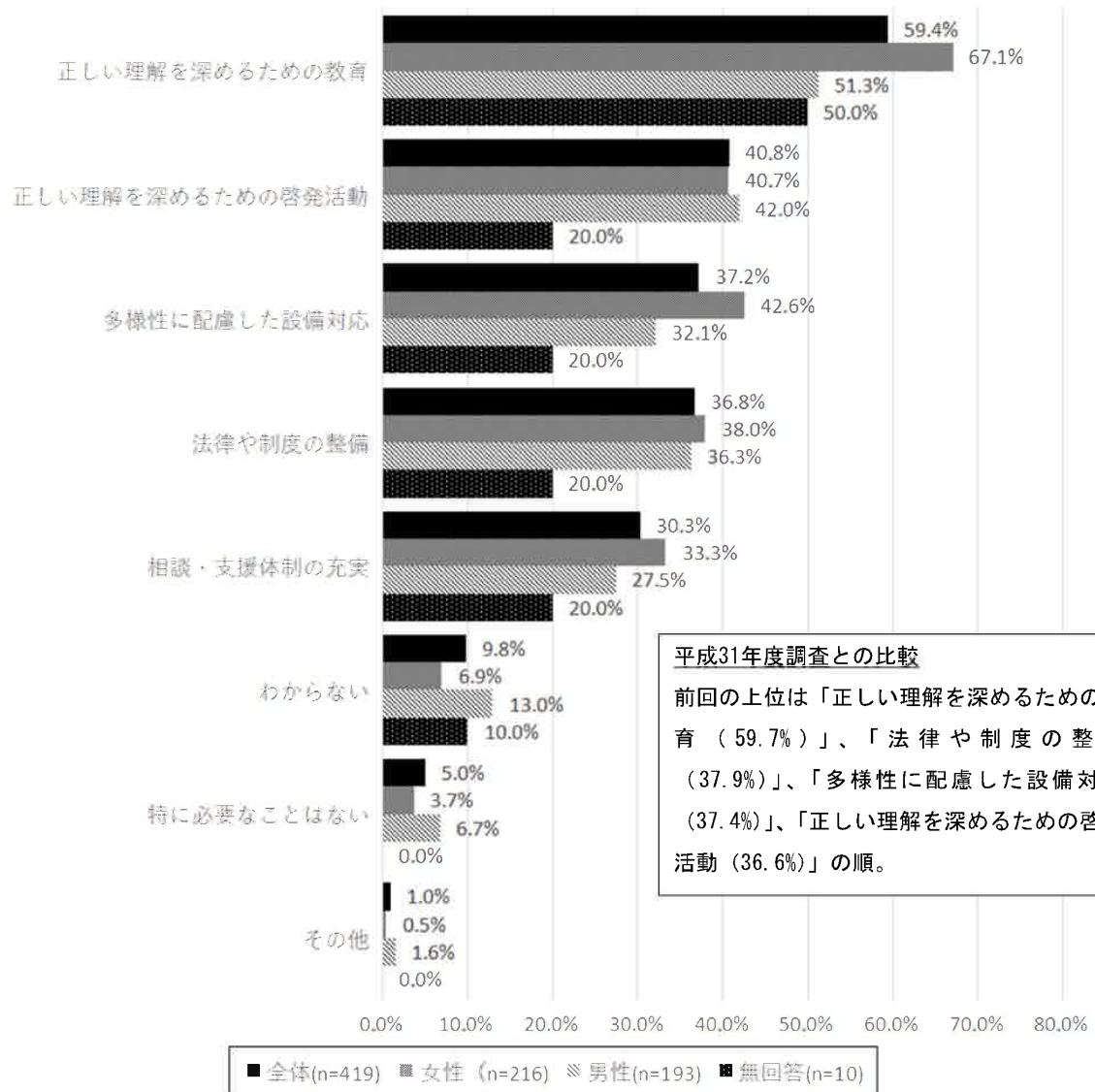
前回は「悩んでいた（6.9%）」、「悩んだことはない（83.9%）」。また、性別無回答者は「悩んでいた」が40.0%を占めていた。

(2) セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るために必要な施策

◇「正しい理解を深めるための教育」が6割弱

問28 あなたは、「セクシュアル・マイノリティ」の人々の人権を守るために、特にどのような施策が必要だと思われますか。(〇はいくつでも)

図6-2 必要な施策



平成31年度調査との比較
 前回の上位は「正しい理解を深めるための教育（59.7%）」、「法律や制度の整備（37.9%）」、「多様性に配慮した設備対応（37.4%）」、「正しい理解を深めるための啓発活動（36.6%）」の順。

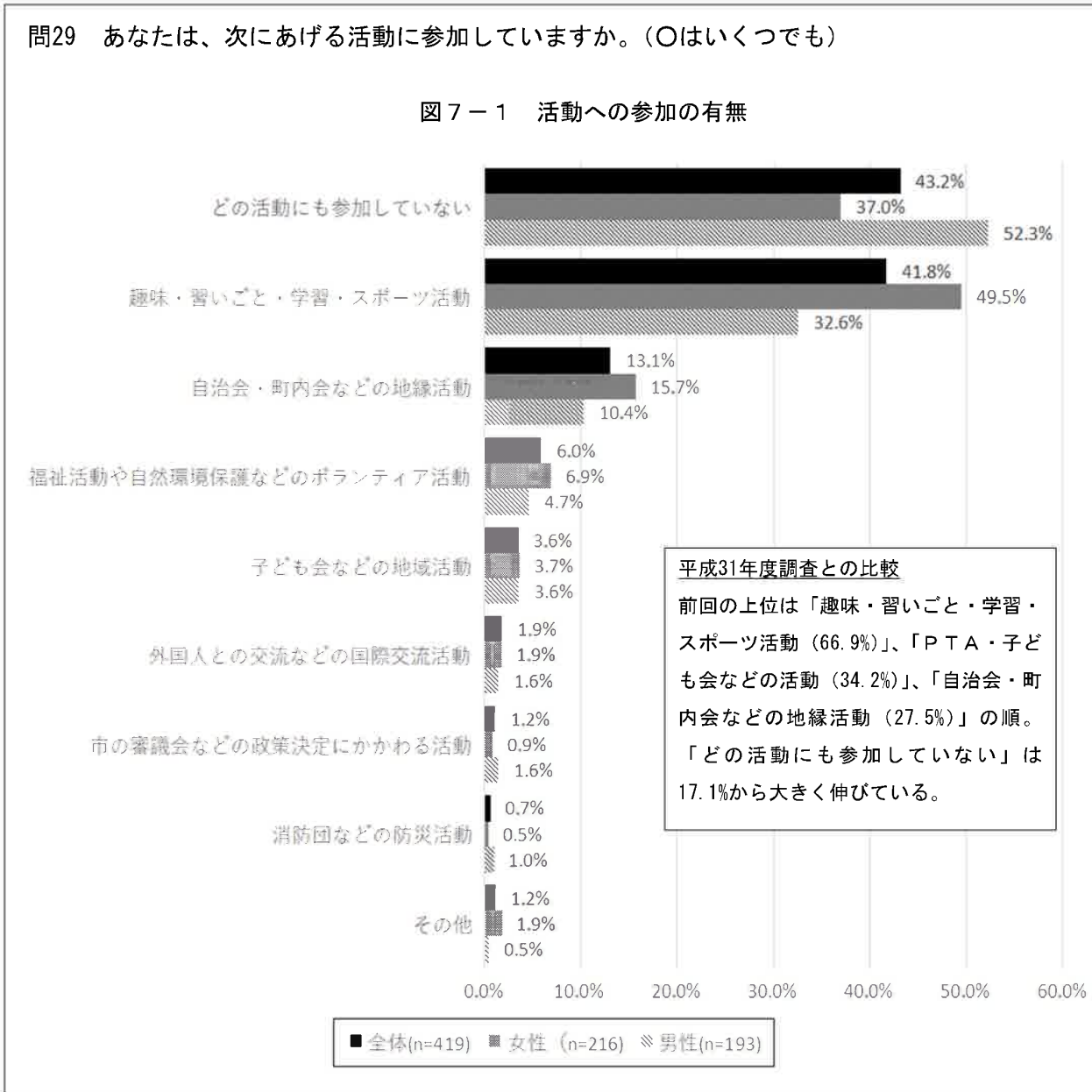
「セクシュアル・マイノリティ」の人々の人権を守るための施策については、「正しい理解を深めるための教育」(59.4%)が最も多くなっている。次いで、「正しい理解を深めるための啓発活動」(40.8%)、「正しい理解を深めるための啓発活動」(40.8%)、「多様性に配慮した設備の対応」(37.2%)の順となっている。

「その他」として、「マイノリティでない人々と同じ権利を法律で保証する」等が挙げられた。

7. 社会参加について

(1) 活動への参加の有無

◇「趣味・習いごと・学習・スポーツ活動」が6割台半ば



参加したことがある活動については、「趣味・習いごと・学習・スポーツ活動」(41.8%)が最も多くなっている。次いで、「自治会・町内会などの地縁活動」(13.1%)、「福祉活動や自然環境保護などのボランティア」(6.0%)の順となっている。

一方、「どの活動にも参加したことがない」(43.2%)は4割強となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「趣味・習いごと・学習・スポーツ活動」が16.9ポイント高くなっている。また、男性では女性よりも「どの活動にも参加したことがない」が15.3ポイント高くなっている。

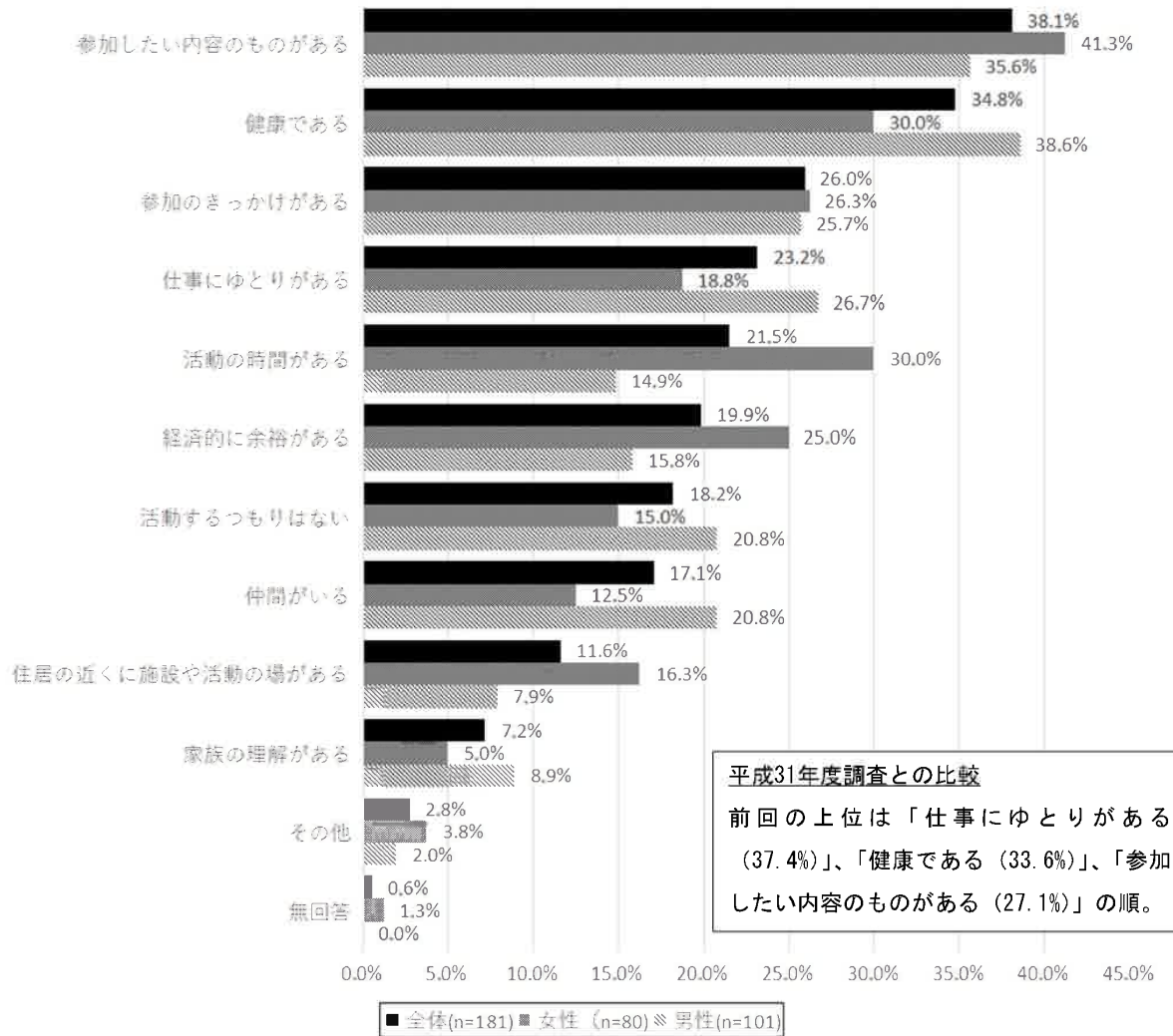
「その他」として、「子どもの学校での活動」、「フードバンク」等が挙げられた。

(2) 地域の活動や行事に参加するための条件

◇「参加したい内容のものがある」が4割近く

問29-1 (問29で「9どの活動にも参加していない」とお答えの方にお聞きします)
 今後、あなたが地域の活動や行事に参加しようとする場合に、必要な条件は何ですか。
 (〇は3つまで)

図7-2 地域の活動や行事に参加するための条件



平成31年度調査との比較
 前回の上位は「仕事にゆとりがある (37.4%)」、「健康である (33.6%)」、「参加したい内容のものがある (27.1%)」の順。

地域の活動や行事に参加したことがないと回答した181人に対して、参加する場合に必要な条件を聞いたところ、「参加したい内容のものがある」(38.1%)が最も多くなっている。次いで、「健康である」(34.8%)、「参加のきっかけがある」(26.0%)、「仕事にゆとりがある」(23.2%)の順となっている。性別で見ると、男性では女性よりも「健康である」が8.6ポイント高く、女性では男性よりも「活動の時間がある」が15.1ポイント高くなっている。

「その他」として、「時間、日程が合うこと」、「障がいのある子を2人気楽に預けることができること」等が挙げられた。

平成31年度調査との比較

前回の上位は「介護サービスの充実（30.2%）」、「子育てサービスの充実（28.8%）」、「暮らしやすい環境づくり（24.3%）」、「男性の家事、育児、介護等への参加と意識改革（23.2%）」の順。

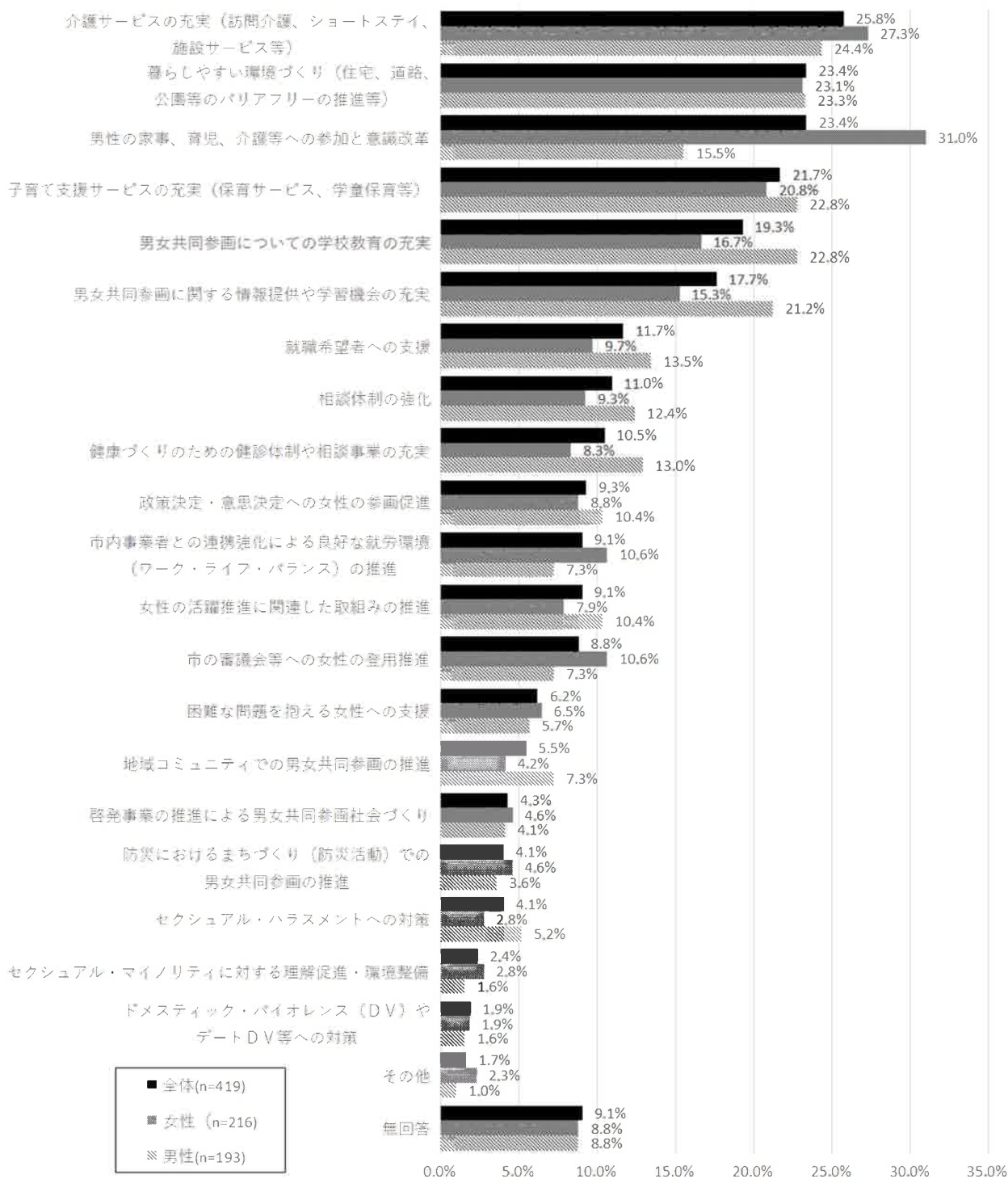
8. 市の施策について

（1）男女共同参画社会づくりのために重要な施策

◇「介護サービスの充実」が2割台半ば

問30 今後、狛江市における男女共同参画社会づくりのために、どのような施策に力を入れるべきだと思いますか。（〇は3つまで）

図8-1 男女共同参画社会づくりのために重要な施策

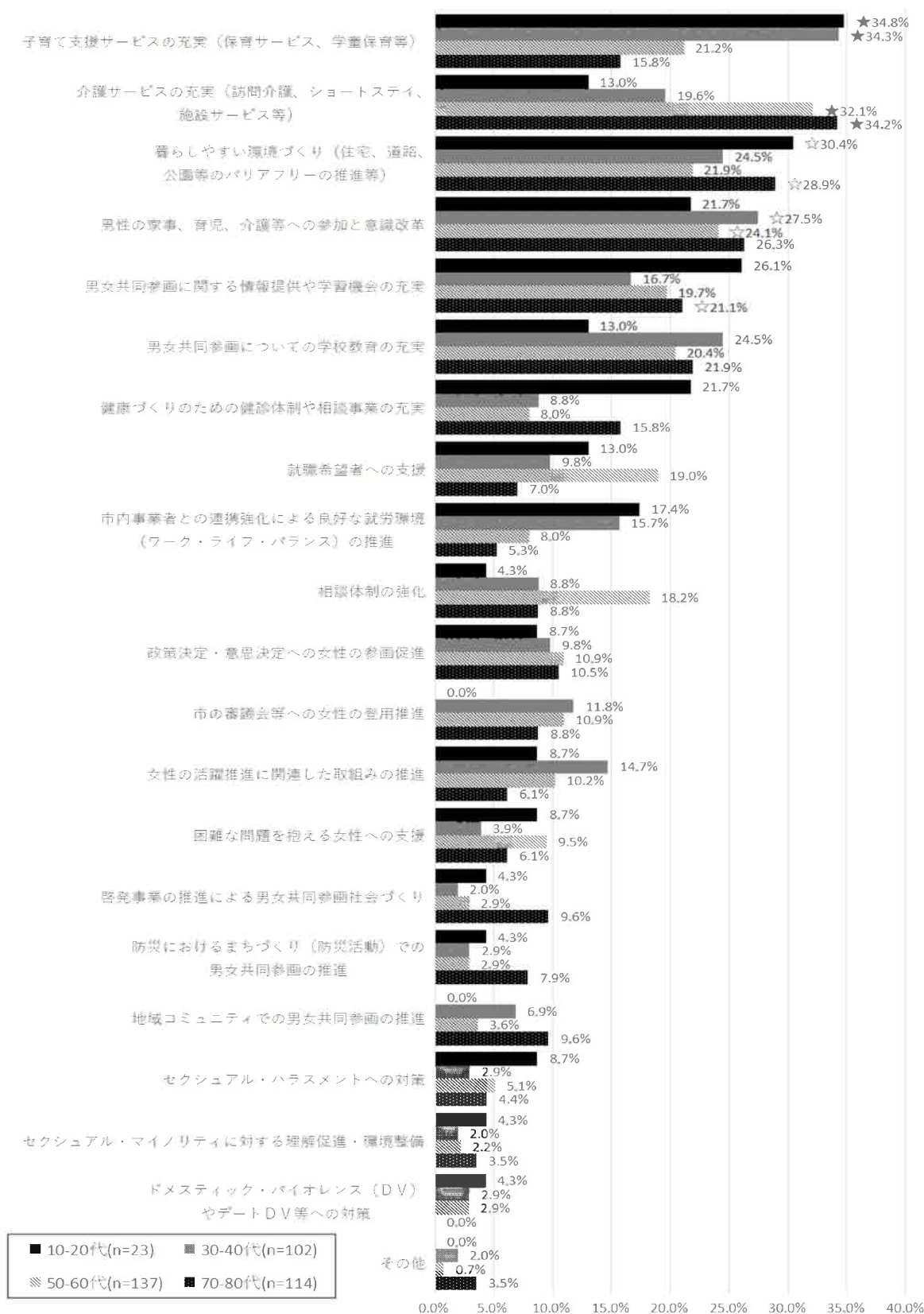


今後、狛江市における男女共同参画社会づくりのために力を入れるべき施策については、「介護サービスの充実（訪問介護、ショートステイ、施設サービス等）」（25.8%）が最も多くなっている。次いで、「暮らしやすい環境づくり（住宅、道路、公園等のバリアフリーの推進等）」（23.4%）、「男性の家事、育児、介護等への参加と意識改革」（23.4%）、「子育て支援サービスの充実（保育サービス、学童保育等）」（21.7%）の順となっている。

性別で見ると、女性では男性よりも「男性の家庭責任（家事、育児、介護等）への参加と意識改革」が15.5ポイント高く、男性では女性よりも「男女共同参画についての学校教育」が6.1ポイント高くなっている。

「その他」として、「遠方に住む人への介護のための支援」、「男女とも地域活動に参加すること」、「自立、思いやり、協力の社会づくり」、「よく分からない」等が挙げられた。

図8-1-1 男女共同参画社会づくりのために重要な施策（年代別）



※各年代における1位の項目に★、2位の項目に☆を付けている。

10代～40代では、「子育て支援サービスの充実（保育サービス、学童保育等）」（10代・20代：34.8%、30代・40代：34.3%）が最も多く、50代～80代では、「介護サービスの充実（訪問介護、ショートステイ、施設サービス等）」（50代・60代：32.1%、70代・80代：34.2%）が最も多くなっている。次いで、10代・20代、70代・80代では、「暮らしやすい環境づくり（住宅、道路、公園等のバリアフリーの推進等）」（10代・20代：30.4%、70代・80代：28.9%）、30代～60代では、「男性の家事、育児、介護等への参加と意識改革」（30代・40代：27.5%、50代・60代：24.1%）がそれぞれ多くなっている。

(2) 自由記入

問31 最後に、身の周りの男女共同参画に関する事で、思うこと・気付いたこと、また市の男女共同参画施策についてのご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

回答件数は85件であった。その中から、抜粋した意見・感想を掲載した。内容については意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したものもある。

<社会における男女共同参画意識について>

1. 問30はどれも大切で選ぶのが難しいのですが、どんなに意識を高めても実際に行動する時に会社がその意識に達していないとやはり休みにくい。男女とも参画しにくいのが現状ではないでしょうか。社会全体が問30のような施策への努力も絶対に必要だと思います。
2. 色々と敏感になっている時代ではありますが、暮らしやすい環境を作るのが大事だと思う。
3. 形式に拘らず実質的に進める必要がある。男、女が全く同じレベルで分け隔てなくやるのは、合理的ではないが、男だから女だからということで役割りをあてがうのもおかしい。それぞれの個人に応じた仕事、役割を考えるべき。
4. 「男女」共同参画ということ事態が、ジェンダフリーと相入れない考えだと思います。非常に矛盾を感じます。
5. 1にも2にも啓蒙教育!!学校、家庭、職場、地或での!!
6. 私共の時代から比べますと、今の人たちは、根本的に、男女共同参画ができています。
7. 男女共同参画という社会づくりについての意識が自分も含め少ないと思う。職場や地域コミュニティ等絶対に男性が多く、女性が出来ることにある種限界があり男性に委託する部分が多くなるので協力して共同していくことが必要だと感じます。
8. 性の多様な関係性について寛容である社会をつくること。
9. 後期高齢者の私達たちの時代は、家事、育児、親の介護は、嫁(女性)の仕事と言われてきました。現在は、人手不足ということもあり、共稼ぎの家庭が当たり前になってきていますが、男性(パートナー)の意識が、変わらなければ、(現在の皆様のご家庭事情は分かりませんが)妊娠、出産もあり、女性の負担は、大きくなるばかりだと思います。子育て支援サービス、介護サービス等の充実に加え、男性の意識改革(今の若い方々のカップルの状況は全く存じ上げておりません。きっと男性の方々も、大変な事情があるのかもしれませんが。)も、(共に協力して、生きる事)早急に必要な事と思われまます。
10. 個性を理解し、認めていく社会づくり。また、安全、安心の社会づくりと声かけ(一步離れて)お互いに見守る社会づくりが必要だと思います。
11. 子育てへの理解度が少ない(特に男性)と、女性しか出来ない出産や授乳の時期を考えると、子どもを持つとする意欲が保てないのではないか。子どもの数が減少している昨今、グローバルに考えても、人口が減少していく日本を危機感を持って考えていく必要がある。
12. 男性の育児、家庭生活等の協力する意識、認識はまだまだ低いと感じる。また、会社等の理解等もまだまだだと感じる。女性の負担が多すぎる。支援サービスに於いても何かと条件つきが多く、利用できる人が少ないと感じる。もっと気軽にサービスを利用できるようになればよいと思っている。
13. まだまだ共同参画という言葉の意味がよく分からない。男性・女性の特に(別に)分けるのではなくて適材・適所でやればよいのでは。
14. 年長者が、意識改革なされないと難しいかと思われまます。多様化への順応性は、どうしても若者

の方が優れている状況です。

15. 女性の賃金が低い。能力で評価されていない。啓発は無意味。具体的な対応が必要。
16. 男女が不平等であるという認識が私自身にない。どういう所で不平等が現実に生じているのかを知る機会もない。単に個人的な感覚ではなく、現に不利益が生じているのであればその事実を知りたい。育児・介護・LGBTも同じで現実に生じている不利益損害の事実を知らないと、当事者目線で考えられない。
17. 「男女共同参画」「セクハラ」「LGBTQ」等への対応が不十分とのベースで質問されている感がありますが、制度的にはけっこう整備されているように感じます。社会の喫緊の課題としては「子どもをいかに増やすか」の1点にしばり、諸施策を実行すべきと考えます。
18. 超高齢で足腰の筋力が衰え、人助けをしようと思ってもなかなかうまくいきません。やはり男性の力強い方に、お願いしたく思ってしまう。男性、女性とは、仕事の役割が違う事が多く有り、平等になんでもなるという事は難しい問題である。介護にしても、例えば入浴介助、おむつ交換等は女性の方に、お願いしたく思ってしまう。狛江市議では、女性が多く当選しているので男女格差がなくなり今後期待したい。
19. 男性差別も同様に力を入れてほしい。男性の方が寿命が短く、ストレスも多い。
20. 社会全体での意識改革と幅広い世代に関心を持ってもらうことが求められると思います。
21. 身近に頼れる人、任せられる人、互いに協力してくれる人がいないから今のような問題が起っています。親類縁者が近くにいなくなってしまった現代、ご近所と協力することが必要ですが、個人主義により互いを知ることもなく深く関わることなどあり得なくなっています。行政や民間のサービスに頼ることも費用がかかり、また臨機応変な対応も不可なのが現状です。結局個人が頑張るしかないというのが現代社会だと考えています。
22. 男女共同参画を推進することは、育児休業などで職場に相応の負担がかかることにつながる。これはやむを得ないことであるが、十分な人員が確保できてこそ成立しうるものであることは忘れてはならないと考える。
23. これまでは男尊女卑、そして弱者保護はいいのだが、時々それを逆手に取って、勘違いする女性の出現も見受けられる。男女平等は同意するが、女性側の白意識過剰への監視も同時に必要である。
24. まだまだ社会全体の意識や知識が足りないと感じています。子育ての支援をするシステムや介護の負担を減らす仕組み、施設などを充実させていただきたいです。
25. どちらかといえば、年代が上の世代は「女性は子育て、家庭を守るのが仕事」という考えが多いと思う。私の家庭でも、主人は仕事ばかりで協力的でなかった。仕事も家事も子育てもほとんど1人でやってきた。もっと、昔から協力体制があったら、もっと助かったのに…と思うことはあります。今の若い世代は、体制も昔より整ってきているし、男性も協力的だと思う。(保育園に勤務しているが、お父様たちの送迎も多く、協力的だと思う。)啓発活動の対象は、やはり40代以上の男性じゃないのかと思います。そうしないと、考えが変わらないと進んでいかないと思います。
26. 子どもは、乳幼児期は親がお世話をするのが精神的にも安定して、その後にも影響していくと思います。乳児だからと保育園などに全面的に預けるのではなく、どうしても必要な時(親の不調や、買い物、リフレッシュ、美容院など)に気軽に利用できる施設、制度がもっと広まれば良いなと思います。仕事をフルタイムでやりながらの子育ては親の気力や心の余裕も失ってしまうものです。また、働いてる環境での理解のなさも、横で見ているとつらい気持ちになることがあります。突然病気で欠勤したなどののしわ寄せで仕事先に迷惑をかけてしまうというプレッシャーや同僚の態度などまだまだ全然理解もないし、永遠に平行線であるなと感じます。みんなが思いや

りのある社会に少しでもなってほしいです。

27. 女性が家事や育児、介護の負担をさせられがちなのは女性が働かないからである。男性は仕事において全国転勤をはじめとする、多くのリスクや負担を負っている。男性は家庭を維持するために、理不尽だと思えることでも我慢して仕事してお金を稼いでいる。むしろ、男性は週5日9-17時（場合によっては残業）という勤務体制を押し付けられており、専業主婦や時短パートという選択肢を選べる女性の方が優遇されている。この社会全体の風潮、仕組みを変えなければ、現状は変わらない。
28. 男性・女性という区別ではなく、個性や個々の能力を尊重し、仕事や家族のあり方及び社会生活が充実したものになればよいと思う。
29. 人権を守ることは当然のごとく大切なことであるが、「～ハラスメント」という言葉が多く、過剰反応になりすぎて生き辛い社会になっていると思う。
30. 個々は違って当然であるとともに互いを尊重し、個々が互いに補いあえる社会を作り上げていくことが必要です。

<家庭・学校教育における男女共同参画意識について>

1. 私は昭和の人間なのでやはり子育ては母親と基本的には考えます。そうしたい女性が余裕と、誇りをもって取り組める社会になってほしいと願います。その為には父親の安定収入が欠かせないと考えます。しかし女性にしか出来ない女性が必要とされる仕事には社会も家庭も協力（共力）的な環境づくりが必要とも思います。
2. 小中高で教育することで子どもがママ、パパに育てるよ。
3. 私たちが子育てしていた頃専業主婦がほとんどで（初めての子の時）末っ子が小学生になる頃には、1年生のクラスの半分以上がフルタイムで働かれていました。私も妊娠とともに、義母から仕事はやめるように言われ、保育園の空きもなくやめてしまいました。今は、保育も充実し会社もいろいろと気遣いをしてくれているようです。我が子も含めて、家は男女だけでなく、周りの環境にばかり頼りすぎている気がします。親として古いのかもしれませんが…法だけでなく、まずは足元をしっかり見てほしいと思います。
4. 私は都外で教員をしていますが、子どもたちにとっても、このようなことを考えさせることは大切だと思います。我が子にも、ぜひよい教育の場をお願いしたいと思います。
5. 介護については共働きでも帰宅時間が早い、家にいる時間が多いという理由で女性に任せるのが納得がいかない。
6. 狛江市はこども園が充実していて、市役所での相談、対応も素晴らしいです。子育てと仕事の両立に役立ちました。
7. 職場環境や家庭環境によっても個人の尊厳や人権のあり方、考え方はそれぞれだと思うが、人権や個人の尊厳等の教育を早くから始めて様々な個性を認めていく社会の実現が望ましいと感じます。

<女性の社会進出について>

1. 女性が参画しやすい環境を整えるというよりは、参画しにくくなっている原因を排除すべきかと思っています。妊娠・出産に対応するための休暇を取ることができる制度を整える風潮がありますが、結局ブランクが空いてキャリアが不利になりがちであることは個人の責任であるとされたままで、それらの問題が個人の努力によって解決すべきものであるとされる環境では出産・子育てはリスク以外の何物でもないと感じます。加えて現政権が共同親権の法案を無理に通そうとしていることを踏まえると、自分の身を守るために、妊娠・出産・育児はライフプランから除外せざるを得

ません。

2. 私は基本的には男性は仕事、女性は家庭にいるのがよいと思いますが、仕事においては、女性の参画に賛成で、もっと女性の意見を言えるような職場環境をつくるべきであると考えています。日本の女性は内向的で自分の意見をはっきり言えない人が多い為、損をしている部分が多数あると思います。
3. 仕事をしたい女性ばかりではない。専業主婦と言って何もせずただ家に居るだけではなく、きちんと働いてほしい。
4. 大学入試における女子枠の創設や企業の役員・管理職の女性登用を積極化するなど、女性の社会進出を促すためにポジティブアクションを行うことは男性に対する差別である。そもそも、その大学・職位を目指す男女比が1:1でないのであれば、組織の男女比が1:1にならないのは当然である。そして、男女比を1:1にするために強引に性別で区切りを作ることは、男女で倍率の異なる競争をすることになり、平等どころかむしろ大きな不平等であり、男女の分断を生む。大切なことは、ある人物がその進路を目指す際に性別による制約をなくすという機会の平等であり、男女比という結果の平等だけに囚われて施策を行うことは全く理にかなっていない。女性の比率を上げるためには女性の応募数を増加させることから始めるべきであり、ポジティブアクションは下駄を履かせていると思われかねない愚かな施策である。

<市の施策について>

1. 市の男女共同参画施策に関する市民への情報公開、啓発、説明、方針等今迄成されてないように思うし、市民への要望聴取等々も聞いたことがない。市が考えている施策を説明し、それに関する意見具申を求めた方が良いのでは？
2. 男女共同参画は当たり前で能力のある女性が政策の決定の場で実力を発揮出来る狛江に期待しています。いろいろな立場の人からの意見を取り入れて、教育の場でも介護の場でも市民の暮らしやすいまちづくりを切に望みます。
3. 男女共同参画施策の一層の推進。総合的に見て、狛江は住みやすいまちだと思います。益々の発展を望みます。
4. やりすぎて男性の良さ、女性の良さが失なわれないように、健全なバランス感覚のある施策を望みます。公金が無駄に使われたり、何でもハラスメントのレッテル貼りをするような動きも、なんとかしてほしいです。
5. 『促進』『充実』などの語が並んでいますが、何より“実行”が大切かと思います。勇気と決断をもって実行して下さい。
6. 広報活動に力を注いでほしいです。せっかく良いサービスや体制が整っていても、それらを知らないと利用することもできないので、発信力⇨広報活動を活発にしてほしいです。
7. 狛江市で男女共同参画の取組がされていることすら知らなかった。周知不足ではないか。市職員・市議の男女比を50:50、女性市長など、目に見える改革を進めた方が、アピールとなるのではないのでしょうか？
8. 男女共同参画施策は、若い世代におろして考えるべきだと思う。特に独身の若い世代が興味、関心を持って関わる形であってほしい。若い人たちが共に生活を設計していく上で、結婚であり、子育てが自然と生まれて来る。現在の少子化が大きな問題となっていることを考えると、将来的に、若い人達の意識の変化を促すことがこの施策の大きなベース（土台）となるように思う。(※)結論 狛江市の人口（子ども）が増えること。そして社会人（親）として、狛江の発展に尽くす。（この施策を含む。）
9. 男女共同参画が促進された場合、社会的にどのような利点があるのか、具体的に分かりやすく市

民に説明して納得を得る努力をすること。

10. 小さなまちなのだから、そんなことよりも、より現実的な課題に集中してほしい。防犯、防災、子育て支援などの遅れを解消する方が優先。
11. このようなアンケートを実施していただいたので、市としての取組を評価したい。ただし、このアンケートの結果を速やかに実現していただきたい。また、選択肢は、良い選択肢が多かったので、上位のものだけを実施するというのではなく、すべてを実施していただきたい。
12. 住民が増えて、お店が増えて、女性が働ける職場が増えると良いと思うので、多くの人に移り住む魅力的なまちづくりを推進していただきたい。
13. 意識が変わらないと何も変わらないと思うので、意識改革は大切と思う。狛江市は小さいけれど一体感があり大好きです。世田谷区で育ち、狛江市に引越してきた時は正直都落ちくらいに思っていましたでしたが、気づけば狛江のいろんなイベントに参加したりしてすっかり狛江の暮らしが気に入っています。
14. この15年ぐらいで、人をつまわしたり（特に男性）人に迷惑をかけても（男女共に）平気な人が増えたように思われます。それまではあまりそんな事もなかったもので、人に迷惑をかけず、思いやり、男女の別なく心豊かな人々の住む狛江市に戻ってほしいと思います。その為にも安全安心を強化していただければと思います。
15. 大手の企業では男女共同参画に関するさまざまな施策が行われています。きっかけさえあれば、それを市の政策決定にかかわる活動に活かしたいと考えています。男女共同参画推進委員会などの募集がどこで行われているのか知りたいです。
16. 80近くの女性。無作為に選んだとのこと主人共々健康であり現状維持が出来れば何も望むことはない。無作為ではなく、もっと若い人達ちの声を聞いた方がよいと思う。
17. 難問ですが人口増加の為にも子育ての意義、楽しさ、愛のすばらしさ等の教育と、狛江市警護の強化をお願い致します。
18. そもそも狛江市で男女共同参画施策を行っている知りませんでした。DVの項目がありましたが、狛江市役所で困り事を相談しようと思にくいです。疑うわけではなく、信用していないなどではありませんが、手続きに行くと市民側も職員側も声が大きいな話丸聞こえです。個人の相談事が少しでも漏れる可能性があるなら東京都へ相談するという選択をします。相談をして個人情報を知られる。意見を言って考えを知られる。その職員の人が口が固い保障はなく、ましてや同じ狛江市に住んでいて、スーパーや薬局などでばったり会う可能性があるのではなおさら相談などしにくいです。
19. 相手を思いやる心を大切にして生活できるまちを作ってください。
20. 女性が負担することの多い、家事・育事・介護における公的なサービス・施設の充実、その主たる世代へのサポート、女性が環境がいいまちと思えば、市内への引越し、住民の増加は見込めると思う。
21. さまざまな組織・機関は既にあると思います。が、それらを適切に利用する側の意識が不足しているように思います。困った時には充分助けて下さる機関はあると思いますし、私自身も助けていただいた経験がありとても感謝しています。
22. 男女共同参画事業での成功事例を市の広報で積極的に紹介する。女性の社会進出と少子化問題の研究をして、対策する。
23. 机上で考えられたことだけではなく、当事者の声が反映される政策であってほしいと思います。
24. 学童を増やしてください。1～6年生まで希望する人はみんな行けるが理想です。空き地が出来たら家がどんどん建って、マンションが出来て、子どもが増えても箱はないでは困ります。男性女性問わず安心して働けません。

25. 男女共同参画は賛成であるが、現代もすでにそのような風潮であると思う。この問題以上にまだまだ重要な課題がありそれらに優先順位を付けて施策を打つことが重要なことではないか。
26. 狛江市役所の女性職員の比率はまだ30%にも満たないと思うが、まずは50%を超えれば実際の色んなパワーが開花するのでは。

<その他>

1. 最近では、20代、30代の若者と接する機会がほとんどないので男女の地位についての、若者の意識について良く知りません。ですから私の意識が片寄っているかもしれません。
2. 特に学校のPTA活動は、大きな問題だと思います。結局、平日昼間の活動で、女性（母親）がやるもの、という慣習がそのまま、どうにかならないかと思います。
3. このアンケートは、男女共同参画と言いながら、女性側に立った質問内容が多いと思います。女性が作られたものと推察します。何故かは分かりかねますが、もう少し平等性があるべき、質問をするべきだと思いますが、何か意味があるのかおうかがいしたいものです。無意味なものならこれは実施すべきではないです。
4. そもそも男女共同参画は女性だけ優遇する。こんなに女性だけ支援する。男にはメリットはない。
5. 主人と私の2人の生活を出来ない事は相手に頼み会話のある毎日を過ごしたいと考えています。（主人89、私88）まだまだ2人の生活を自分たちで出来る事を考え生活しています。先ず「無理をしない事」が第一歩と考えます。今この問題を考えるのは遅すぎです。
6. バランスのとれた年代構成にしてもらいたい。
7. 男性＝加害者、女性＝被害者という固定した発想をやめろ！！同性婚は団固反対、日本人、世界の人を絶滅させ何一ついいことはない。役割が同一でない以上区別は当然、100%の同一化は大反対。
8. 今回の調査対象の人選についての感想です。私は、現役を退いた60代後半の者です。正規ではなく再雇用で現在も勤務しておりますが、もちろん、子育ても終わり、孫もいます。介護は遠距離のため、直接は、担っておりません。どちらかという、ほぼ、終わりつつある人生。このようなアンケートの参考にはならない対象の人間かと思われま。す。「無作為選出」となっていますが、できれば、現在、社会で活動している方々の意見の方がより効果的で参考になるのではないのでしょうか。これからの開かれた社会を作っていくためにもぜひ、若い人たちのご意見を取り入れていただければと思います。
9. スーパーのレジで男性の方を見ない。シニアの方で（駅の駐輪を見張る人など）女性の方を見ない。そもそもそういう事なのでは…